

教科シラバス

= 2026（令和8）年度 =

三重県立稲生高等学校

◎◎ 目 次 ◎◎

■国語■

現代の国語	1
言語文化	2
文学国語	3
国語表現	5
国語演習Ⅰ(学)	7
国語演習Ⅱ(学)	8

■地歴■

地理総合	9
歴史総合	11

■公民■

公共	12
倫理	13
政治・経済	14
社会演習(学)	15

■数学■

数学Ⅰ	16
数学Ⅱ	18
数学A	20
数学B	22
数学演習(学)	23

■理科■

科学と人間生活	24
物理基礎	26
生物基礎	27
地学基礎	28
科学発展(学)	29

■保健体育■

体育／保健	30
-------	----

■芸術■

音楽Ⅰ	40
音楽Ⅱ	41
美術Ⅰ	42
美術Ⅱ	43
書道Ⅰ	44
書道Ⅱ	45

■英語■

英語コミュニケーションⅠ	46
英語コミュニケーションⅡ	47
論理・表現Ⅰ	48
アドバンスイングリッシュⅠ(学)	49
アドバンスイングリッシュⅡ(学)	50

■家庭■

家庭基礎	51
------	----

■情報■

情報Ⅰ	52
情報Ⅱ	54

■工業■

工業技術基礎	55
生産技術	56
自動車工学	57
自動車整備	59
企業実習(学)	60

■商業■

ビジネス基礎	61
ビジネスコミュニケーション	62
簿記	63
情報処理	64
ソフトウェア活用	65

■家庭（専門）■

フードデザイン	66
食文化	67
調理	68
食品	69

■情報（専門）■

情報産業と社会	71
情報の表現と管理	72
情報デザイン	73
コンテンツの制作と発信	75

■福祉■

社会福祉基礎	76
介護福祉基礎	77
生活支援技術	78
コミュニケーション技術	80
こころとからだの理解	81
福祉実践Ⅰ	82
福祉実践Ⅱ	83

■体育（専門）■

1年	
スポーツ概論	84
スポーツⅠ	85
スポーツⅤ	89
スポーツⅥ	90
スポーツ総合演習	92
専攻実技(学)	93
2年	
スポーツ概論	94
スポーツⅠ	95
スポーツⅡ	99
スポーツⅢ	109
スポーツⅤ	111
スポーツⅥ	112
スポーツ総合演習	114
専攻実技(学)	115
3年	
スポーツ概論	116
スポーツⅠ	117
スポーツⅡ	122
スポーツⅢ	132
スポーツⅣ	134
スポーツⅤ	135
スポーツⅥ	136
スポーツ総合演習	137
専攻実技(学)	138

■総合的な探究の時間■

	139
--	-----

教科・科目	国語・現代の国語(必修)	単位数 2 単位	履修学年 1 年
目 標	・ 社会で生きていくために必要な国語の知識を身に付ける。 ・ 論理的に考える力、自分の思いや考えを他者に伝える力を高める。 ・ 言葉を通じて積極的に社会に関わる意欲をもつ。		
使用教材	『改訂版 高等学校 現代の国語』（数研）『高等学校 現代の国語 準拠ワーク』（数研）『新 常用漢字必携 パーフェクトクリア』（尚文出版）		
評価の観点 ・ 評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	・ 定期考査、提出物、授業への取り組み状況等を主な評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ 随筆、評論から読みを発展させる。		・ 随筆、評論と様々な文章を読むことを通じて、人間や社会、平和、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・ 漢字や語句の意味、用法を理解する。
2	・ 作品を読んで、理論的に分析し、話し合う力をつける。		・ 論理の展開を確かめ、要旨を適切に理解する。 ・ 漢字や語句の意味、用法を理解する。
3	・ 言語活動の教材を通して、書いて伝える力、話して伝える力を身につける。		・ 話し方の工夫や書き方の基礎を学ぶ。 ・ 漢字や語句の意味、用法を理解する。
学習上の留意点	次の点をベースに学習する。 ①理解をするためには知識が必要である。 ②「聞く」「話す」「読む」「書く」を通して、言葉、さらには人間や命に対する感性を養う。		

教科・科目	国語・言語文化(必修)	単位数 2 単位	履修学年 1 年
目 標	・ 社会生活に必要な国語の知識を身に付ける。 ・ 各領域において論理的に考える力、それを他者に伝える力を高める。 ・ 言葉を通して積極的に社会に関わる。		
使用教材	『標準言語文化』（第一学習社）『標準言語文化 学習課題集』（第一学習社） 『新 常用漢字必携 パーフェクトクリア』（尚文出版）		
評価の観点 ・ 評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持とうとしている。
評価方法	・ 定期考査、提出物、授業への取り組み状況等を主な評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	・ 近現代の文学作品を通して、読みを発展させる。	・ 小説、詩と様々な文章を読むことを通じて、人間や社会、平和、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりする。 ・ 漢字や語句の意味、用法を理解する。	
2	・ 作品を読んで、人生の生き方や人権 などについて考えを深め、話し合う力をつける。	・ 論理の展開を確かめ、要旨を適切に理解する。 ・ 人物、情景、心情を把握する。 ・ 漢字や語句の意味、用法を理解する。	
3	・ 古典（古文）の世界に触れる。	・ 有名な古典作品に触れ、古文の基礎を学ぶ。 ・ 漢字や語句の意味、用法を理解する。	
学習上の留意点	次の点をベースに学習する。 ①理解をするためには知識が必要である。 ②「聞く」「話す」「読む」「書く」を通して、言葉、さらには人間や命に対する感性を養う。		

教科・科目	国語・文学国語	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	・近現代の様々な文学作品を読むことによって、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につける。 ・心情を読み取り、主体的かつ対話的で深い学習活動と「書くこと」の言語活動を通して、人間性を豊かにする。		
使用教材	『標準文学国語』（第一学習社） 『標準文学国語 学習課題集』（第一学習社） 『新 常用漢字必携 パーフェクトクリア』（尚文出版）		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持とうとしている。
評価方法	・定期考査、提出物、授業への取り組み状況等を観点別の評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・近現代の文学作品を通して、読みを発展させる。		・小説、詩と様々な文章を読むことを通じて、人間や社会、平和、自然などについて自分の考えを深め、発展させる。 ・漢字や語句の意味、用法を理解する。
2	・作品を読んで、人生の生き方や人権などについて考えを深め、話し合う力をつける。 ・戦争をテーマにした文学作品を読み、平和の尊さや命の大切さについて考える。		・物語の展開を確かめ、ストーリーを適切に理解しながら情景、心情を把握する。 ・修学旅行の事前学習として、戦争や平和について理解を深める。 ・漢字や語句の意味、用法を理解する。
3	・近現代の名作と言われる作品を丁寧に読み解く。		・有名な作品に触れ、その作品の文学史上の位置づけを意識しながら登場人物の心情を読み取る。 ・漢字や語句の意味、用法を理解する。
学習上の留意点	次の点をベースに学習する。 ①理解をするためには知識が必要である。 ②「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を通して、言葉、さらには人間や命に対する感性を養う。		

教科・科目	国語・文学国語	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	・近現代の様々な文学作品を読むことによって、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につける。 ・心情を読み取り、主体的かつ対話的で深い学習活動と「書くこと」の言語活動を通して、人間性を豊かにする。		
使用教材	『標準文学国語』（第一学習社） 『標準文学国語 学習課題集』（第一学習社） 『必携 国語総合セミナー』（浜島書店）		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	・定期考査、提出物、授業への取り組み状況等を観点別の評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・近現代の短編小説を中心とした文学作品を通して、読みを発展させる。		・短編小説の特色を理解し、登場人物の心情を丁寧に読み取る。 ・漢字や語句の意味、用法を理解する。
2	・名作と言われる文学作品を読み、作品の世界の豊かさを味わう。		・作品に使われている表現の特徴を理解し、作品の世界を十分に味わう。 ・漢字や語句の意味、用法を理解する。
3	・現代の小説を読み、登場人物の心情の変化を把握する。		・比較的時代や年齢の近い主人公の行動から心情を丁寧に読み取り、作品の世界を味わう。 ・漢字や語句の意味、用法を理解する。
学習上の留意点	次の点をベースに学習する。 ① 理解をするためには知識が必要である。 ② 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を通して、言葉、さらには人間や命に対する感性を養う。		

教科・科目	国語・国語表現	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しむ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
使用教材	『国語表現』（大修館）、『国語表現 基礎練習ノート』（大修館） 『ライトパーフェクト演習』（尚文出版）		
評価の観点 ・ 評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	表現に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字などを理解し、知識を身に付けることができる。	積極的に「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の学習に取り組み、自分の考えをまとめたり深めたりして、目的に応じて適切に言語を用いることができる。	表現に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図り、すすんで表現したりするとともに、伝え合おうとしている。
評価方法	・ 定期考査、提出物、授業への取り組み状況等を主な評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ 自己PRをする ・ 表現の基礎 ・ 国語常識の学習		・ 自分自身を客観視し、言葉で表現できるようにしたり、卒業後の人生を見据えて物事を相手に正確に伝えたりする力を養う。 ・ 文章を書く意味を考え、文章の書き方を学ぶ。 ・ わかりやすい表現を理解し、表現の工夫をする。 ・ 問題集などを使って基礎的な漢字や語彙、読解、文学史の学習をする。
2	・ 表現の実践（一） ・ 表現の実践（二） ・ 国語常識の学習		・ 通信や案内、伝達についての手紙の書き方を学ぶ。紹介文・宣伝文を書く。 ・ 記録や報告について、正確に伝わる文章の書き方を学ぶ。記録文やレポートを書く。 ・ 問題集などを使って基礎的な漢字や語彙、読解、文学史の学習をする。
3	・ 表現の実践（三） ・ 国語常識の学習		・ 意見や主張について、考えをまとめて発表したり、話し合いをしたりする。話し合いの形式を学ぶ。 ・ 問題集などを使って基礎的な漢字や語彙、読解、文学史の学習をする。
学習上の留意点	次の点をベースに学習する。 ①表現をするためには、自己の理解や知識が必要である。 ②伝える側でも受け止める側でも、相手を気遣い、尊重する気持ちが大切である。		

教科・科目	国語・国語表現	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しむ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
使用教材	『国語表現』（大修館）、『国語表現 基礎練習ノート』（大修館） 『ライトパーフェクト演習』（尚文出版） 表現に関するワークブック		
評価の観点 ・ 評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	表現に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字などを理解し、知識を身に付けることができている。	積極的に「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の学習に取り組み、自分の考えをまとめたり深めたりして、目的に応じて適切に言語を用いることができる。	表現に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図り、すすんで表現したりするとともに、伝え合おうとしている。
評価方法	・ 定期考査、提出物、授業への取り組み状況等を主な評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	・ 自己 P R ・ 履歴書の書き方 ・ 国語常識の学習	・ 進学、就職に向けて自分自身を見つめ、自分を P R する文章を作成する力を養う。 ・ 履歴書の書き方を学ぶ。実際の用紙に丁寧に書き、進路実現のための意識を高める。 ・ 問題集などを使って基礎的な漢字や語彙、読解、文学史の学習をする。	
2	・ 表現の実践（一） ・ 表現の実践（二） ・ 国語常識の学習	・ 原稿を作り、実際にスピーチを行うことで効果的な発表の仕方を学ぶ。 ・ 小論文の書き方を学び、実際に書くことで自分の考えを論理的に伝える力を養う。 ・ 問題集などを使って基礎的な漢字や語彙、読解、文学史の学習をする。	
3	・ 表現の実践（三） ・ 国語常識の学習	・ 高校 3 年間を振り返り、まとめの文章を作成し、4 月からの新生活のスタートに向けて準備する。 ・ 問題集などを使って基礎的な漢字や語彙、読解、文学史の学習をする。	
学習上の留意点	次の点をベースに学習する。 ① 表現をするためには、自己の理解や知識が必要である。 ② 伝える側でも受け止める側でも、相手を気遣い、尊重する気持ちが大切である。		

教科・科目	国語・国語演習I (学校設定科目)	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	・国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		
使用教材	『力をつける現代文 ステップ1』、『ほんものの力がつく現代語練習帳 ことのは』、自主制作のプリント 等		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	評論や小説、随想の文章読解に必要な文法・表現・語句・漢字などを理解し、修得する。	筆者の考えや主張、物語のストーリーをもとに、自分の考察をまとめ、発展させながら、目的に応じて適切な文章を書くことができる。	評論や文学作品に対する関心を深め、進んで表現し、伝える力を身につける。
評価方法	・定期考査、提出物、授業への取り組み状況等を観点別の評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	・ 評論 ・ 小説	・ 具体例と作者の主張を見分けながら、作者が何を主張しているのかを読み取る。 ・ 作者の自己の主張を論理に基づき展開した文章を読むことによって現代社会に対する視野を広める。 ・ 登場人物の心情をきちんと使い分け、会話、行動、情景描写から読み取る力を養う。	
2	・ 小説 ・ 随想	・ 登場人物の直接的な心理描写や出来事、行動から人物関係を押さえ、読解力を養う。 ・ 作者自身の見聞や体験をもとに書かれている文章が多いので、論理展開を読む力を習得する。	
3	・ 小説	・ 物語の状況、登場人物の動作や会話文などから、心情や人物相互の関係を考え、小説の読み方を習得する。	
学習上の留意点	・ 生徒の興味・関心を引き出し、設問にも工夫を凝らして常に新鮮さを出す。		

教科・科目	国語・国語演習Ⅱ (学校設定科目)		単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	・第2学年で学習した内容や成果をふまえ、さまざまな文学教材に触れることにより、読解を身につける。 ・読むこと、書くこと、話すことを通じて、総合的な言語能力を高める。			
使用教材	『力をつける現代文 ステップ1. 5』、『キーワードの卵』、自主制作のプリント 等			
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	評論や小説、随想の文章読解に必要な文法・表現・語句・漢字などを理解し、修得する。	筆者の考えや主張、物語のストーリーをもとに、自分の考察をまとめ、発展させながら、目的に応じて適切な文章を書くことができる。	評論や文学作品に対する関心を深め、進んで表現し、伝え合う力を身につける。	
評価方法	・定期考査、提出物、授業への取り組み状況等を観点別の評価対象とし、総合的に評価する。			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	・ 評論 ・ 小説		・ 具体例と作者の主張を見分けながら、作者が何を主張しているのかを読み取る。 ・ 作者の自己の主張を論理に基づき展開した文章を読むことによって現代社会に対する視野を広める。 ・ 登場人物の心情をきちんと使い分け、会話、行動、情景描写から読み取る力を養う。	
2	・ 小説 ・ 随想		・ 登場人物の直接的な心理描写や出来事、行動から人物関係を押さえ、読解力を養う。 ・ 作者自身の見聞や体験をもとに書かれている文章が多いので、論理展開を読む力を習得する。	
3	・ 小説		・ 物語の状況、登場人物の動作や会話文などから、心情や人物相互の関係を考え、小説の読み方を習得する。	
学習上の留意点	・ 生徒の興味・関心を引き出し、設問にも工夫を凝らして常に新鮮さを出す。			

教科・科目	地理歴史・地理総合(必修)		単位数 2 単位	履修学年 1 年（普通科）
目 標	・作業を加えながら身近に感じることができる地域を題材に、デジタル化された地図を含むさまざまな地図やGISを用いて、地理的情報を調べまとめる力を身につける。 ・世界の多様な生活文化についての理解を深め、世界情勢などさまざまな事柄を多角的に見る力を身につける。 ・地域や地球的課題と自らの生活とのかかわりを理解し、自分たちに今何ができるかを考察する力を身につける。			
使用教材	【教科書】改訂版 高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる（第一学習社）、新高等地図（東京書籍）			
評価の観点・評価基準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）	
	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な知識を身につけ、それらに関し、地図や統計、画像など地域に関する諸資料から有用な情報を選択・活用している。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地図や資料から読み取った情報を基に、地域性を踏まえ多面的・多角的に考察すると共に、自らの考えを文章にまとめたり他者と協議したりしている。	現代世界の地理的な諸課題に関し、原因や背景について主体的に追求し、諸課題の解決に向けて考えをまとめようとしている。	
評価方法	授業への取り組み状況，提出物，定期考査の結果を主たる評価の対象とし，総合的に評価する。			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 ・地球上の位置 ・世界の時差 ・世界地図の見方/使い方 ・デジタル化された地図 ・地理情報システムの活用 ・国家の領域と国境、領土問題 ・国家をこえた結びつき ・交通機関の発達と縮小する世界 ・情報/通信で一体化する世界 ・拡大する世界の貿易と物流 ・グローバル化と人の移動による結びつき		・グローバル化が急速に進んでいる現在では、平面で認識していた世界を、地球という球面で考えていかなければならないことを、地図を使った作業を通して学習する。 ・国家とは何かを考える。 ・交通・通信の発達と影響を理解する。 ・国家間の結合の活発化・複雑化を理解する。 ・人や「もの」の移動活発化について理解する。	
2	第2編 国際理解と国際協力 ・人々の生活に彩りを与える気候 ・「衣」「食」「住」から見る世界 ・暮らしを豊かにする産業 ・宗教と人々の暮らし ・人口問題 ・食糧問題 ・エネルギー問題 ・地球環境問題 ・世界の民族と民族問題		・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを理解する。 ・人々の生活様式の差異と変化を、地理的環境とのかかわりやグローバル化の視点から理解する。 ・産業の発展とグローバル化、情報産業の発達について理解する。 ・世界の人々がもつ民族性や言語、宗教を理解し、現在発生している民族問題の本質を考察する。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によってあらわれ方が異なることを理解する。	
3	第3編 持続可能な地域づくりと私たち ・地球規模で見る地形の姿と自然災害 ・変動帯の自然と防災 ・湿潤地域の自然と防災 ・私たちが出来る災害への備え ・地域調査の方法		・世界の変動帯の分布と災害の関係、地形や気候、土地利用と風水害の関係を理解する。 ・身近な地域で過去に発生した自然災害について把握し、地域性を踏まえた備えや対応の重要性について理解し、自然災害への備えや対応などを考察し表現する力を身につける。 ・地域における地理的課題の解決に向けた取組や探究する手法について理解し、課題解決に求められる取組などを考察し、表現する力を身につける。	
学 習 上 の留意点	社会の様々な問題を自分の問題として考えることができ，意見を述べるができるようにする。			

教科・科目	地理歴史・地理総合(必修)		単位数 2 単位	履修学年 2 年 (体育科)
目 標	・作業を加えながら身近に感じることができる地域を題材に、デジタル化された地図を含むさまざまな地図やGISを用いて、地理的情報を調べまとめる力を身につける。 ・世界の多様な生活文化についての理解を深め、世界情勢などさまざまな事柄を多角的に見る力を身につける。 ・地域や地球的課題と自らの生活とのかかわりを理解し、自分たちに今何ができるかを考察する力を身につける。			
使用教材	【教科書】改訂版 高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる (第一学習社)、新高等地図 (東京書籍)			
評価の 観点 ・ 評価基準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な知識を身につけ、それらに関し、地図や統計、画像など地域に関する諸資料から有用な情報を選択・活用している。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地図や資料から読み取った情報を基に、地域性を踏まえ多面的・多角的に考察すると共に、自らの考えを文章にまとめたり他者と協議したりしている。	現代世界の地理的な諸課題に関し、原因や背景について主体的に追求し、諸課題の解決に向けて考えをまとめようとしている。	
評価方法	授業への取り組み状況、提出物、定期考査の結果を主たる評価の対象とし、総合的に評価する。			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 ・地球上の位置 ・世界の時差 ・世界地図の見方/使い方 ・デジタル化された地図 ・地理情報システムの活用 ・国家の領域と国境、領土問題 ・国家をこえた結びつき ・交通機関の発達と縮小する世界 ・情報/通信で一体化する世界 ・拡大する世界の貿易と物流 ・グローバル化と人の移動による結びつき		・グローバル化が急速に進んでいる現在では、平面で認識していた世界を、地球という球面で考えていかなければならないことを、地図を使った作業を通して学習する。 ・国家とは何かを考える。 ・交通・通信の発達と影響を理解する。 ・国家間の結合の活発化・複雑化を理解する。 ・人や「もの」の移動活発化について理解する。	
2	第2編 国際理解と国際協力 ・人々の生活に彩りを与える気候 ・「衣」「食」「住」から見る世界 ・暮らしを豊かにする産業 ・宗教と人々の暮らし ・人口問題 ・食糧問題 ・エネルギー問題 ・地球環境問題 ・世界の民族と民族問題		・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを理解する。 ・人々の生活様式の差異と変化を、地理的環境とのかかわりやグローバル化の視点から理解する。 ・産業の発展とグローバル化、情報産業の発達について理解する。 ・世界の人々がもつ民族性や言語、宗教を理解し、現在発生している民族問題の本質を考察する。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によってあらわれ方が異なることを理解する。	
3	第3編 持続可能な地域づくりと私たち ・地球規模で見る地形の姿と自然災害 ・変動帯の自然と防災 ・湿潤地域の自然と防災 ・私たちが出来る災害への備え ・地域調査の方法		・世界の変動帯の分布と災害の関係、地形や気候、土地利用と風水害の関係を理解する。 ・身近な地域で過去に発生した自然災害について把握し、地域性を踏まえた備えや対応の重要性について理解し、自然災害への備えや対応などを考察し表現する力を身につける。 ・地域における地理的課題の解決に向けた取組や探究する手法について理解し、課題解決に求められる取組などを考察し、表現する力を身につける。	
学 習 上 の 留意点	社会の様々な問題を自分の問題として考えることができ、意見を述べるができるようにする。			

教科・科目	地理歴史・歴史総合(必履修)	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	- 世界と日本の歴史について、通史的な理解ができるようにする。 - 世界と日本の近現代の歴史を学ぶ中で、平和の尊さについて考え、平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性を自覚できるようにする。		
使用教材	・教科書「明解歴史総合」(帝国書院)		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	近現代史を中心とする世界と日本の歴史に関わる基本的な事柄についての知識を身につけ、資料等を効果的に活用する力を身につけている。	近現代史を中心とする世界と日本の歴史の展開から課題を見出し、考察する力を身につけている。	近現代史を中心とする世界と日本の歴史の展開に対する関心を高くもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
評価方法	定期考査・取り組みの様子・提出物の提出状況などを総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	歴史の扉 ・歴史と私たち ・歴史の特質と資料 近代化と私たち ・近代化への問い ・江戸時代の日本と結び付く世界 ・欧米諸国における近代化 ・近代化の進展と国民国家形成		- 身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解する。 18世紀の世界の貿易と日本への影響について、資料を読み取り、理解する。 - 市民社会と国民国家の形成、資本主義社会の確立について、資料を読み取り、理解する。 - 国民国家の展開と帝国主義について資料を読み取り、理解する。
2	・アジア諸国の動揺と日本の開国 ・近代化が進む日本と東アジア 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・国際秩序の変化や大衆化への問い ・第一次世界大戦と日本の対応 ・国際協調と大衆社会の広がり ・日本の行方と第二次世界大戦 ・再出発する世界と日本		- 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について資料を読み取り、理解する。 - 明治維新とその後の日本の変化やアジアの変容について、資料を読み取り、理解する。 - 国際秩序の変化や大衆化に関する資料を分析し、情報を適切に扱う技能を身につける。 - 国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦の経緯と各国の変化について、資料を読み取り、理解する。 - ヴェルサイユ体制と各国の変化について、資料を読み取り、理解する。 - 世界恐慌から第二次世界大戦の経緯について、資料を読み取り、理解する。 - 冷戦構造と、国連を中心とする国際秩序について、日本と関連づけて資料を読み取り、理解する。
3	グローバル化と私たち ・グローバル化への問い ・冷戦で揺れる世界と日本 ・多極化する世界 ・グローバル化のなかの世界と日本		- グローバル化に関する資料を分析し、情報を適切に取り扱う技能を身につける。 - 冷戦下の緊張と緩和の経緯と、日本の動向について、資料を読み取り、理解する。 1960～80年代の各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解する。 - 冷戦終結の課程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解する。
学習上の留意点	世界と日本の関わりに注目しながら、世界と日本の近現代史についての学びを深める。		

教科・科目	公民・公共（必履修）	単位数 2 単位	履修学年 1 年
目 標	日本国民であると同時に世界の一員である自覚と責任を育むとともに、政治や社会の主体的な形成者となるための知識、思考及び表現する力を習得することを目指す。		
使用教材	教科書「高等学校 公共～これからの社会について考える～」（数研出版） 問題集「公共準拠ノート」（数研出版）		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論できる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を含め、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることの大切さについて自覚を深めることができる。
評価方法	授業への取り組み状況，提出物，定期考査の結果を主たる評価の対象とし，3観点に基づき総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ・西洋近現代の思想 ・現代の諸課題と倫理 ・科学的・合理的な考え方 ・地球環境をめぐる問題 ・情報をめぐる問題		「便利」「快適」な現代社会のありようについて概観する。地球規模の環境問題にはどのようなものがあるかを理解する。地球環境問題と人間の諸活動との関わりについて理解し、より良い環境を次の世代に引き継ぐためにはどう考え、行動するとよいか考える。
2	第2章 公共的な空間における基本原理 ・民主社会の基本原理 ・日本社会の基本原理 第3章 ルールをつくり守る私たち ・法と契約 ・司法参加の意義		個人と社会の関わりを核に民主政治と基本的人権の形成過程に目を向け、人権の広がり的重要性を考える。国会と内閣の仕組みについて、世界の政治制度と対比しながら概観する。司法参加の意義を多角的に考え、法治国家とはどのようなものか、そして日本の裁判制度について理解する。
3	第4章 政治に参加する私たち ・政治参加と民主政治の課題 ・国際政治の動向 第5章 経済活動を行う私たち ・経済のしくみと産業の変化 ・市場経済のしくみと金融 ・国際経済の動向と課題 ・持続可能な社会づくりの主体となる私たち（課題研究）		国政と地方自治の関係性に着目して、世論形成と政治参加の重要性を考える。世界の政治体制のありように着目し、20世紀以来の国際政治の潮流をたどる。自由貿易と保護貿易の違いを理解し、国際社会の貿易について考える。平等で人権尊重の社会の実現には、偏見を取り除き、主体的に努力することが求められていることを理解する。図版や資料などの諸資料を適切に使用し、多様な課題について俯瞰し考察する力を身につける。国連の取り組みであるSDGsを達成するため、私たちができることを探究する。
学習上の留意点	社会で生起している様々な問題を自分のこととして考える資質・態度を養い、必要な情報と資料を適切に選択し、組み合わせ表現する主体的な態度を育成し、個々の意見を述べるができるようにする。		

教科・科目	公民・倫理	単位数 2 単位	履修学年 2 年（普通科）
目 標	人間としての在り方・生き方を思索し、先人の人生観・倫理観・世界観を学び、現代をどのように生きるかについて探究し、生きる力を高める。		
使用教材	教科書「倫理」（東京書籍出版） 資料（ICT 機器を使用）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	先人の思想家が重視した価値観や世界観を理解し、諸資料から倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	先人の思想家の価値観や世界観から自分自身の在り方・生き方について深く考える。また、社会的事象を思想面から捉え、公正に判断・表現できる。	よりよい社会の実現のため、現代の諸課題を主体的に解決しようとするができる。人間としての在り方・生き方について自覚し、自国愛と共に世界平和のために主体的に行動できる。
評価方法	授業への取り組み状況，提出物，定期考査の結果を主たる評価の対象とし，3 観点に基づき総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	第 1 章 人間の心の在り方 ・人間とは何か（人間の特質・青年期の課題） ・人間の心の働き（認知・感情と個性・発達） 第 2 章 ささまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ） ・哲学すること（人間と哲学） ・ギリシャの思想 ・宗教と社会		自己の生き方について「人間とは何か」という問いに関する思索や人間を特徴づける心の働きについて理解する。また、人間としての在り方、生き方について、さまざまな思想家が示してきた人生観、倫理観、世界観に関わる考え方を探究する。
2	・キリスト教 ・イスラム教 ・仏教 ・芸術 ・中国の思想 第 3 章 ささまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ ・近代と人間尊重の精神 ・近代思想の展開		哲学と宗教や民衆と宗教の関わりについて理解し、国と宗教との関係について考察する。 社会や世界の在り方と人間としての在り方・生き方について思索し、近代以降の思想家の考え方について理解し、現代人の価値観と比較する。
3	・人間観・言語観の問い直し ・他者、自然とのかかわり 第 4 章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ・日本人の精神風土 ・仏教と日本人の思想形成 ・儒教と日本人の思想形成 ・国学の思想 ・庶民の思想 ・西洋思想と日本人の思想形成 ・国際社会に生きる日本人の自覚 現代の諸課題と倫理		古来の日本人の心情や考え方、日本の思想家が取り組んできた思想課題について理解する。また、それらを受け継ぎグローバル化した現代を生きる中で、どのように自己を形成し、自分自身の在り方、生き方につなげるか思索する。 社会と文化に関する課題を自ら設定し、その課題解決に向けて、他者と対話しながら主体的に探究する。
学習上の留意点	社会で生起している様々な問題を自分のこととして考える資質・態度を養い，必要な情報と資料を適切に選択し，組み合わせ表現する主体的な態度を育成し，個々の意見をまとめ表現できるように留意する。		

教科・科目	公民・政治経済	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	日本国民であると同時に世界の一員である自覚と責任を育むとともに、政治や社会の主体的な形成者となるための知識、思考及び表現する力を習得することを目指す。		
使用教材	教科書「政治・経済」（東京書籍） 問題集「政治・経済 ワークノート」（東京書籍）		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、主体的に行動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を含め、自国を愛し、他国と平和的に共存することの大切さについて自覚を深めることができる。
評価方法	授業への取り組み状況、提出物、定期考査の結果を主たる評価の対象とし、3観点に基づき総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	第1編(第1章) 現代日本の政治 ・法と民主政治 ・基本的人権の確立 ・日本国憲法の制定と基本原理 ・立法、行政、司法の役割 ・現代政治の特質と課題		民主政治における多様な意見の合意・形成する過程 や仕組みを理解し、自分の考えをまとめたり、発信したりする力を身につける。また、現代政治の特質や課題について、主体的に考察する。
2	(第2章、3章) 現代日本の経済 ・市場経済のしくみ ・金融と財政のしくみと機能 ・日本経済の発展と現状 ・社会保障と福祉		社会生活を営むための市場経済のしくみ、財政や金融の機能について理解し、国民が豊かな人生を送るための政府の役割、国民の在り方について主体的に考察する。
3	第2編(第1章) 国際政治のしくみ ・国際社会と国際法 ・国際連合の役割と課題 ・国際社会における日本の役割 (第2章) 国際経済 ・戦後の国際経済体制 ・貿易と国際収支 ・世界経済の現状と課題		世界の政治体制や経済の仕組みについて、日本と対比しながら理解し、国際社会における日本の役割を考察する。また、自由貿易と保護貿易の違いを理解し、国際社会における貿易について考える。図版や資料などの諸資料を適切に使用し、国際社会の諸課題について解決策を探究する。
学習上の留意点	社会で生起している様々な問題を自分のこととして考える資質・態度を養い、必要な情報と資料を適切に選択し、組み合わせ表現する主体的な態度を育成し、個々の意見を述べるようにすることができるようにする。		

教科・科目	社会演習（学校設定科目）		単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	国際化および情報化が進む現代社会において、様々な社会事象や諸課題を生涯にわたり適切に判断し、解決できる力を養う。具体的には、政治、経済、国際関係、環境、福祉、生活といった、現代社会が抱える問題について、資料を読み解き、主体的に解決策を探究する力を習得させ、ニュース検定3級合格をめざす。			
使用教材	ニュース検定（3・4級）「時事力」基礎編...テキスト&問題集			
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）	
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や合意形成、社会参画を視野に入れ議論することができる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養され、主体的に行動できる。	
評価方法	授業への取り組み状況，提出物，定期考査の結果を主たる評価の対象とし，3観点に基づき総合的に評価する。			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	「政治」「経済」分野の諸問題について、資料を読み解きながら、確認問題をする。		資料を自ら読み解き、複眼的に考えることができる。	
2	「暮らし」「社会・環境」分野の諸問題について、資料を読み解きながら、確認問題をする。		資料を自ら読み解き、複眼的に考えることができる。	
3	「国際」分野の諸問題について、資料を読み解きながら、確認問題をする。		資料を自ら読み解き、複眼的に考えることができる。	
学習上の留意点	就職・進学面接試験にも役立つ、新しいニュースや話題について関心を持ち、自ら調べ考察する力の習得を目標とする。11月にニュース検定3級の受験を目指す。			

教科・科目	数学・数学Ⅰ(必修)	単位数 2 単位	履修学年 1 年 (体育科)
目 標	数と式、方程式と不等式、2 次関数、データの分析、図形と計量について新たな知識を習得し、基礎的な計算を反復することにより学力の定着を図り数学に対する興味・関心を高める。		
使用教材	教科書「数研出版」 最新 数学Ⅰ		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	基本的な概念・原理・法則を理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理するやり方や推論の方法などの技能を身につけている。	事象を数学的に捉え、多面的・発展的に考えることを通して、数学的な思考力、判断力、表現力が身につけている。	数学Ⅰの考え方に関心を持つとともに数学の大切さを認識し、積極的に数学Ⅰの学習に取り組む態度を身につけようとしている。
評価方法	定期考査・宿題テストの結果、授業での取り組み状況、課題等の提出物を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	数と式の計算 整式 整式の加法減法、因数分解 実数 数の分類、根号の計算 1 次不等式		中学校の内容を基本に、数と式・不等式の概念・原理・法則に興味・関心を持ち、基礎的な計算の反復をし、知識を習得する。
2	2 次関数 2 次関数とそのグラフ 関数、2 次関数とそのグラフ 2 次関数の値の変化 2 次関数の最大値・最小値 2 次関数のグラフと 2 次方程式 2 次関数のグラフと 2 次不等式		2 つの数量の関係を式・グラフを用いて考察し、2 次関数の値の変化・最大値、最小値・2 次方程式・2 次不等式に活用することができる。
3	データの分析 データの整理・代表値・散らばり 図形と計量 三角比 タンジェント、サイン、コサイン 三角比の応用・相互関係		具体的な例を用いてデータの整理・代表値・散らばり具合の考え方を理解する。 直角三角形を用いて考えられる計量の問題を三角比を用いて表現し、これを用いて鈍角の三角比・相互関係など具体的な事象を考察し、三角形の面積等を求めることができる。
学習上の留意点	数学Ⅰの内容を単に公式や定理を暗記し問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式定理などを理解し身につけ活用する。		

教科・科目	数学・数学Ⅰ(必修)	単位数 3 単位	履修学年 1 年 (普通科)
目 標	数と式、方程式と不等式、2 次関数、データの分析、図形と計量について新たな知識を習得し、基礎的な計算を反復することにより学力の定着を図り数学に対する興味・関心を高める。		
使用教材	教科書「数研出版」 最新 数学Ⅰ		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	基本的な概念・原理・法則を理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理するやり方や推論の方法などの技能を身につけている。	事象を数学的に捉え、多面的・発展的に考えることを通して、数学的な思考力、判断力、表現力が身につけている。	数学Ⅰの考え方に関心を持つとともに数学の大切さを認識し、積極的に数学Ⅰの学習に取り組む態度を身につけようとしている。
評価方法	定期考査・宿題テストの結果、授業での取り組み状況、課題等の提出物を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	数と式の計算 整式 整式の加法減法、因数分解 実数 数の分類、根号の計算 1 次不等式 1 次不等式	中学校の内容を基本に、数と式・不等式の概念・原理・法則に興味・関心を持ち、基礎的な計算の反復をし、知識を習得する。	
2	2 次関数 2 次関数とそのグラフ 関数、2 次関数とそのグラフ 2 次関数の値の変化 2 次関数の最大値・最小値 2 次関数のグラフと 2 次方程式 2 次関数のグラフと 2 次不等式 データの分析 データの整理・代表値・散らばり	2 つの数量の関係を式・グラフを用いて考察し、2 次関数の値の変化・最大値、最小値・2 次方程式・2 次不等式に活用することができる。 具体的な例を用いてデータの整理・代表値・散らばり具合の考え方を理解する。	
3	図形と計量 三角比 タンジェント、サイン、コサイン 三角比の応用・相互関係 三角形への応用 正弦定理・余弦定理・三角形の面積 鈍角の三角比	直角三角形を用いて考えられる計量の問題を三角比を用いて表現し、これを用いて鈍角の三角比・相互関係など具体的な事象を考察し、三角形の面積等を求めることができる。	
学習上の留意点	数学Ⅰの内容を単に公式や定理を暗記し問題を解くだけでなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解し身につけ活用する。		

教科・科目	数学・数学Ⅱ	単位数 3 単位	履修学年 2 年
目 標	式と証明・高次方程式、図形と方程式、三角関数における概念・原理・法則の理解を深め、基礎的な問題を反復することにより学力の定着を図り、数学に対する興味・関心を高める。		
使用教材	教科書「数研出版」最新 数学Ⅱ		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	基本的な概念・原理・法則を理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理するやり方や推論の方法などの技能を身につけている。	事象を数学的に捉え、多面的・発展的に考えることを通して、数学的な思考力、判断力、表現力を身につけている。	数学Ⅱの考え方に関心を持つとともに数学の大切さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしている。
評価方法	定期考査・宿題テストの結果、授業での取り組み状況、課題等の提出物を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	式と証明・高次方程式 多項式の割り算・分数式の計算 複素数・判別式・因数定理	数学Ⅰで習得した知識をもとに、方程式・式と証明の概念・原理・法則に関心を持ち、基礎的な計算を反復し、意欲的に取り組むことができる。	
2	図形と方程式 直線上・平面上の点の座標 直線の方程式・円の方程式 不等式の表す領域	図形と方程式の概念・原理・法則に関心を持ち、直線、円の方程式の問題に取り組む。 2つの数量の関係式・領域を図示することにより考察する。	
3	三角関数 三角関数の相互関係・性質	数学Ⅰで習得した知識をもとに、一般角を考え、三角関数を考える。	
学習上の留意点	数学Ⅱの内容を単に公式や定理を暗記し問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式定理などを理解し身につけ活用する。		

教科・科目	数学・数学Ⅱ	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	小学校高学年及び、1・2年次で習得した数学的な知識を基礎に、社会生活の基礎となる数学的な学力を身に付ける。数学Ⅱの知識をより深く身につけ、習得する。		
使用教材	「割合はかせ」・「速さはかせ」・教科書「数研出版」改訂版 最新 数学Ⅱ		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	基本的な概念・原理・法則を理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理するやり方や推論の方法などの技能を身につけている。	事象を数学的に捉え、多面的・発展的に考えることを通して、数学的な思考力、判断力、表現力が身についている。	「割合」や、数学Ⅱの考え方に関心を持つとともに数学の大切さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断する。
評価方法	定期考査・宿題テストの結果、授業での取り組み状況、課題等の提出物を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	割合の基本 百分率と歩合 食塩水と濃度 価格の割増し・割引き 速さの基本 速さの単位変換 旅人算	割合と速さの問題を中心に繰り返し復習することにより、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。	
2	指数関数と対数関数 指数の拡張 累乗根 対数の性質	数の規則性や累乗根などの新しい知識を用いて指数を自然数から有理数まで拡張することができることを理解する。 指数と対数の書き換えを理解させるとともに対数計算を習得する。 対数を使って桁数を答えることが出来る。	
3	微分と積分 平均変化率 微分係数 導関数 接線の方程式 導関数の応用 不定積分 定積分	微分と積分において基礎的な計算を反復することで興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。	
学習上の留意点	数学Ⅱの内容を単に公式や定理を暗記し問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式定理などを理解し身に付け活用する。		

教科・科目	数学・数学 A	単位数 2 単位	履修学年 1 年（普通科）
目 標	図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
使用教材	教科書「数研出版」最新 数学 A		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	基本的な概念・原理・法則を理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理するやり方や推論の方法などの技能を身につけている。	事象を数学的に捉え、多面的・発展的に考えることを通して、数学的な思考力、判断力、表現力が身についている。	数学 A の考え方に興味を持つとともに数学の大切さを認識し、積極的に数学 A の学習に取り組む態度を身につけようとしている。
評価方法	定期考査・宿題テストの結果、授業での取り組み状況、課題等の提出物を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	場合の数と確率 順列・組合せ 確率	集合の意味を理解し、順列・組合せの計算方法の定着を図り、それを利用して日常的な確率を求めることができるようにする。	
2	図形の性質 平面図形 空間図形	中学校で習得した図形の知識を発展させ、円や空間図形に対する知識を広める。また、作図をすることによって定理の意味を理解させ、関心を深める。	
3	数学と人間の活動 約数と倍数 1 次不定方程式 記数法	中学校で習得した基礎的な数の意味を理解し繰り返し練習することで基礎的な学力の定着を図る。また具体的な問題を通して、意欲的に取り組むことができる。 2 進数・16 進数に触れることによって、コンピュータの仕組みを知る。	
学習上の留意点	数学 A の内容を単に公式や定理を暗記し問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式定理などを理解し、日常生活に活用する。		

教科・科目	数学・数学 A	単位数 2 単位	履修学年 3 年（体育科）
目 標	図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
使用教材	教科書「数研出版」最新 数学 A		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	基本的な概念・原理・法則を理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理するやり方や推論の方法などの技能を身につけている。	事象を数学的に捉え、多面的・発展的に考えることを通して、数学的な思考力、判断力、表現力が身についている。	数学 A の考え方に興味を持つとともに数学の大切さを認識し、積極的に数学 A の学習に取り組む態度を身につけようとしている。
評価方法	定期考査・宿題テストの結果、授業での取り組み状況、課題等の提出物を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	場合の数と確率 順列・組合せ 確率		集合の意味を理解し、順列・組合せの計算方法の定着を図り、それを利用して日常的な確率を求めることができるようにする。
2	図形の性質 平面図形 空間図形		中学校で習得した図形の知識を発展させ、円や空間図形に対する知識を広める。また、作図をすることによって定理の意味を理解させ、関心を深める。
3	数学と人間の活動 約数と倍数 1 次不定方程式 記数法		中学校で習得した基礎的な数の意味を理解し繰り返し練習することで基礎的な学力の定着を図る。また具体的な問題を通して、意欲的に取り組むことができる。 2 進数・16 進数に触れることによって、コンピュータの仕組みを知る。
学習上の留意点	数学 A の内容を単に公式や定理を暗記し問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式定理などを理解し、日常生活に活用する。		

教科・科目	数学・数学 B	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
使用教材	教科書「数研出版」最新 数学 B		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	基本的な概念・原理・法則を理解し、知識を身につけている。事象を数学的に表現・処理するやり方や推論の方法などの技能を身につけている。	事象を数学的に捉え、多面的・発展的に考えることを通して、数学的な思考力、判断力、表現力が身につけている。	数学の考え方に関心を持つとともに数学の大切さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断する。
評価方法	定期考査・宿題テストの結果、授業での取り組み状況、課題等の提出物を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	数列 数列とその和 漸化式と数学的帰納法	簡単な数列とその和について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
2	統計的な推測 確率分布 仮説検定	確率変数とその分布について理解し，それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。 統計的な推測について理解し，それを不確定な事象の考察に活用できるようにする。	
3	数学と社会生活 数学を用いた考察 社会で用いられる数値や指標 変化をとらえる	社会生活などにおける問題を，数学を活用して解決する意義について理解するとともに，日常の事象や社会の事象などを数学化し，数理的に問題を解決する方法を知る。	
学習上の留意点	数学の内容を単に公式や定理を暗記し問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式定理などを理解し、日常生活に活用する。		

教科・科目	数学・数学演習（学校設定科目）	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	数学ⅠⅡと数学ABの一部の内容を主に扱う。数学的な考え方と、自然科学や生活との関わりについて考察する。問題に直面した際に計画的に解決作業を実行しその結果を他者に示す力をつける。		
使用教材	プリント		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	基本的な概念・原理・法則を理解し、知識を身につけている。事象を数学的に表現・処理するやり方や推論の方法などの技能を身につけている。	事象を数学的に捉え、多面的・発展的に考えることを通して、数学的な思考力、判断力、表現力が身につけている。	数学の考え方に関心を持つとともに数学の大切さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断する。
評価方法	定期考査・宿題テストの結果、授業での取り組み状況、課題等の提出物を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	数と式の計算・因数分解 高次不等式・2次不等式など データの分析	数と式・不等式の内容・概念・原理・法則に興味・関心を持ち、基礎的な計算の反復をし、知識を習得する。 実験や調査で得られたデータを数学的に分析する。	
2	2次関数の最大値・最小値など 三角比の相互関係など 三角関数	2つの数量の関係を式・グラフを用いて考察させ、2次関数の値の変化・最大値、最小値に活用することができる。 三角関数を使うことによって、x y 平面だけではなくグラフを考える。	
3	順列・組み合わせ いろいろな確率 余事象・反復試行など	公式や定理を暗記するだけでなく、規則性等から数列を予測して問題を解く。 確率の様々な問題について多様な考え方を理解し、応用して解く。	
学習上の留意点	数学の内容を単に公式や定理を暗記し問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式定理などを理解し、日常生活に活用する。		

教科・科目	理科・科学と人間生活(必修)	単位数 2 単位	履修学年 1 年
目 標	科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解し、科学的な考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。また、これからの身近な事物・現象に主体的に関わり、科学的に考察する態度を養うことを目標とする。		
使用教材	教科書（東京書籍 改訂 科学と人間生活） ワークブック、練習用プリントなど		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得し、科学的に探究する方法を身につけている。	観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現している。身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行うとともに、これからの科学と人間生活とのかかわり方について科学的・論知的に思考し、判断している。	身近な事物・現象に主体的に関わり、物事や現象が生活に与える影響に対して、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に考察しようとしている。
評価方法	定期考査、授業への取り組みの様子、実験レポート、課題等の提出状況を総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	情報伝達技術の発展 交通手段の発展と医療技術の発展 人間生活の中の科学 物質の科学 プラスチック、金属、リサイクル 衣料と食品 繊維、5 大栄養素	科学技術の発展が現代の人間生活にどのように貢献してきたか理解する。 日常生活にみられる身近な物質の素材となる材料の種類、性質、および用途について理解する。 日常生活にみられる衣料材料の性質や用途、食品中のおもな成分の性質について理解する。	
2	生命の科学 ヒトと生命現象 植物の生育、動物の行動、ヒトの視覚 微生物とその応用 生態系内の微生物、微生物の利用 熱や光の科学 熱の性質とその利用 熱運動、熱容量と比熱、仕事 エネルギーの移行、資源の有効活用 光の性質とその利用 光の発生と性質、電磁波の種類	植物の生育、動物の行動およびヒトの視覚と光とのかかわりについて理解する。 様々な微生物の存在と生態系におけるはたらき、微生物と人間生活とのかかわりについて理解する。 熱の性質、エネルギーの変換と保存および有効利用について理解する。 光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解する。	
3	地球や宇宙の科学 身近な自然景観と自然災害 地殻変動、災害と防災 身近な天体と太陽、太陽系	身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や、地球内部のエネルギーによる変動と関連づけて理解する。 太陽や月などの身近にみられる天体と人間生活とのかかわり、太陽系における地球について理解する。	

	これからの科学と人間生活	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察する。
学習上の 留意点	可能な限り、様々な実験・体験活動を行なう。結果を画像で紹介する。	

教科・科目	理科・物理基礎（必履修）	単位数 3 単位	履修学年 2 年
目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
使用教材	教科書（第一学習社 改訂 新物理基礎） ワークブック、問題プリント など		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究することで、考えを深めたり、表現したりできている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期考査、授業への取り組みの様子、小テスト、実験レポート、課題等の提出状況を総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	物体の運動とエネルギー （ア）運動の表し方 （イ）様々な力とその働き	・物体の加速度を理解し、等加速度直線運動について式やグラフで考えることができる。 ・物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 ・運動方程式の立て方について学習し、さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。	
2	物体の運動とエネルギー （ウ）力学的エネルギー 様々な物理現象とエネルギーの利用 （ア）熱 （イ）波	・仕事、仕事の原理、仕事率を学習し、物理における「仕事」について理解する。 ・運動エネルギーと仕事の関係について、式を用いて理解する。 ・熱と熱量を学習したのち、熱平衡、比熱、熱容量、熱量の保存について理解する。 ・波の伝わり方について理解し、振動数と周期の関係を理解する。 ・正弦波と波、振幅、波長、周期、振動数など、波の基本的な要素について理解する。	
3	様々な物理現象とエネルギーの利用 （ウ）電気 （エ）エネルギーとその利用 （オ）物理学が拓く世界	・電流や電圧とは何かを学習し、オームの法則について理解する ・太陽エネルギーと化石燃料の特徴について学習し、エネルギーの流れや問題点などを理解する。 ・物理学が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。	
学習上の留意点	・可能な限り、実験や演示を行うことで視覚的にとらえることができるよう工夫する。 ・問題演習を通して思考力を培うとともに、正確に計算ができる力も身に付ける。		

教科・科目	理科・生物基礎（必履修）	単位数 3 単位	履修学年 2 年
目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
使用教材	教科書(東京書籍 改訂 新編生物基礎) ワークブック、資料プリント、問題プリント、実験・実習用レポートなど		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	生物の特徴について、生物の共通性と多様性の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の共通性と多様性について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	生物の共通性と多様性に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期考査、授業への取り組みの様子、実験レポート、課題等の提出状況を総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	生物の特徴 生物の多様性と共通性 生物とエネルギー	・地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることを理解する。 ・生物と非生物の違いが何かを考えることを通して、生物と非生物を分ける基準が存在することを理解する。 ・生活のさまざまな場面でエネルギーを利用していることに気づく。 ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。	
2	遺伝子とそのはたらき 遺伝情報と DNA 遺伝情報とタンパク質の合成 ヒトの体の調節 ヒトの体を調節するしくみ 免疫のはたらき	・DNA の遺伝情報は、mRNA に転写された後、アミノ酸に翻訳されることで発現するという流れ(セントラルドグマ)を理解する。 ・ヒトは免疫のしくみによって、病原体などの異物から体を防御していることを理解する。	
3	生物の多様性と生態系 植生と遷移 生態系と生物の多様性	・植生の遷移についてモデル的な過程に基づいて理解する。 ・生物の関係性が種多様性に関わることを見いだし理解する。	
学習上の留意点	・生物そのものの観察や実験を通して生命を実感する。 ・できるだけ資料等を利用し、視覚的な捉え方を大切にする。		

教科・科目	理科・地学基礎（必修）	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。		
使用教材	教科書（実教出版 地学基礎 新訂版） ワークブック、資料プリント、問題プリント、実験用レポート		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できている。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。また、自然環境の保全に寄与しようとしている。
評価方法	定期考査、授業への取り組みの様子、実験レポート、課題等の提出状況を総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	地球の構成と運動 地球の構造 プレートの運動 地震と火山 大気と海洋 大気と海洋の構造と運動	- 地球の形の特徴と大きさ、内部の構造について、観察や測定の結果などから見だし理解する。 - プレートの特徴や分布、運動の様子を理解するとともに、大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けて理解する。 - 火山活動や地震に関する資料に基づいて、火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解する。 - 気圧や気温の鉛直方向の変化に関する資料に基づいて、大気と海洋の構造の特徴を見だせて理解する。	
2	大気と海洋 大気の大循環 海洋の構造と海水の運動 日本の四季の気象と気候 宇宙、太陽系と地球の誕生 宇宙の誕生 太陽の誕生 惑星の誕生と地球の成長	- 地球全体として大気を通して出入りする太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量がつり合っていることを理解する。 - 海洋の層構造と深層に及ぶ循環については、表層と深層で水温が違ふことや、表層と深層の間の循環などについて理解する。 - 宇宙の誕生、及び太陽系の誕生について理解するとともに、地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程を理解する。	
3	古生物の変遷と地球環境の変化 地層のでき方 化石と地質時代の区分 古生物の変遷と地球環境 地球の環境 日本の自然環境 地球環境の科学	- 地層や化石に関する観察などを行い、古生物の変遷などに基づいて古生代、中生代、新生代の地質時代が更に区分されることを理解する。 - 日本における自然環境の特徴を理解し、それらがもたらす恩恵や災害など、人間生活が自然環境と深く関わっていることを学ぶ。 - 地域の自然災害の実例や防災に関する資料、ハザードマップなどに基づき、地域の自然災害の特徴を理解する。	
学習上の留意点	できるだけ資料等を利用し、視覚的な捉え方を大切にする。		

教科・科目	理科・科学発展(学校設定科目)	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	主に生物分野、化学分野の発展的な問題を扱い、観察、実験を通じ、自然の物事・現象を科学的に考える資質・能力を育成し、探究する態度を養う。		
使用教材	東京書籍 高等学校 科学と人間生活・練習用プリント・副読本「生物」		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則への理解を深め、観察、実験の基本操作を習得し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、それらに科学的に探究しようとする意欲的な態度を身につけている。
評価方法	定期考査、授業への取り組みの様子、実験レポート、課題等の提出状況を総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	有機化合物 特徴と分類 構造式の決定	・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の構造式を決定するまでの過程を学習し、その原理を理解する。 ・有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	
2	生体物質と細胞 生命の基本単位 - 細胞 生物体を構成する物質 タンパク質の構造と性質 細胞膜の働きとタンパク質 細胞膜における物質の透過性と輸送 エンドサイトーシスとエキソサイトーシス 膜タンパク質を介した情報伝達 細胞接着に関わるタンパク質 有性生殖における遺伝的多様性 無性生殖と有性生殖 核相と性染色体 減数分裂と有性生殖による遺伝的多様性	・生物を構成する元素や物質に関心をもち、意欲的に学習する態度を示す。 ・生物を構成する主な元素は、酸素、炭素、水素、窒素であることを理解している。 ・タンパク質の一次構造、二次構造、三次構造、四次構造について理解している。 ・分子の大きさと膜の透過性との関係に関心をもち、意欲的に学習しようとする。 ・分子の大きさと膜の透過性との関係に関心をもち、理論的に考察する。 ・無性生殖と有性生殖の違いに関心を示し、積極的に理解しようとする。 ・無性生殖と有性生殖の特徴を科学的に理解し、説明できる。	
3	動物の配偶子形成 動物の配偶子形成 受精 動物の発生 受精卵と卵割 発生 器官の形成 動物の発生における形態形成のしくみ 動物のからだの基本構造と体軸	・配偶子の形成過程を理解しようとする。 ・配偶子の形成過程を科学的に理解する。 ・卵割の様式と卵黄の分布の関係について関心をもち、意欲的に理解しようとする。 ・卵割の様式と卵黄の分布の関係を理解している。 ・体軸の決定には母性因子が重要な役割を果たしていることを意欲的に学習しようとする。	
学習上の留意点	可能な限り、様々な実験、体験活動を行う。結果を画像で紹介する。		

教科・科目	保健体育・体育(必履修)	単位数 3 単位	履修学年 1 年（普通科）
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身につける。		
使用教材	・現代高等保健体育（大修館）		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価方法	・授業態度 ・技能テストや記録会、発表会 ・学習カードの内容 ・定期考査		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	■体づくり運動（7時間） 選択授業を展開している。 ■選択種目① 器械、陸上、武道、ダンス から1種目選択する。 体づくり運動を行う。 ■体育理論・・・現代高等保健体育「体育編」（2時間） 1章 スポーツの発祥と発展	*体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。 *生徒が本校で行える種目（器械、陸上、武道、ダンス）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。 *スポーツの歴史を知り変化する現代社会におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	
2	■体育理論・・・現代高等保健体育「体育編」（4時間） 1章 スポーツの発祥と発展 ■選択種目② 球技 から1種目選択する。 ゴール型、ベースボール型の種目から選択する。 ■選択種目③	*一人ひとりが生涯を通じてスポーツに積極的にかかわることができるよう、身近な地域でのスポーツの状況や活動内容、課題などへの理解を深める。 *生徒が本校で行える種目（球技）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。 *生徒が本校で行える種目（球技）の中から	

	球技 から1種目選択する。 ネット型の種目から選択する。 ■陸上（長距離走）を行う。	種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。 *長距離走を行い自己に適したペースを維持して走れるようになる。
3	■陸上（長距離走）を行う。 ■選択種目③を継続して行う。	*長距離走を行い自己に適したペースを維持して走れるようになる。 *生徒が本校で行える種目（球技）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。
学習上の留意点	・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。 ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで自主的に取り組み、自己の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	保健体育・体育(必修)	単位数 3 単位	履修学年 2 年 (普通科)
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身につける。		
使用教材	・現代高等保健体育 (大修館)		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価方法	・授業態度 ・技能テストや記録会、発表会 ・提出物の内容 ・定期考査		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	■体づくり運動 (7時間) 選択授業を展開している。 ■選択種目① 器械、陸上、球技、武道、ダンスから1種目選択する。 ■体育理論・現代高等保健体育「体育編」(2時間) 2章 運動・スポーツの学び方	*体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方などを理解するとともに、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び体づくり運動に主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 *生徒が本校で行える種目(器械、陸上、球技、武道、ダンス)の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。 *スポーツの合理的な動きを理解し、体力トレーニングによって身につけることや、効果的な学び方について理解を深める。 *一人ひとりが生涯を通じてスポーツに積極的にかかわることができるよう、身近な地域でのスポーツの状況や活動内容、課題などへの理解を深める。	
2	■体育理論・現代高等保健体育「体育編」(4時間)	*スポーツの合理的な動きを理解し、体力トレーニングによって身につけることや、効果的な学び方について理解を深める。	

	2章 運動・スポーツの学び方 ■選択種目② 器械、陸上、球技、武道、ダンスから1種目選択する。選択後、各種目に向けた体づくり運動を行う。①とは異なる種目を行う。 ■選択種目③ 陸上、器械、ダンス、球技、武道から1種目選択する。①②とは異なる種目を行う。選択後、各種目に向けた体づくり運動を行う。 ■陸上（長距離走）を行う。	*一人ひとりが生涯を通じてスポーツに積極的にかかわることができるよう、身近な地域でのスポーツの状況や活動内容、課題などへの理解を深める。 *生徒が本校で行える種目（器械、陸上、球技、武道、ダンス）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。 *生徒が本校で行える種目（器械、陸上、球技、武道、ダンス）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。 *長距離走を行い自己に適したペースを維持して走れるようになる。
3	■陸上（長距離走）を行う。 ■選択種目③を継続して行う。	*長距離走を行い自己に適したペースを維持して走れるようになる。 *生徒が本校で行える種目（球技、陸上、器械、ダンス、武道）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。
学習上の留意点	・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。 ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組み、自己の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	保健体育・体育(必履修)	単位数 3 単位	履修学年 3 年（普通科）
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身につける。		
使用教材	・現代高等保健体育（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価方法	・授業態度 ・技能テストや記録会、発表会 ・提出物の内容 ・定期考査		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	■体づくり運動（7時間） 選択授業を展開している。 ■選択種目① 器械、陸上、球技、武道、ダンスから1種目選択する。 ■体育理論・現代高等保健体育「体育編」（2時間） 2章 運動・スポーツの学び方	*体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方などを理解するとともに、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び体づくり運動に主体的に取り組むとともに、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 *生徒が本校で行える種目（器械、陸上、球技、武道、ダンス）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。 *スポーツの合理的な動きを理解し、体力トレーニングによって身につけることや、効果的な学び方について理解を深める。 *一人ひとりが生涯を通じてスポーツに積極的にかかわることができるよう、身近な地域でのスポーツの状況や活動内容、課題などへの理解を深める。	
2	■体育理論・現代高等保健体育「体育編」（6時間）	*スポーツの合理的な動きを理解し、体力トレーニングによって身につけることや、効	

	3章 豊かなスポーツライフの設計 ■選択種目② 器械、陸上、球技、武道、ダンスから1種目選択する。①とは異なる種目を行う。選択後、各種目に向けた体づくり運動を行う。 ■選択種目③ 器械、陸上、球技、武道、ダンスから1種目選択する。①②とは異なる種目を行う。選択後、各種目に向けた体づくり運動を行う。 ■陸上（長距離走）を行う。	果的な学び方について理解を深める。 *一人ひとりが生涯を通じてスポーツに積極的にかかわることができるよう、身近な地域でのスポーツの状況や活動内容、課題などへの理解を深める。 *生徒が本校で行える種目（器械、陸上、球技、武道、ダンス）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。 *生徒が本校で行える種目（器械、陸上、球技、武道、ダンス）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。 *長距離走を行い自己に適したペースを維持して走れるようになる。
3	■陸上（長距離走）を行う。 ■選択種目③を継続して行う。	*長距離走を行い自己に適したペースを維持して走れるようになる。 *生徒が本校で行える種目（球技、陸上、器械、ダンス、武道）の中から種目選択を行ない、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。
学習上の留意点	・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。 ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組み、自己の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	保健体育・保健(必履修)	単位数 1 単位	履修学年 1 年
目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身につける。		
使用教材	・現代高等保健体育（大修館書店）現代高等保健体育ノート（大修館書店）		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・授業態度 ・プリント、課題の内容、提出状況 ・発問評価 ・定期考査		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	1 単元 現代社会と健康 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復 6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 (P6～P35)	*健康の考え方や保持・増進の方法は、健康水準の向上や病気の傾向の変化に伴って変化してきていることを理解し、様々な保健活動や対策などが行われていることを理解する。 *健康を保持・増進するとともに、生活習慣病を予防するために、基本的な生活習慣である「食事・運動・休養・睡眠」の意義や役割についての理解を深める。 *喫煙者本人のみでなく、周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 *アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 *薬物乱用は、心身の健康に対して深刻な影響を与えることを理解し、絶対に薬物に手を出さない強い意志を身につけることができるようにする。	
2	12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復 15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり (P36～P56)	*感染症が発症する仕組みや、感染症の種類を知り、感染症の予防には適切な対策が必要であることについての理解を深める。 *H I V感染症・エイズについて正しい知識をもち、感染経路やその予防法についても理解を深める。 *心とからだの関わりを知り、心とからだの相互作用の一種としての精神的ストレスなどが引き起こす、心身症についての理解を深める。 *自らが受けているストレスについて知り、過度なストレスから自分を守るために様々な適応機制がとられることについての理解を深めると。 *自己実現への過程で、自らの心の中でどのような変化が起こっているのかについて正しく理解する。	
3	2 単元 安全な社会生活 1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全	*交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについての理解を深める。 *交通事故には責任や補償問題が生じることを知り、交通事故の防止のために行われている対策についての理解を深める。	

	4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法 (P57～P72)	* 応急手当の重要性を知り、傷病者の観察や 応急手当の正しい手順についての理解を 深める。 * 気道の確保・人工呼吸・心臓マッサージの 心肺蘇生法について、正しい手法を理解 し、身につけることができるようにする。
学習上の 留意点	・教科書を中心に展開する。 ・授業内容に沿ったプリント・ビデオによる学習も行う。 ・忘れ物がないように心がけること。 ・ノート・プリント使用した学習に対して解答を整理し提出すること。 ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分の生活行動と健康との関わりを考える。 ②生活や健康に適した環境を考える。 ③生涯の各段階の課題に応じた健康管理を考える。	

教科・科目	保健体育・保健(必履修)	単位数 1 単位	履修学年 2 年
目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身につける。		
使用教材	・現代高等保健体育（大修館書店）現代高等保健体育ノート（大修館書店）		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・授業態度 ・プリント、課題の内容、提出状況 ・発問評価 ・定期考査		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	3 単元 生涯を通じる健康 1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶 6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 8. 働くことと健康 (P75～P93)	* 心身ともに大人への過渡期である思春期に起こる心の成長について、男女の意識の違いなども含め理解を深める。 * 結婚に関する制度を知るとともに、家族の健康を保つために、どのような対策が必要であるかについての理解を深める。 * 受精のメカニズムを知り、妊娠から出産までの過程と、胎児と母体の変化についての理解を深める。 * 家族計画の意義や避妊法の特徴などを知り、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響および、人工授精・体外受精などの問題点についても理解を深める。 * 加齢に伴う心身の変化について知り、高齢化が進む社会で行われている施策や生活環境の整備についての理解を深める。	
2	9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活 4 単元 健康を支える環境づくり 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁・土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備 (P94～P109)	* わが国で行われている、保健行政について具体的な施策を知るとともに、医療制度の仕組みや医療機関についても理解を深める。 * 私たちの身の回りにある保健機関について、それぞれの機関がもつ役割について理解を深め、活用できるようにする。 * 大気汚染の原因を知るとともに、大気汚染によって引き起こされる健康被害について考え、大気汚染防止のための対策についての理解を深める。 * 私たち生物にとっての水の重要性を知るとともに、水汚染の現状・対策についての理解を深める。 * 土壌の役割について知り、土壌汚染の現状やその対策についての理解を深める。 * 産業廃棄物を処理する過程での不法投棄や不法な焼却などの問題点を知り、産業廃棄物による環境汚染を防ぐための施策についての理解を深める。 * わが国における上下水道の整備状況やゴミ処理方法について理解を深めるとともに、ゴミを少なくするための方策についての理解を深める。	

3	5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動 7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加 (P110～P129)	*食品による健康被害の種類を知り、このような被害を防止するために行われている施策についての理解を深める。 *労働と健康のかかわりについて理解を深める。また、職業の選択に当たって考慮すべきことについて考えることができるようにする。 *労働災害とはどのようなものかを知り、労働災害の原因や予防のための対策についての理解を深める。 *職業病とはどのようなものかを知り、職業病の原因や予防のための対策についての理解を深める。 *労働者の健康・安全を守るために、わが国で行われている施策について知るとともに、自らがとるべき対策についても理解を深める。
学習上の留意点	・教科書を中心に展開する。 ・授業内容に沿ったプリント・ビデオによる学習も行う。 ・忘れ物がないように心がけること。 ・ノート・プリントを使用した学習に対して、解答を整理し提出すること。 ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分の生活行動と健康との関わりを考える。 ②生活や健康に適した環境を考える。 ③生涯の各段階の課題に応じた健康管理を考える。	

教科・科目	芸術・音楽Ⅰ(必修)	単位数 2 単位	履修学年 1 年
目 標	演奏や鑑賞などの活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、演奏の基本的な技能を身につけ、グループ活動を通して、主体的・協働的に音楽と関わろうとする態度を養う。		
使用教材	教科書 (MOUSAⅠ・教育芸術社) プリント クラシックギター アルトリコーダー AV教材 chromebook		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	授業に取り組む姿勢、歌唱・楽器演奏の習熟度、ワークシートの記入を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ 斉唱曲・2部合唱の歌唱 ・ ギター(単旋律)の演奏 ・ 鑑賞		・ 曲種に応じたさまざまな発声について学ぶ。 ・ 曲の性格をとらえ、それぞれにふさわしい表現になるように工夫する ・ ギター奏法の基礎を習得する。 ・ 世界の様々な音楽の、仕組みや文化的背景を理解し、関心を持って鑑賞する態度を養う。
2	・ アルトリコーダー独奏、アンサンブル ・ 鑑賞 ・ ボディパーカッション ・ 創作		・ リコーダーの正しい奏法を身につける。 ・ ハーモニーを感じ取りながら演奏する。 ・ 楽曲の文化的・歴史的背景や演奏者による表現の特徴について理解を深める。 ・ ボディパーカッションやコップを用いたリズムアンサンブルを行う。 ・ 楽譜の正しい読み方を身につけ、リズムアンサンブルを創作する。
3	・ 歌唱 ・ ギターアンサンブル ・ 鑑賞		・ それぞれの曲にふさわしい発声を工夫する。 ・ 主体的に表現を工夫する態度を育成する。 ・ 1, 2学期に習得した器楽奏法を生かし、曲の構成や曲想を把握した表現を工夫する。 ・ 我が国の伝統音楽にふれ、その特徴について理解を深める。
学習上の留意点	・ 年間を通して鑑賞活動をし、落ち着いて学習する姿勢を身につける。 ・ グループ活動では協力し合って学習、表現活動を行うこと。		

教科・科目	芸術・音楽Ⅱ	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	・演奏、鑑賞などの活動により、音楽を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、音楽文化についての理解を深める。 ・音楽を知覚し、個性豊かな表現につなげる能力を伸ばす。		
使用教材	教科書（MOUSAⅡ・教育芸術社） プリント アルトリコーダー ギター chromebook A V教材		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について深く理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	授業に取り組む姿勢、歌唱・楽器演奏の習熟度、ワークシートの記載を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・歌唱 ・キーボード ・鑑賞		・声域の拡張と曲種に応じた豊かな発声、視唱力の充実を図る。 ・単旋律～両手での奏法習得を目指す。 ・パートの役割を理解してグループでキーボードアンサンブルを行う。 ・ミュージカル作品などのストーリーや楽曲、文化的背景を理解し、表現の特徴について理解を深める。
2	・ギター弾き語り ・鑑賞 ・創作		・コード奏法を習得し、弾き語りを行う。 ・ミュージカル作品などのストーリーや楽曲、文化的背景を理解し、表現の特徴について理解を深める。 ・作曲アプリを用いた作曲活動を行う。 ・旋律の変奏や演奏スタイルの変化などの技法を理解し、8小節のEDMの創作行う。
3	・器楽アンサンブル ・鑑賞		・これまでに学んだ楽器の奏法を生かし、重奏、合奏においては、楽器の特性を生かし、グループでアンサンブルする能力、各グループの違いを知覚し表現を工夫する能力を伸ばす。 ・我が国の伝統音楽である歌舞伎に触れ、音楽文化に対する理解を深める。
学習上の留意点	グループ活動では協力し合って学習、表現活動を行うこと。		

教科・科目	芸術・美術 I (必履修)	単位数 2 単位	履修学年 1 年
目 標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。		
使用教材	教科書(日本文教出版：高校生の美術 1)、デッサン用具、絵の具セット (アクリル絵の具)		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	美術作品や、美術文化などについて理解を深め、感性や想像力を働かせて価値や美意識を感じ取り、創造的な表現活動をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身につけ、表現方法を創意工夫して表現している。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、創造的・機能的で豊かな表現の構想を練っている。	美術文化に親しみ、主体的、創造的に美術の学習に取り組もうとする。
評価方法	授業に取り組む姿勢、作品、提出物を評価対象とし、総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・鉛筆デッサン ・平面作品制作 I ・鑑賞		・基礎を学び、観察力・描写力を身につける。 ・アクリル絵の具等の画材に触れ、表現の幅を広げる。 ・鑑賞力を身につけ、美術への興味関心を高める。
2	・平面作品制作 II ・映像メディア作品制作 ・鑑賞		・様々な画材を通し、色彩の基礎やデザイン表現の技術を習得する。 ・写真などを通じて、生徒自らが創意工夫をし、創作活動を通じて、自己表現を高める。 ・鑑賞力を身につけ、美術への興味関心を高める。
3	・立体造形制作 I ・鑑賞		・造形に関する様々な道具に親しみ、発想力や立体造形力を身につける。 ・鑑賞力を身につけ、美術への興味関心を高める。
学習上の留意点	・作品制作を通して、道具の用途や、表現に適した使い方を身につける。 ・鑑賞の活動を通して、多くの視点で観察する力を養う。		

教科・科目	芸術・美術Ⅱ		単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
使用教材	・教科書(日本文教出版：高校生の美術2)、デッサン用具、アクリル絵の具セット			
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	美術作品や、美術文化などについて理解を深め、感性や想像力を働かせて価値や美意識を感じ取り、創造的な表現活動をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身につける。また表現方法を創意工夫し、個性豊に表現することができる。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、創造的・機能的で豊かな表現の構想を練っている。	美術文化に親しみ、主体的、創造的に美術の学習に取り組もうとする。	
評価方法	授業に取り組む姿勢、作品、提出物を評価対象とし、総合的に評価する。			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	・平面作品制作Ⅰ ・鑑賞		・個性豊かな発想力・イメージ力を発揮し、表現することを通じて、創造の楽しさを感じ、表現を磨く。 ・鑑賞力を身につけ、美術への興味関心を高める。	
2	・平面作品制作Ⅱ ・映像メディア作品制作 ・鑑賞		・様々な画材を使用することによって、デザイン表現の技術を習得する。 生徒自らが課題を見つけ解決する能力を身につけさせる。 ・写真や映像作品を通して、生徒自らが創意工夫をし、創作活動を通して、自己表現・感性を高める。 ・鑑賞力を身につけ、美術への興味関心を高める。	
3	・デザイン作品制作 ・鑑賞		・主題にあった表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表現することを目指す。 ・鑑賞力を身につけ、美術への興味関心を高める。	
学習上の留意点	・作品制作を通して、道具の用途や、表現に適した使い方を身につける。 ・鑑賞の活動を通して、多くの視点で観察する力を養う。			

教科・科目	芸術・書道Ⅰ(必修)	単位数 2 単位	履修学年 1 年
目 標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理を深める。		
使用教材	大修館書店 新編・書道Ⅰ		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	創造的な書表現をするために、漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書の臨書活動を通して、効果的な表現の技能を身につけ表現している。	漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書のよさや美しさを感じ取り、自分の意図にあった表現を構想し、工夫している。	漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書の創造的活動の喜びを味わい、学習する内容に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価方法	学習活動への参加の仕方や態度を机間指導等で把握し、本時のポイントを毎時設定確認しながら、提出作品、提出状況等を総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	1. 書の世界へようこそ 2. 漢字の書の学習 ①楷書の学習 ②行書の学習		・執筆法、用筆法や用具・用材等、基本的な事項を理解する。 ・漢字と仮名の調和を図り、用筆・運筆を工夫して自分の意図に基づく表現の方法を学ぶ。 ・楷書古典の多様な表現の方法を臨書により学習する。 ・行書古典の多様な表現の方法を臨書により学習する。 ・楷書・行書の代表的な古典を鑑賞し、作者や時代背景などの知的理解をする。
2	③篆書の学習 ④篆刻の学習 ⑤隷書の学習 ⑥草書の学習		・篆書の基本点画・特徴を学習する。 ・落款印の制作を通して、その手順・方法を学習する。 ・隷書の基本点画・特徴を学習する。 ・草書の基本点画・特徴を学習する。 ・篆書・隷書・草書の代表的な古典を鑑賞し、作者や時代背景などの知的理解をする。
3	3. 仮名の書の学習 4. 漢字仮名交じりの書の学習		・平仮名を中心に、基本的な仮名の用筆法を学習する。 ・仮名の代表的な古典を鑑賞し、作者や時代背景などの知的理解をする。 ・これまでの漢字、仮名の学習をもとに、詩文、形式、用具・用材や構成などを工夫し、調和のとれた漢字と仮名の書表現の方法を学習する。
学習上の留意点	・硬筆は作成プリントを用い、年間を通じて適宜学習する。 ・毎時間、本時のポイントを設定確認して、基本的に毎時間作品を提出する。		

教科・科目	芸術・書道Ⅱ	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図る。また、表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。		
使用教材	大修館書店・書道Ⅱ		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	創造的な書表現をするために、漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書の創造的な臨書活動を通して、効果的な表現の技能を磨き表現している。	漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに表現を構想し、工夫している。	漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書の創造的活動の喜びを味わい、学習する内容に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価方法	学習活動への参加の仕方や態度を机間指導等で把握し、本時のポイントを毎時設定確認しながら、提出作品、提出状況等を総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	1. 篆書の学習 2. 隸書の学習	・篆書とはどんな書体かを知り、歴史的位置付けを理解する。 ・石鼓文、金文、甲骨文の鑑賞と臨書をととして、篆書の特徴を理解し、基本的な用筆・運筆、結構を習得する。 ・隸書とはどんな書体かを知り、歴史的位置付けを理解する。 ・乙瑛碑、木簡、石門頌などの鑑賞と臨書をととして隸書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解する。	
2	3. 草書の学習 4. 行書の学習 5. 楷書の学習	・草書の成立と歴史的位置付けを理解し、基本的な草書の学習により、草書の特徴を把握する。 ・書譜、十七帖の鑑賞と臨書をととして草書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、表現の多様性を理解する。 ・書道Ⅰにおける学習をもとに行書の多様な表現にふれ、学習を深める。 ・書道Ⅰにおける学習をもとに楷書の多様な表現にふれ、学習を深める。 ・学習した古典の表現を生かし、題材や形式を選択して漢字の書の制作を行い、相互に鑑賞批評を行う。	
3	6. 仮名の書の学習 7. 漢字仮名交じりの書の学習	・書道Ⅰの学習をもとに仮名の種類、特に変体仮名について学習し、理解を深める。 ・仮名の書の臨書や鑑賞をととして表現技法を習得し、短冊や散らし書き等の形式についても理解を深める。 ・これまでの漢字、仮名の学習を基に漢字仮名交じりの書の表現を行う。 ・詩文、形式、用具・用材、構成などを工夫し、漢字と仮名の調和を考え、自分の感性を表現する最良の方法を模索する。	
学習上の留意点	・硬筆は作成のプリントを用い、年間を通じて適宜学習する。 ・毎時間、本時のポイントを設定確認して、基本的に毎時間作品を提出する。		

教科・科目	外国語 英語コミュニケーションⅠ（必履修）	単位数 3 単位	履修学年 1 年
目 標	英語に興味を示し、自ら進んで学習できる力を身に付ける。知識としてだけでなく、それを積極的に運用できる英語力を養う。様々な題材を通し、国際感覚や国際協力の精神を養う。		
使用教材	「All Aboard! English Communication I」（東京書籍）		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	理解度を図る小テストを実施する。又、授業への積極性や態度、プリントなどの提出物の状況、定期テストの理解度等を総合的に判断して評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ Lesson 1 Breakfast around the World 過去形 ・ Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 進行形：〈be 動詞＋動詞の-ing 形〉		・ 世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 ・ 好きな食べ物について、英語で述べることができる。 ・ オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 ・ 好きな動物について、英語で述べることができる。
2	・ Lesson 3 A Train Driver in Sanriku 助動詞：can, will ・ Lesson 4 A Miracle Mirror to 不定詞：〈to＋動詞の原形〉		・ 被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。 ・ ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べることができる。 ・ 海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。 ・ 行ってみたい場所について、英語で述べることができる。
3	・ Lesson 5 Learning from the Sea 動名詞：〈動詞の-ing 形〉 ・ Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 受け身：〈be 動詞＋過去分詞〉		・ 高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える。 ・ 将来の夢について、英語で述べることができる。 ・ 江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 ・ 好きな絵について、英語で述べることができる。
学習上の留意点	考査や小テストの得点だけでなく、授業に対する姿勢や提出物も重視するため、日々の授業一つひとつを大切にしてください。		

教科・科目	外国語 英語コミュニケーションⅡ	単位数 4 単位	履修学年 2 年
目 標	英語に興味を示し、自ら進んで学習できる力を身につける。知識としてだけでなく、それを積極的に運用できる英語力を養う。 様々な題材を通し、国際感覚や国際協力の精神を養う。		
使用教材	「All Aboard! English Communication II 」（東京書籍）		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	小テスト、音読テストなどを実施する。又、授業への積極性や態度、プリントやノートなどの提出物の状況、定期テストの理解度等を総合的に判断して評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	Lesson 1 A Colorful Island 関係代名詞：what Lesson 2 With the Beatles 比較表現：more, the most Lesson 3 Wild Men it の用法	・ブラーノ島への旅行報告を SNS で学び、島の特色を知る。 ・海外の行きたい場所を英語で述べることができる。 ・リクエスト曲を通じて、世代を超えて人気のバンドを学ぶ。 ・人気のある人物について英語で話す。 ・ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。 ・身近な行事について、英語で紹介することができる。	
2	Lesson 4 Little Hero 間接疑問文 Lesson 5 Special Makeup in Kabuki to 不定詞を含む表現 Lesson 6 Seeds for Future Generations 動詞の目的語になる if 節	・ハチドリの記事と物語を通じて、努力と不屈の心を考える。 ・自分の好きな物語を英語で紹介することができる。 ・日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。 ・日本の伝統文化について、英語で説明することができる。 ・海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える。 ・地元で有名な場所やものについて、英語で説明することができる。	
3	Lesson 7 Over the Wall 関係副詞：where, when Lesson 8 Inspiration from Nature 知覚動詞 Lesson9 The Bitter Truth behind Chocolate 使役動詞	・世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習する。 ・世界の人々と交流する方法について、英語で述べることができる。 ・生物模倣についてのオンライン講演の授業を通して、自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習する。 ・自然界のデザインをヒントにした製品について、英語で発表できる。 ・チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する。 ・社会的な問題について、英語で意見を述べることができる。	
学習上の留意点	考査や小テストの得点だけでなく、授業に対する姿勢や提出物も重視するため、日々の授業一つひとつを大切にしてください。		

教科・科目	外国語 論理・表現 I	単位数 3 単位	履修学年 3 年
目 標	基本的な文法事項を学習し、簡単な英語で自分を表現する力を身につける。		
使用教材	「BIG DIPPER English Logic and Expression I」(数研出版)		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	基礎的な英文法に関する知識を深め、日本語と英語を比較し、その違いについて考える。	学習した文法事項を使って英語で表現できるようにする。	英語に興味を持ち、進んで英語を学ぼうとする。
評価方法	授業を受ける態度や積極性、各学期定期考査(中間・期末)のほか、小テスト、ノートや課題の提出状況などで総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	Lesson 1 はじめに①	・日常行うことや、天候などについて英語で表現できる。 ・日常行うことや、「～がある [いる]」という内容を、英語で表現できる。 ・名詞が、数えられるか、特定のものであるかなどを意識して英語で表現できる。 ・友人や食べ物などの、身の回りのことについて、英語で表現できる。 ・家族など、身の回りの人について英語で表現できる。	
	Lesson 2 はじめに②		
	Lesson 3 はじめに③		
	Lesson 4 My Friends		
	Lesson 5 My Family		
2	Lesson 6 Pastime	・余暇の予定や計画などについて、英語で表現できる。 ・自分の町や身の回りの状況について、英語で表現できる。 ・先生や学校での生活について、英語で表現できる。 ・催し物や行動・活動などについて、英語で表現できる。 ・有名人などについて、英語で表現できる。	
	Lesson 7 My Town		
	Lesson 8 Our Teachers		
	Lesson 9 Visiting a Museum		
	Lesson 10 Famous People		
3	Lesson 11 Reading	・読書や感情に関連する事柄などについて、英語で表現できる。 ・希望や目標、物事を行う方法などについて英語で表現できる。 ・助言や頼み事などについて英語で表現できる。 ・趣味やその他の日常の活動について、英語で表現できる。 ・休暇での出来事などについて英語で表現できる。	
	Lesson 12 Studying Abroad		
	Lesson 13 Advice		
	Lesson 14 Hobbies		
	Lesson 15 My Vacation		
学習上の留意点	考査や小テストの得点だけでなく、授業に対する姿勢や提出物も重視するため、日々の授業一つひとつを大切にしてください。		

教科・科目	外国語 アドバンスイングリッシュⅠ (学校設定科目)	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	英語を読むこと、聞くこと、話すこと、書くこと的能力を養い、実生活にて「使える英語」を学習する。英語検定 3 級合格程度の英語力を身につける。		
使用教材	自作プリントなど		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えている。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	授業態度、提出物、スピーキングテスト、リスニングテスト、筆記試験を、総合的に評価する。ALT との Team Teaching での成果も重視する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・英検を中心とした読解対策 ・英検の筆記・リスニング対策 ・ALT とのスピーキング活動		・簡単な挨拶や自己紹介ができる。 ・英検のそれぞれの大問を理解する。 ・基礎的な語を用いて、話すこと、書くことで自分の気持ちが表現できる。
2	・英検を中心とした読解対策 ・英検の筆記・リスニング対策 ・ALT とのスピーキング活動		・英文を書くための「型」について学び、25 語程度の英文で表現する。 ・自分の考えと理由の発想方法について学び、練習問題に取り組む。 ・英検の過去の問題や演習問題に取り組む。
3	・英検を中心とした読解対策 ・英検の筆記・リスニング対策 ・ALT とのスピーキング活動		・英文を書くための「型」について学び、35 語程度の英文で表現する。 ・自分の考えと理由の発想方法について学び、練習問題に取り組む。 ・英検の過去の問題や演習問題に取り組む。
学習上の留意点	会話表現を学習するため、ペアワーク、グループワーク、発音練習などの活動に積極的に取り組むよう心がける。		

教科・科目	外国語 アドバンスイングリッシュⅡ (学校設定科目)	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	英語を読むこと、聞くこと、話すこと、書くこと的能力を養い、実生活にて「使える英語」を学習する。英語検定 3 級合格程度の英語力を身につける。入試・就職試験対策		
使用教材	Active Practical Reading(導入編)・Hyper Listening・英検 3 級 10 分ドリル・自作プリントなど		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えている。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	授業態度、提出物、スピーキングテスト、リスニングテスト、筆記試験を、総合的に評価する。ALT との Team Teaching での成果も重視する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	・Active Practical Reading を使ったの英文読解 ・入試に出る英文法 ・就職試験に出る諺 ・ALT とのスピーキング活動	・簡単な挨拶や自己紹介ができる。 ・基礎的な語を用いて、話すこと、書くことで自分の気持ちが表現できる。 ・入試・就職試験対策。	
2	・Active Practical Reading を使ったの英文読解 ・英検を中心とした読解対策 ・英検の筆記・リスニング対策 ・ALT とのスピーキング活動	・リスニング力を伸ばす。 ・与えられたテーマに基づき、自分の考えを文章にまとめ、口頭で表現する。 ・入試・就職試験対策。英検、その他の過去の問題や演習問題に取り組む。	
3	・Active Practical Reading を使ったの英文読解 ・英検を中心とした読解対策 ・英検の筆記・リスニング対策 ・ALT とのスピーキング活動	・リスニング力を伸ばす。 ・与えられたテーマに基づき、自分の考えを文章にまとめ、口頭で表現する。 ・入試・就職試験対策。英検、その他の過去の問題や演習問題に取り組む。	
学習上の留意点	会話表現を学習するため、ペアワーク、グループワーク、発音練習などの活動に積極的に取り組むよう心がける。		

教科・科目	家庭・家庭基礎（必修修）	単位数 2 単位	履修学年 1 年
目 標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的知識と技術を習得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。		
使用教材	教科書「家庭基礎 明日の生活を築く」（開隆堂）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	家庭生活に関する基礎的・基本的な知識を総合的に身につけている。実習を通して、基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。	生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	家庭生活に関心を持ち、充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけようとしている。
評価方法	授業への取り組み状況、提出物、発表、定期考査の結果などから総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 青年期と家族・家庭 衣生活	家庭科の学習の意義や「家庭基礎」の内容・指導方針・評価の方法を理解する。ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動の意味を理解する。 様々なライフスタイルや価値観を知り、生涯発達の視点でとらえて自分の人生を考える。また、男女が相互に協力し、家族の一員としての役割を果たして家庭を築くことの重要性を理解する。 被服材料・被服整理などについて科学的に理解し、充実した衣生活を営むことができるようになる。 被服製作を通じて、縫製技術を習得し、作品を完成する達成感・喜びを知る。	
2	食生活 保育	栄養、食品、調理などについて科学的に理解し、食生活の文化に関心を持つ。 調理実習を通して、必要な技術を習得し、充実した食生活を営むことができるようになる。 食品の選び方や保存の方法、食中毒などに関する知識を身につけ、安全な食生活を実践できるようになる。 子どもの発達と保育、福祉について理解し、親の役割と保育の重要性や社会の果たす役割について認識し、保育への関心を持つ。	
3	高齢者 消費生活と持続可能な社会 住生活	高齢者の心身の特徴と多様性を知り、高齢者を取り巻く社会情勢について理解するとともに生活に関する課題の解決方法を考え、高齢者を支える心構えを身につける。 家庭の経済生活、消費者の権利と責任などについて理解する。現代の消費生活の課題について資源や環境に配慮し、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任を持って行動できるようにする。 住生活の文化に関心を持ち、住居の機能などについて科学的に理解する。	
学習上の留意点	作品の製作・ワークシート学習等では、最後まで自分の力でやりとげること。毎時間の授業を大切にし、自主的に発表するなど授業に参加していくことが重要である。		

教科・科目	情報・情報Ⅰ（必修）		単位数 2 単位	履修学年 1 年（体育科）
目 標	情報社会と支える情報技術の役割や影響を理解し、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得し、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を身につける。			
使用教材	『改訂版 高等学校 情報Ⅰ Next』（数研出版）			
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）	
	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	
評価方法	課題や作品の評価、実習に対する取り組み状況、各学期の実技テスト、筆記テスト、自己評価、発表会時の他者評価を含めて総合的に判定をする。			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア 第2章 情報社会における法とセキュリティ 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴		・情報とは何か、情報の信ぴょう性とは何かを理解し、クロスチェックの重要性を実感する。 ・個人情報保護の重要性や情報社会を支える法律・権利について学び、情報モラルを意識しながら情報を適切に扱うことができるようにする。 ・アナログとデジタルの違い、デジタル情報の特徴やメリットを理解する。 ・情報を発信するときのメディアの性質を知り、適切なメディアの選択ができるようにする。	
2	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第3章 情報デザイン 第4章 プレゼンテーション 第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ 第2章 プログラミング 第3章 モデル化とシミュレーション		・情報デザインについて、情報を抽象化・構造化・可視化する方法を習得し、表現を工夫できるようにする。 ・プレゼンテーションの流れと注意点を理解する。 ・コンピュータの基本的なしくみとはたらきを理解する。CPU、メモリ、補助記憶装置、入出力装置、OS、ファイルの基礎について理解する。 ・問題の解法について、アルゴリズムを用いて表現する方法を習得する。 ・モデル化やシミュレーションの考え方や手順を理解し、実際の問題解決に活用できるようにする。	
3	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース 第3章 データの分析		・コンピュータでの通信の基本的な方式やプロトコルについて理解し、インターネットでの通信の原理を学ぶ。 ・データを分析する前に必要となる、データの形式に関する知識やデータの収集方法、データの種類について理解する。	
学習上の留意点	上記の「学習のねらい」に書かれていることを達成できるように学習を進めてください。			

教科・科目	情報・情報Ⅰ（必修）	単位数 2 単位	履修学年 1 年（普通科）
目 標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器やネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。		
使用教材	『新編 情報Ⅰ』（東京書籍）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけるとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	課題や作品の評価、実習に対する取り組み、各学期の実技テスト、筆記テスト、自己評価、発表会時の他者評価を含めて総合的に判定をする。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	1 情報とメディアの特性 2 問題解決の流れ 3 発想法 4 情報モラル 5 個人情報の流出 6 傷つかない傷つけないために 7 著作権 8 情報技術の発展 9 情報化と私たちの生活の変化 10 よりよい情報社会へ		・「情報」とは何か、メディアの特徴や表現方式について理解する。 ・情報社会でよりよく生きるために、情報モラルにもとづいた行動や、定められている法規・制度について理解する。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学び、情報技術の適切な活用について理解する。 ・情報伝達のメディアの性質を知り、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を習得する。
2	11 コミュニケーション手段の特徴 12 ネットコミュニケーションの特徴 13 デジタルの世界へ 14 数値と文字のデジタル表現 15 音と画像のデジタル表現 16 色と動画のデジタル表現 17 目的に応じたデジタル表現 18 情報デザイン 19 ユニバーサルデザイン 20 情報デザインの流れ 21 コンピュータとは何か 22 ソフトウェアの仕組み 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現 25 プログラムの基本構造 1 26 プログラムの基本構造 2 27 発展的なプログラム 1 28 発展的なプログラム 2 29 モデル化とシミュレーション 30 シミュレーションの活用		・コミュニケーション手段の 1 つとして用いられているプレゼンテーションについて、その基本、重要性、手法を理解する。 ・情報デザインについて、情報を抽象化・構造化・可視化する方法を習得し、情報を伝える目的や受け手の状況をふまえた適切な表現方法を選択できるようにする。 ・コンピュータの基本的な構成を理解する。 ・問題の解法をアルゴリズムで表現する方法を習得する。 ・簡単なプログラムの作成を通してアルゴリズムやプログラミングの基本を理解する。 ・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解し、実際の問題解決に活用できるようにする。
3	31 ネットワークとインターネット 32 インターネットの仕組み 33 サーバとクライアント 34 インターネット上のサービス 35 情報セキュリティ 36 データの形式 37 データベースの活用 38 さまざまなデータモデル 39 データ分析の流れ 40 目的に合わせたデータの利用		・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルについて理解する。 ・データベースの概念を理解し、データベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解する。 ・データを分析する前に必要となる、データの形式に関する知識やデータの収集方法、データの種類について理解する。
学習上の留意点	毎授業でおこなうリフレクションシートでの振り返りや、疑問解決フォームなどを活用して、分からないことを解決していくようにしましょう。		

教科・科目	情報・情報Ⅱ	単位数 3 単位	履修学年 2 年
目 標	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用するための知識と技能を身につけ、適切かつ効果的・創造的に活用する力、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を養う。		
使用教材	『情報Ⅱ』（東京書籍）		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用している。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を適切に活用し、主体的に評価・改善しようとしている。
評価方法	課題や作品の評価、実習に対する取り組み状況、各学期の実技テスト、筆記テスト、自己評価、発表会時の他者評価を含めて総合的に判定をする。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	1. 情報社会の進展と情報技術 ・情報社会の発達と社会や人への影響 ・情報セキュリティの必要性 ・コミュニケーション手段の多様化 ・コンテンツの創造と活用の意義 ・人に求められる資質・能力の変化 ・将来の情報技術の社会 2. コミュニケーションとコンテンツ ・コンテンツの分析とメディアの組み合わせ ・プロトタイプの作成 ・コンテンツの発信・制作と改善	・インターネット、コンピュータ及び携帯電話などの情報技術の発達が社会や人の生活に与えた影響を理解する。 ・社会の変化に伴い、情報セキュリティ技術の必要性が増したことや情報セキュリティに関連する法律が整備されていることを理解する。 ・情報技術の発展や情報社会の進展の歴史を踏まえ、将来の情報技術と情報社会への影響について考える力を養う。 ・様々なコミュニケーションの形態において、どのようにメディアを組み合わせればよいかを理解する。 ・プロトタイプを作成する目的と重要性を理解する。 ・コンテンツ制作において、ユーザビリティ、ユーザインタフェース、アクセシビリティの重要性について理解し、コンテンツ制作においてこれらについて配慮できるようになる。 ・コンテンツ発信の手段ごとの特徴について理解し、適切なコンテンツ発信の手段を考える。	
2	3. 情報とデータサイエンス ・大量のデータの収集と整理・整形 ・分類による予測 ・ニューラルネットワークとその仕組み 4. 情報システムとプログラミング ・情報システム全体の情報の流れ ・情報システムの情報セキュリティ ・情報システムの評価・改善	・データの信憑性や信頼性について考え、データを処理する力を養う。 ・データ形式による違いや蓄積方法を選択することの重要性を理解し、適切なデータ形式と蓄積方法を考える。 ・大量のデータを収集する方法・データの整理・整形の必要性を理解し、そのための技能を身に付ける。 ・機械学習、AI、ディープラーニングの言葉の違いと関連を理解する。 ・ニューラルネットワークの概念と仕組みを理解する。 ・情報システムにおける、ユーザーが提供する情報と情報システムが提供する利便性を理解する。 ・情報システムにおける情報の流れや処理の仕組みについて理解する。 ・情報システムにおける情報セキュリティを確保する方法や技術について理解する。	
3	5. 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究 ・情報社会と情報技術 ・コミュニケーションのための情報技術の活用 ・データを活用するための情報技術の活用 ・コンピュータや情報システムの基本的な仕組みと活用	・コミュニケーションを適切に行うために、情報の科学的な見方・考え方を働かせ、多様なメディアを組み合わせることでコンテンツを制作するとともに、コンテンツを発信する方法を理解し、その技能を身につける。 ・データの処理・分析・可視化・評価のための手法・技能を身につける。 ・問題や解決方針を明確にし、分析・解決方法を適切に判断・思考できるようにする。	
学習上の留意点	上記の「学習のねらい」に書かれていることを達成できるように学習を進めてください。		

教科・科目	工業・工業技術基礎		単位数 4 単位	履修学年 2 年
目 標	工業に関する基礎的技術を実験・実習を通じ、専門分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解するとともに工業に関する広い視野と倫理観をもつことで工業分野の基礎的な考え方を習得する。			
使用教材	『工業技術基礎』（実教出版）、プリントなど			
評価の観点・評価基準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	工業技術基礎についての知識を習得する。基本的な工具の名称やその用途、正しい扱い方を知識として習得し、それを実技実習で実践することができる。	工業技術基礎の目的や必要性について考え、工業分野の基礎的な考えを身につける。	工業技術基礎の内容について意欲的に誠実な態度で取り組むことができる。	
評価方法	授業への取組状況、提出物（プリント、レポート）などを総合的に判断し、必要に応じて定期考査を実施し評価する。授業・実習への取り組み状況、意欲を特に考慮する。			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	工業技術機 の概念 人と技術と環境 安全作業の心構え		工業技術基礎の概念や目的について学び、工業分野の基礎的な考え方や知識を身につける。また、安全作業や報告書の作成などについて学ぶ。	
2	安全作業の心構え 基本作業 図面の表し方、工具の扱い方 手仕上げの方法 溶接作業		基本作業についての知識を習得する。 工業における基本的な図面の考え方を学び、基礎的な工具の名称と用途を習得する。また溶接作業等を通じて、金属加工の基本を習得する。	
3	材料についての基礎知識 旋盤の扱い方 直流回路の基礎知識		材料についての基礎知識を学び、どのような加工技術があるかを知識として身につける。また金属加工についても同様に学ぶ。電気の基礎として直流回路の概念や計算問題を通じて知識として習得する。	
学 習 上 の留意点	教科書やプリントにおいて基本的な事項を学び、その後で工作機械や計測器具・工具などを用いて実習を行うことで、知識と技術を習得する。また、資格取得に向けた学習も取り入れ、将来の進路実現に向けたキャリア育成を行う。			

教科・科目	工業・生産技術	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	工業の生産システムに関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を習得する。生産技術と社会の結びつきや電気・電子技術、計測・制御技術、生産技術とその管理とシステム技術についての知識と技術を習得する。		
使用教材	生産技術（実教出版）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	生産技術の各分野に関する基礎的な知識・技術を身に付け、自動化やネットワーク化を軸に理解するとともに、関連する電気・電子回路について理解している。	生産技術の基礎的な考え方や電気回路、制御システムに関する知識を活用し、自らの考えを文章にまとめたり、他者と協議したりすることができる。	生産技術に興味・関心をもち、生産性を改善する能力を有することを目指して、生産工業と社会とのかかわりについて主体的に取り組み、実践的な態度を身につけている。
評価方法	定期考査、授業への取組状況、提出物（プリント、レポート）などを総合的に判断し、評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	直流回路 オームの法則 抵抗の性質 電力と電流の熱作用	生産技術を学ぶにあたって、電気の基礎と考えられる直流回路について学び、オームの法則やキルヒホッフの法則、合成抵抗及び抵抗の性質などに関する知識を習得する。	
2	電流と磁気 磁気作用の応用 静電気 半導体 ダイオード トランジスタ	磁気や静電気に関する知識を習得し、生産システムに使用されている電動機や発電機など、磁気や静電気に関連した装置の構成や機能について理解する。 様々な分野で利用されている半導体について学習し、トランジスタやコンデンサなど、電子回路に関する知識を習得する。	
3	制御の基礎 コンピュータ制御 ロボットの基礎 生産の自動化システムの構成	センサやアクチュエータの基本的知識と制御技術を学習し、実践的な設備の制御についての知識を習得する。 産業用ロボットの変遷、分類、基本的な機構及び構成・昨日などについての知識を習得する。 コンピュータを活用した設計システムや生産管理についての基礎的な知識を習得する。	
学習上の留意点	日常生活に欠かすことのできない電気に関する基礎的な知識・技能について学習する。また、生産現場で活用される生産技術に関する学習を通して職業観についても考える機会とする。		

教科・科目	工業・自動車工学	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	現代までの自動車の成り立ちや自動車産業と社会との関わりについて学ぶ。自動車の重要性や車体構造及びエンジンの構造を中心に学習する。 また環境問題等についても触れ、今後の自動車産業や工業産業の在り方についても学習する。		
使用教材	・自動車工学1(実教出版) ・自動車工学2(実教出版) ・プリント		
評価の観点・評価基準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	自動車および自動車の各装置の構造と機能についての知識を習得し、理解する。自動車を構成する各装置の仕組みや機能について実際に活用し、簡単な計算ができる。	自動車の原理や自動車の普及に伴う社会問題について自ら学び、考えることができる。	自動車に関して幅広く関心を持ち意欲的に取り組むことができる
評価方法	定期考査、授業への取組状況、提出物(プリント、レポート)などを総合的に判断し、評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	自動車の歴史・現代の自動車 自動車と環境 自動車産業 ガソリンエンジンの仕組み		自動車の社会との関わり、社会との調和について理解する。 自動車のしくみとそれに関わる原理について、基礎的・基本的な内容を理解する。
2	ガソリンエンジンの構造・各部品について 動力伝達装置 走行装置 かじ取り装置		自動車用エンジンの主として用いられるガソリンエンジンについて、その仕組みや働き及び性能について理解する。 動力伝達装置・走行装置・かじ取り装置の構造と働きについて理解する。
3	ディーゼルエンジンの仕組み ハイブリット自動車 エンジン性能		ディーゼルエンジンの仕組みについて、その仕組みや働き及び性能について理解する。 また、ハイブリット自動車についても触れ、基本的な構造や仕組みを学ぶ。 エンジンの性能について学ぶことで、エンジン性能の評価方法や点検・整備に向けての基礎を学習する。
学習上の留意点	主に自動車のエンジンについて学習する。各部の構造や名称、働きや材質についての知識や技能を習得する。模型や実車を教材として用いる。		

教科・科目	工業・自動車工学	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	現代までの自動車の成り立ちや自動車産業と社会との関わりについて学ぶ。自動車の重要性や車体構造及びエンジンの構造を中心に学習する。 また環境問題等についても触れ、今後の自動車産業や工業産業の在り方についても学習する。		
使用教材	自動車工学 1 (実教出版) ・ 自動車工学 2 (実教出版)		
評価の観点 ・ 評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	自動車および自動車の各装置の構造と機能についての知識を習得し、理解している。 自動車を構成する各装置の仕組みや機能について、実際に活用したり、簡単な計算ができる。	自動車の原理や自動車の普及に伴う社会問題について、自らの考えを文章にまとめたり、他者と協議したりすることができる。	自動車に関して幅広く興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。
評価方法	定期考査、授業への取組状況、提出物（プリント、レポート）などを総合的に判断し、評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	動力伝達装置 クラッチ 変速装置 その他の動力伝達装置 走行装置・懸架装置とかじ取り装置	各種動力伝達装置と走行装置、懸架装置、かじ取り装置について学び、各装置についてに基礎的な知識を身につける。	
2	ブレーキ装置 ボデー・フレームと自動車の安全走行と性能	ブレーキ装置の構造について学び、自動車の安全性やその走行や性能についての基礎知識を習得し、関係法規と照らし合わせて学習することで知識を習得する。	
3	自動車の電気・電子技術	最先端の自動車について学び、電気・電子技術についての知識を深める。	
学習上の留意点	主に自動車の動力伝達装置について学習する。各部の構造や名称、働きや材質についての知識や技能を習得する。模型や実車を教材として用いる。		

教科・科目	工業・自動車整備	単位数 4 単位	履修学年 3 年
目 標	自動車の機能・性能を十分に発揮させ、安全かつ環境に配慮した自動車を提供できるように、自動車整備の基礎から応用を学習する。また、実習を通じて自動車部品の役割や構造を学び、基本的な工具や計測器具の扱い方を学習する。		
使用教材	自動車整備（実教出版）、プリント		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	自動車整備の目的や必要性、関係法規について理解し、適切な点検・整備を行うための知識を習得している。また、各種工具を安全かつ適切に使用することができ、点検や整備についての基礎的な技能を身につけている。	自動車整備の目的や必要性について考え、整備に必要な工具や環境を判断し、他社と協働しながら作業に取り組むことができる。	自動車整備に興味・関心を持ち、自動車と社会とのかかわりについて主体的に取り組み、実践的な態度を身につけている。
評価方法	授業への取組状況、提出物（プリント、レポート）などを総合的に判断し、評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	自動車の整備と関係法規 自動車の材料と加工法 エンジンの点検	整備の目的と大切さを理解させ、関係法規の知識を身につける。 自動車に関する金属材料の性質を知り、加工法の基礎的事項を理解する。 整備を行う前の点検について理解する。	
2	エンジン本体各部の点検・整備 エンジンの組立と調整 動力伝達装置 車輪・ブレーキ装置の整備	ガソリンエンジンの分解・点検・整備の方法を身につける。 ブレーキ装置の点検と整備の方法を身につける。車輪に関する基本的な知識の習得と整備について身につける。 測定機器の正しい使い方を身につけ、電気装置各部の整備の方法を身につける。	
3	電気装置 自動車の潤滑 自動車の性能試験	自動車の潤滑関係の知識について学ぶ。自動車の電気装置の役割や仕組みについて学び、知識を習得する。	
学習上の留意点	実車もしくは模型を用いた実習を通じて、自動車整備に関する基礎的な知識や技能を習得する。教員の指示を聞き、安全に配慮して作業を行う。		

教科・科目	工業・企業実習（学校設定科目）	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	実践的な職業知識や技術・技能の習得や職業的自立に向けて必要な基盤となる能力を身につける。地域社会を担う各企業の専門的知識・技術に触れることで、異世代とのコミュニケーションを図り「生きる力」を育む。		
使用教材	プリント		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	各受入先企業の専門的な知識を習得し、加工機械や工具の名称やその用途、正しい扱い方や知識を身につけている。また、各受入先企業で必要な技術・技能を身につけている。	企業実習の目的や必要性について自ら考え、工業分野の専門的な考え方を学ぶとともに、勤労観を養い、社会人としてのマナーを身につけている。	企業実習に興味・関心を持ち、各受入先企業での実習について主体的に取り組み、実践的な態度を身につけている。
評価方法	授業への取組状況、提出物（プリント、レポート）などを総合的に判断し、評価する。授業・実習への取り組み状況、意欲を特に考慮する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	企業実習に向けての準備 安全作業の心構え 単位換算 計測器具の扱い方 受入先企業での実習		企業内実習に向けての基本的な知識を身につける。安全作業についての知識を習得する。また、単位換算や計測器具の扱い方を学び、実習に必要な技術と知識を習得する。
2	受入先企業での実習		受入先企業にて実習に取り組むことで、専門的な知識と技術を習得する。また、社会人としての在り方やマナーや礼儀作法について学び、実践する。
3	受入先企業での実習 実習のまとめと発表		受入先企業にて実習に取り組むことで、専門的な知識と技術を習得する。また、社会人としての在り方やマナーや礼儀作法について学び、実践する。実習レポート等で実習内容を振り返り、1年間の学習内容をまとめる。また、他受入先企業の取り組み内容を知ること、専門的な知識を習得する。
学習上の留意点	受入先企業において工作機械や計測器具・工具などを用いて実習を行い、より専門的な知識や技能を習得する。また、実習を通じて働くことについても考える。校外に出かけるときは、特に服装・頭髪を整えること。また、教員や受入先企業の社員の指示をよく聞き行動すること。		

教科・科目	商業・ビジネス基礎	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	1. ビジネスに関する基礎的な知識や技術を習得する。 2. 経済社会の一員として望ましい心構えを身につける。 3. ビジネスの諸活動に適切に対応する能力や態度を身につける。		
使用教材	(教科書) ビジネス基礎 新訂版 実教出版 (7 実教 商業 7 0 1)		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用し、経済社会の一員としての望ましい心構えについて理解している。	ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	ビジネスについて関心を持ち、ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組む経済社会の一員としての望ましい心構えや実践的な態度を身につけている。
評価方法	学習活動への意欲・態度、実習課題、小テスト、定期テストの結果などを総合的にみて評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	1. 商業の学習とガイダンス 2. ビジネスに対する心構え	商業を学ぶ目的は何か、商業をどのように学んだら良いかを学習する。商業の学習分野にはどのような科目があるのか、また、それらの科目をとおして専門的能力を身につけることの重要性を学習する。 ビジネスに対する望ましい心構えやビジネスにおける基本的なマナーを身につける。自分の将来の進路について考える。	
2	3. 経済と流通 4. 取引とビジネス計算	生産から消費にいたる「流通」の意義について学習する。また、経済活動のなかでのビジネスの意義や役割について学び、経済環境の変化にどのように対応していくべきかを学習する。 売買契約や売買取引の流れなど、売買取引を行うために必要な知識を学習する。	
3	5. 企業活動 6. 身近な地域とビジネスの動向	流通に関わる、メーカー・物流業者・金融機関・保険業者・情報通信業者・サービス業者の行っているビジネスについて学び、その役割や仕事の内容について学習する。 企業の資金調達方法と指紋について学習する。 身近な地域の課題やビジネスの動向を学ぶ。	
学習上の留意点	・ 単元ごとの時事ニュースを取り上げ、興味関心をもたせる。 ・ 多くの事例を取り上げ、現在の経済社会の動きを説明し、ICT を活用し学習内容を深め商業に関心を持たせる。また、商業科目の各種検定に自ら進んで資格の取得が目標となるように授業を行ない、自発的に学習できるようにする。 ・ ビジネスマナーも身につける習慣を養う。		

教科・科目	ビジネスコミュニケーション	単位数 3 単位	履修学年 3 年
目 標	商業の見方・考え方を基本に、実践的・体験的な学習活動を通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。		
使用教材	ビジネスコミュニケーション（東京法令出版） 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 1 級 全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報 2 級		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を身に付けている。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を身に付けている。
評価方法	学習活動への意欲、態度、実習課題、テストの結果などを総合的に見て評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	1 編 1 章 企業の組織と人間関係 2 編 2 章 応対に関するビジネスマナー 3 章 交際に関するビジネスマナー 4 章 接客に関するビジネスマナー	・組織の構造と意思決定の関係を理解する。 ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。 ・名刺交換の方法と紹介のルールを理解し、実践する。 ・2 年次で習得した知識を基に、各分野に関する応用的な知識を習得し、それらを活用することができる。	
2	3 編 5 章 コミュニケーションの役割と思考方法 6 章 ビジネスにおけるコミュニケーション 4 編 7 章 コミュニケーションとビジネススキル 8 章 企業活動のグローバル化	・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。 ・ビジネスコミュニケーションの場面と心得を理解する。 ・プレゼンテーションツールを使い、分かりやすい発表を行うことができる。	
3	9 章 ビジネスの会話 1 0 章 ビジネス文書と電子メール 1 1 章 ビジネスにおけるプレゼンテーション	・ビジネスにおけるプレゼンテーションの基本構成について理解する。また、プロジェクタやレーザポインタ、オーディオ機器など、プレゼンテーションに必要なツールを利用する技術を身につける。 ・全商検定の問題演習を通して知識を深める。	
学習上の留意点	単元にあった時事ニュースを取り上げ、興味関心を持たせ、総合的な情報学習として、探究心をもって自主的な学習を行うこと。 実習教科なので、チャイムが鳴るまでにコンピュータ教室に移動をして機械を丁寧に扱う。		

教科・科目	商業・簿記	単位数 4 単位	履修学年 3 年
目 標	CBT 対応の学習を行い、商業の見方・考え方を基本に、実践的・体験的な学習活動を通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を身に付けるようにする。		
使用教材	(教科書) 簿記 (234 T A C 商業 713) (副教材) パーフェクトナビ全商簿記 3 級模擬問題集 全商簿記 3 級論点別ステップアップ問題集 (T A C 出版)		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	・簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その仕組みについて学習するとともに、適正な会計処理を行う技術を身に付けている。	・適正な会計処理を行うことを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わるものとして、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	・簿記について関心を持ち、適正な会計処理を行うことをめざして主体的に取り組む態度をもち、会計処理を行う実践的な態度を身に付けている。
評価方法	・定期テスト、小テスト、学習の振り返りなどを総合的にみて評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	1 簿記とは 2 簿記の 5 要素 3 貸借対照表 4 損益計算書 5 純資産の増減から当期純損益を計算する方法 6 収益と費用の差額から当期純損益 7 簿記上の取引から仕訳して転記	・簿記の 5 要素と、資産・負債・純資産について学習する。 ・貸借対照表の概要と作成方法を学習する。 ・損益計算書の概要と作成方法を学習する。 ・取引の 2 面性について学習し、取引を分解して仕訳して勘定に記入する方法を身につける ・転記の意味について学習し、転記の方法を身につける。	
2	8 仕訳帳と総勘定元帳・試算表への記帳方法 9 決算本手続き (精算表・P/L・B/S) 10 現金と預金の取引などの仕訳問題 11 その他の債権・債務の仕訳問題 12 固定資産の仕訳問題 13 個人企業の税金の仕訳問題	・売上原価の計算、貸倒引当金の見積もり、固定資産の減価償却 (定額法、直接法) ・現金として取り扱われるものについて学習し、その処理方法と現金出納帳の記帳方法を身につける ・掛け取引・手形取引以外の以下の債権・債務について、意味を学習し、処理方法を身につける。 ・固定資産の意味と種類を学習する ・事業税、固定資産税、印紙税、消費税の処理方法を身につける。	
3	14 伝票式会計と会計ソフトウェア 15 3 伝票制 16 伝票から総勘定元帳への転記 17 会計ソフトウェアの活用 18 会計ソフトウェアの表示例	・証ひょうと伝票の意味と種類、形式を学習する。 ・伝票の記入方法と総勘定元帳への転記方法を身につける。 ・コンピュータ会計の意義と、利点等について学習する。 ・コンピュータ会計の基礎的な活用方法について身につける。	
学習上の留意点	・ CBT による検定を受験をするため、検定協会から提供がある体験学習を行う。 ・教科書・プリント・DVD による学習をおこなう。 ・電卓は必需品なので必ず毎時間使用する。 ・宿題、提出物も多いので指示をしっかりと聞くこと。		

教科・科目	商業・情報処理	単位数 4 単位	履修学年 2 年
目 標	ビジネス社会で活用されているアプリケーションソフトの学習を通して、パソコン操作の基礎・基本を習得する。技術の習得を通して、技術を学ぶことの意義や役割や情報モラルについて理解する。		
使用教材	全商ビジネス文書実務検定 模擬試験問題集 2 級・3 級 全商情報処理検定 模擬問題集 3 級 7 実教 商業 7 1 5 最新情報処理 新訂版（実教出版）		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	ワープロや表計算ソフトを活用し通信文書や表・グラフ作成に関する基礎・基本が身につく、その重要性について理解している。	ワープロや表計算ソフトの基礎的な知識と技術を活用して、目的に合った表やグラフを作成する判断や創意工夫する能力を身につけている。	ワープロや表計算ソフトの活用についての関心を持ち、知識と技術の習得を目指して、意欲的に取り組んでいる。
評価方法	学習活動への意欲・態度、実習課題、小テスト、定期テストの結果などを総合的にみて評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	1 章 情報の活用と情報モラル 1 節 ビジネスと情報 2 節 情報モラル 3 節 ハードウェアとソフトウェア 2 章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理 1 節 情報通信ネットワークの概要 2 節 ビジネス情報の検索と収集 3 節 ビジネス情報の受信と送信 4 節 セキュリティ管理の基礎 3 章 ビジネス情報の処理と分析 1 節 基本的な表の作成 2 節 関数を利用した表の作成 3 節 グラフの作成	パソコンを利用した情報活用の重要性や情報モラルについて学び、目的に応じた機器の選択や利用ができる知識を身につける。 情報通信ネットワークを利用した、ビジネス情報の検索、電子メールの活用、個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について学ぶ。 表計算ソフトウェアの特徴を理解し、関数を利用して有用なビジネス情報を導き出すための技法を学ぶ。また、グラフを用いて表のデータをわかりやすく表現できるための作成方法を学ぶ。	
2	4 節 情報の整列・検索・抽出 5 節 ビジネスと統計 4 章 ビジネス文書の作成 1 節 ビジネス文書と表現 2 節 図形と画像の活用 3 節 基本文書の作成 4 節 応用文書の作成	表のデータの整列や検索の技法、目的に応じた適切な計算やビジネス予測などの傾向をとらえる力を習得させる。 文書情報が果たしている役割や種類について理解し、図形や画像情報の活用によって、効果が期待できることについて理解させる。 ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、基本的な社内文書や社外文書の作成に関する知識と技術を習得させる。また、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術を習得させる。	
3	5 章 プレゼンテーション	プレゼンテーション活動の目的や方法について理解し、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、発表用の資料の整理や作成などの準備から発表までのプレゼンテーション技法を習得させる。	
学習上の留意点	・コンピュータを使った実習教科なので、コンピュータ室利用上の注意事項を守り、機械を大切に扱うこと。 ・実習教科なので、チャイムが鳴るまでにコンピュータ室に移動し、すぐに授業が始められるよう各自準備すること。 ・与えられた課題をきちんとこなし、指示されたとおりに保存すること。保存ができていないと課題の提出にはならないので注意すること。		

教科・科目	商業・ソフトウェア活用	単位数 3 単位	履修学年 3 年
目 標	1.ビジネスに関する情報を、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術、情報モラルを身に付けるようにする。 2.ソフトウェアを利用した情報システムの開発について理解し、コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなど積極的に推進する創造的な能力と態度を身に付けるようにする。		
使用教材	ソフトウェア活用（東京法令出版社） 全商情報処理検定 模擬問題集 2 級		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や適切な方法や基礎的・基本的な知識を身につけ、ビジネスコミュニケーション業務を身に付けている。	習得した知識や技術を既有的知識や技術と関連付けたり、他の学習や生活の場面で活用したりすることを身に付けている。	自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながらよりよく学ぼうとしているかどうかという力を身に付けている。
評価方法	定期考査の成績と平常点で評価する。平常点は、検定の取得状況、小テスト、授業態度、課題や提出物などを総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	4 章 データベースソフトウェアの 活用 1 節 ビジネス情報とデータベー ス 2 節 データベースの利用 3 節 S Q L の操作		身近なテーマを基に、リレーショナル型データベースを活用して、データベースの検索機能についての知識や技術、データベースを操作するための S Q L 言語を習得します。S Q L を用いた汎用的なデータベースの操作方法を習得する。
2	5 章 ソフトウェアを活用したシステム開発 1 節 システム開発の基礎 2 節 アルゴリズムの基礎		ビジネスに関連したシステムの開発に必要な基礎的な知識と技術を習得します。システム開発における代表的な開発モデルと、ユーザインタフェースなどに配慮した開発手法について、基礎的知識を理解していきます。処理を自動化するときに、処理の流れを整理するためのアルゴリズムについて、基礎的及び応用的な手法を習得する。
3	2 節 表計算ソフトウェアによる開発 3 節 データベースソフトウェア による開発		表計算ソフトウェアのプログラミング機能を使用し、マクロ機能を用いた開発の基礎を習得します。マクロの記述によって、「繰り返し」や「判断」などの応用的な処理を自動化するための手法を習得します。データベースソフトウェアを利用し、設計書に基づいて実際にシステムを構築する手法を身に付ける。
学習上の留意点	「情報処理」の学習内容を基に、ビジネスにおける活用を具体的に学ぶ。授業内容が専門的になるため、教科書・副教材を積極的に活用する。パソコンを目的に合わせて適切に活用する能力を養うため、積極的に実習に取り組むことが大切である。		

教科・科目	家庭・フードデザイン	単位数 4 単位	履修学年 2 年
目 標	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として、栄養・食品・料理様式と献立・調理などに関する知識と技術を学び、実習を通して食事を総合的にデザインする能力と実践する態度を身につける。		
使用教材	フードデザイン新訂版（実教出版） カラーグラフ食品成分表（実教出版） ビジュアルクッキング（教育図書）		
評価の観点・評価基準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	食生活に関する諸問題に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	学習した知識と技術を活用して創意工夫することができる。	栄養・食品・調理に関する知識を身につけ、理解している。また技術を身につけ実践できる。
評価方法	授業や実習での取り組み状況、基本的な調理技術の取得状況、提出物、発表などの意欲・態度などから総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ 食事の意義と役割 ・ 調理の基礎技術 ・ 食の安全		・ 自らの食生活の現状を点検し、望ましい食習慣とはどのようなものか考え、課題意識をもつ。 ・ 計量の仕方、調理器具の扱い方、様々な切り方など、基本的な技術を身につける。特に、包丁技術として、野菜の薄切りを一定時間内に設定枚数以上切ることができるようになる。 ・ 衛生的で安全な調理のための知識をもち、自ら実践することができるようになる。
2	・ 調理の基本 ・ テーブルコーディネート		・ 炊飯の水加減、だしのとり方など基本的な調理の知識と技術を身につけ、様々な調理操作について学習する。 ・ 一定時間内に簡単な日常食を一人で作り上げることができるようになる。 ・ 季節に応じたテーブルコーディネートの基本を学習し、自ら考えた配色でのランチョンマットなどを作り、配膳の工夫ができるようになる。
3	・ 日常食における提供の工夫と献立作成		・ 簡単な日常食を実習するとともに、彩りを考えた盛りつけの工夫ができるようになる。 ・ 様々な条件にあわせた献立を考え、栄養バランスのとれた食生活について考えることができるようになる。
学習上の留意点	普段から食に関心を持ち、学習した内容を家庭で実践する姿勢が必要である。家庭内においてできるだけ食事作りに参加し、知識・技術の定着を確かなものとしよう。		

教科・科目	家庭・食文化	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	食文化の成り立ちや日本と世界の食文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。また、食文化の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む力を身につける。		
使用教材	フードデザイン新訂版（実教出版） カラーグラフ食品成分表（実教出版） ビジュアルクッキング（教育図書）		
評価の観点 ・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日本だけでなく世界の食文化を理解し、体系的かつ系統的に知識を身につけ、必要な技術を身につけている。	食文化について学習した知識と技術を活用し、食生活の中で実践・表現することができる。	食文化に関心を持ち、その伝承と創造に主体的に取り組むことができる実践的な態度を身につけている。
評価方法	授業や実習での取り組み状況、提出物、発表などの態度から総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	・食文化の成り立ちと特徴 ・日本の食文化について ・現代の食文化について	・食物の保存方法を工夫し、食材の料理技術を高めてきたその歴史について学習する。 ・島国である日本の食文化の特徴について理解する。 ・日本の郷土料理について調査し、理解を深める。 ・食育基本法、ユネスコの無形文化遺産などについて知識を身につける。	
2	・世界の食文化について ・各国の料理様式について	・西洋・アジア・その他世界の食材や料理の特徴について幅広く知識を身につける。 ・日本・西洋・中国などの食事作法などについて知識を身につける。 ・テーブルマナー講習を受講し、西洋料理のマナーを身につける。	
3	・行事食等について	・行事食、幼児食、高齢者食について学習し知識を身につける。 ・緑茶の淹れ方講習を受講し、日本茶の文化を理解する。	
学習上の留意点	普段の食生活から食文化について考え、学習した内容を家庭で実践する姿勢が必要である。 将来を担う立場として食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組むことができるよう意識を高めよう。		

教科・科目	家庭・調理	単位数 6 単位	履修学年 3 年
目 標	近年の食環境について理解するとともに、健康を意識した調理理論と調理技術に関する知識や技術を学び、実習を通して食生活の向上に寄与する資質・能力を身につける。		
使 用 教 材	フードデザイン新訂版（実教出版） カラーグラフ食品成分表（実教出版） ビジュアルクッキング（教育図書）		
評価の観点・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	栄養・食品・調理に関する知識や技術を身につけ、実践することができる。	学習した知識と技術を活用して創意工夫することができる。	食生活に関する諸問題に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価方法	授業や実習での取り組み状況、調理技術の習得状況、課題に対する創意工夫、提出物・発表などの意欲・態度などから総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	・調理の基本 ・調理法の種類と特徴 ・調理の種類と献立	・基本的な食事計画、献立の立て方を学び、自身の食生活に活用し、実践する。 ・非加熱操作や様々な加熱操作等を学び、組み合わせで献立を立て、衛生面に配慮して調理ができるようになる。 ・一定時間内に食べる人の年齢・性別・嗜好などの条件で献立を立てて日常食を作成することができるようになる。	
2	・調理と食味 ・病気時の食事	・味の浸透・拡散、温度と味覚との関係について、また調味料の組合せ、量、入れる時期、順序などを学び、味やテクスチャーとの関係を理解する。 ・目的別・対象別の献立と調理の特徴を理解し、関連する技術を身につける。また食物アレルギー対応食や病気時に対応できる献立を学び、調理できるようになる。	
3	・供応食	・もてなしや慶弔などの目的に合った献立を実習し、その際の食卓構成、盛り付けの方法を学び、自ら工夫を加えることができるようになる。	
学習上の留意点	普段から健康や食に関心を持ち、様々な関連する情報をとらえ、話題にすることで深い学びにしましょう。また、普段の食事作りに積極的に参加し、知識・技術の定着を確かなものとしましょう。そして自らの進路選択には、段取り力や工夫する力が身についた状態で臨みましょう。		

教科・科目	家庭・食品	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	近年、様々な食品が入手できるようになり、消費者としての私たちは、食品の選択・購入のため、安全・栄養・取扱いに関する知識が一層必要とされている。 2 年生では基本的な食品や食品衛生に関する知識をはじめ、購入の際の見極めや旬、取り扱いに関する知識・技術の習得を目指す。		
使用教材	フードデザイン新訂版（実教出版） カラーグラフ食品成分表（実教出版） ビジュアルクッキング（教育図書）		
評価の観点・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各種食品に関する知識を身につけ理解している。各種食品の特性を理解した上で、取り扱うための技術を身につけ実践できる。	学習した知識と技術を活用して実験・実習において食品の特性を考察し、正しい判断をすることができる。	食品に関する諸問題に関心を持ち、食品購入時などに意識を向けるなど、実践的な態度を身につけている。
評価方法	授業や実習・実験での取り組み状況、提出物、発表などの態度から総合的に評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ 食品の衛生と安全		・ 食中毒について学習し台所の衛生について知識を深め、調理実習における食品衛生において意識を高める。 ・ 様々な食品添加物について、種類と用途について学習し、加工食品についての知識を身につける。
2	・ 食品の選択と取扱い ・ 食品に関する実験実習		・ よりよい食品、安全な食品を見極め、購入するための知識を身につける。 ・ 日常的に使用する、また旬の食品の特性を活かした実験や調理実習を行い、その取扱い方についての技術を身につける。
3	・ 食品の特徴		・ 牛乳・乳製品、卵、豆類、野菜類、果物類、でんぷん・穀類などについての特性を、講義と実験実習を通して学習する。
学習上の留意点	実験や実習を通して様々な食品の旬や特性を理解し、食品購入の際にも様々な角度から消費者として意識を向けてみよう。		

教科・科目	家庭・食品	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	2 年生の「食品」の授業で学習した基礎的な知識・技術を発展させ食品に関する専門的な内容を習得する。 近年多様化する各種食品を適切に選択し、それを活用する能力を身につけ、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を習得する。		
使 用 教 材	フードデザイン新訂版（実教出版）カラーグラフ食品成分表（実教出版） ビジュアルクッキング（教育図書）		
評価の観点・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各種食品の特性を理解し、食品を取り扱う上での技術を身につけ、実践することができる。	学習した知識と技術を活用して実験・実習において食品の特性を考察し、正しい判断をすることができる。	食品に関する諸問題に関心を持ち、食品購入時などに意識を向けるなど、実践的な態度を身につけている。
評価方法	授業や実習・実験での取り組み状況、提出物、発表などの態度から総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	・食品の分類とその特徴	・加工品について 2 年生で習得した内容を活かしさらに学習内容を深める。	
2	・食品の特性を活かした実験実習	・豆腐などの加工食品を作ったり、アントシアニンなど食品中の色素について実験実習を行う。	
3	・食品の加工と貯蔵について ・食品の特性を活かした実験実習	・魚介肉類、野菜類、芋類などについての特性を講義と実験実習を通して学習する。	
学習上の留意点	実験や実習を通して様々な食品の旬や特性を理解し、食品購入の際にも様々な角度から消費者として意識を向けてみよう。		

教科・科目	情報・情報産業と社会	単位数 4 単位	履修学年（年次） 3 年
目 標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。		
使用教材	『情報産業と社会』（実教出版）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	情報産業と社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	情報産業と社会との関わりに関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	情報技術者に必要とされる情報活用能力の習得を目指して自ら学び、情報社会に主体的かつ協働的に参画し寄与する態度を養う。
評価方法	課題や作品の評価、実習に対する取り組み状況、各学期の実技テスト、筆記テスト、自己評価、発表会時の他者評価を含めて総合的に判定をする。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	オリエンテーション 第1章 情報社会の発展と情報産業 1 節 情報社会の発展 2 節 情報社会における問題解決 3 節 情報社会の将来と情報産業 第2章 情報産業が果たす役割 1 節 情報セキュリティ 2 節 情報産業の役割 3 節 情報技術者の責務		・情報社会の進展によって生じている問題を発見し、最新の情報と情報技術などを適切かつ効果的に活用して創造的に問題を解決する。 ・情報社会の発展を支える情報産業について理解し、最新の情報と情報技術などを活用することに主体的かつ協働的に取り組む。
2	第3章 情報とコミュニケーション 1 節 情報の表現 2 節 ICT を活用したコミュニケーション 3 節 情報の管理 第4章 コンピュータとプログラミング 1 節 コンピュータの仕組み 2 節 アルゴリズムとプログラミング 3 節 ネットワークの活用		・望ましいコミュニケーションを行うために自ら学び、情報社会の健全で持続的な発展のために主体的かつ協働的に取り組む。 ・発想法と情報を整理する方法を理解する。 ・情報社会を支えているアルゴリズムやプログラミング、ネットワークに関する基礎的な知識と技術を身に付ける。
3	総合実習 SDGs のポストとされる Well-being (Sustainable Well-being Goals) について、情報産業の果たせる役割や課題点を捉えた、プレゼンテーションもしくはポスターセッションをおこなう。		・2030 年にむけて日本政府も Well-being についての提案をしている。その中で、情報産業に関わる役割や課題を発見し、情報社会の健全で持続的な発展に何が必要かを考え、学習の成果発表会に挑む。
学習上の留意点	各実習においては、自己評価に加え、発表会時の他者評価による相互評価もおこなう。総合実習は、時勢や政府の方針を考慮し、内容を変更することもある。		

教科・科目	情報・情報の表現と管理	単位数 3単位	履修学年（年次） 3年
目 標	1. 文字・画像・映像・音声などの特色や活用法を学ぶ。 2. コミュニケーションやプレゼンテーションの基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 3. 情報を管理し活用する能力と態度を身に付け、課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。		
使用教材	『情報の表現と管理』（実教出版）		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	情報を管理するための考え方や方法を習得できている。また、ソフトウェアやメディアの特徴を理解した上で、アイデアを表現することができている。	表現活動において、テーマ・レイアウト・色彩などの設定が工夫されている。他者の視点を意識しながら、独創的なアイデアを表現することができている。	メディアの特性を活かし、ソフトウェアを積極的に活用できている。積極的に情報の整理・発信・伝達を行うことができている。
評価方法	実習に対する取り組み状況、自己評価、発表会時の他者評価を含め、総合的に評価をする。アプリケーションの操作技術を習得したかを確認するためのテーマに沿った作品作りや、独創的なアイデアを表現できるかを見るための課題を設定し、テーマ・レイアウト・色彩などを評価する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	オリエンテーション 第1章 情報社会と情報の表現 1節 メディアと情報の表現 2節 情報社会における情報の表現 第2章 メディアの特性とその表現 1節 文字・図解による表現 2節 音による表現 3節 静止画による表現		・多様化する情報の表現と、それに伴うコミュニケーションの変化について理解する。 ・メディアの種類と特性について理解し、適切に表現できる力を身に付ける。 ・ドロー系ソフトの基本操作を身に付ける。 ・図形による表現を理解し、伝わる表現を意識した作品づくりを行う。
2	4節 動画による表現 5節 データサイエンスとデータの表現 6節 情報の発信 7節 コミュニケーションの基礎		・動画ファイルの種類と特性を理解する。 ・映像処理ソフトを利用して編集する。 ・データサイエンスとは何かを知り、データ分析の流れを理解する。 ・発想法と情報を整理する方法を理解する。 ・プレゼンテーションの意義と活用例、プレゼンテーションのポイントを理解する。
3	第3章 情報の管理 1節 情報の管理とドキュメンテーション 2節 コンピュータによる情報の管理と活用 3節 情報の保護とセキュリティ		・コンピュータによる情報管理の仕方を理解する。 ・ネットワークによるファイル共有について理解する。 ・セキュリティについて理解する。 ・目的に応じた適切な情報の伝達手段について理解する。
学習上の留意点	課題については、ユーザの視点や著作権をはじめとした知的財産権について常に意識しながら取り組むように心掛ける。なお、各実習においては、自己評価に加え、評価会による相互評価も行う。		

教科・科目	情報・情報デザイン	単位数 3 単位	履修学年 2 年
目 標	1. コンピュータによるデザインに関する基礎的な知識と技術を身につける。 2. 問題意識, 美的判断力, 情報活用能力, 企画・計画力を身につけ, 上質なデザインを創造し, 応用する能力と態度を育てる。		
使用教材	情報デザイン (実教出版株式会社)		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、現代社会における情報及び情報産業の意義や役割を理解している。また、情報の各分野に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	情報の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、情報産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	情報の各分野に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
評価方法	各観点を考慮しながら、課題や作品の評価、実習に対する取り組み状況、自己評価、他者評価などを含めて総合的に判定をします。なお、アプリケーションソフトの操作技術が習得できたかを確認するために、共通のテーマで課題を作成、課題に応じたメディア媒体を適切に活用しているかも含めます。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	第1章 デザイン・情報・造形の基礎 1節 デザインって何だろう 第2節 何をデザインするのか 第2章 デザインと表現 1節 デザインの造形要素	・デザインが人間生活のさまざまな目的を達成するための合目的行為であることを理解する。 ・有意義なデザインにするためには、見た目のよさだけにとらわれるのではなく、倫理観や社会的意識をもって、社会に及ぼす影響を考慮する姿勢が大切であることを理解する。 ・人間同士のコミュニケーションのはじまりはシンボルを共有するところから発展していったことを理解する。 ・情報が溢れる時代のなかで、情報の受け手としては必要な情報を選択し、送り手としてはわかりやすく表現し伝えることが必要であることを理解する。 ・造形の基礎となる5つの要素(形態・色・材質感・空間・時間)を分析し、把握する。 ・基本形態(純粋形態)として点・線・面さらには立体・空間の造形的意味を理解する。 ・材質感がさまざまな面で造形的効果にかかわることを理解する。 ・造形物を取り巻く空間、造形物と見る者との間の空間もまたデザインする上で考慮	

		すべき要素であることを理解する。
2	2 節 造形要素の構成 3 節 観察と表現	・造形要素を時間的に変化させることで動きが表現され、そこからリズムなど時間的効果が生まれることを理解する。 ・移動や回転、反転、拡大と縮小、ディストーション、分割などの造形構成の基本手法を理解する。 ・美しい造形の背後にある秩序を理解する。 ・秩序を守るだけではなく、変化を与えることが表現に幅を与えることを理解する。 ・眼に見える物体だけではなく、人々の行動や社会現象など意識しないと見えてこない事象も観察の対象であることを理解する。 ・自然物や人工物など対象物の構造や特徴を把握し、簡潔に表現するプロセスを理解する。 ・さまざまな表現技法を実験し、新たな表現方法を探る。
3	第3章 デザインの実際 1 節 デザインの検討 2 節 デザインの活用 3 節 情報の理解を助けるデザイン	・身近なものをデザインすることを通してデザインするための企画力と表現力を身につける。 ・人々に行動を促す宣伝活動としてのプロモーション・デザインをとおして、デザインの重要性とその効果を理解する。 ・学級新聞や、クラスの Web ページ作成を通して、情報をよりよく理解してもらうための工夫のひとつとしてのインフォメーション・デザインの意義を理解する。
学習上の留意点	デザインに関する基礎知識をもとに、ユーザの視点や著作権をはじめとした知的財産権について常に意識し、課題に取り組むように心掛ける。なお、各作品製作実習においては、評価会による相互評価もおこなう。	

教科・科目	情報・コンテンツの制作と発信	単位数 3 単位	履修学年（年次） 3 年
目 標	コンピュータグラフィックス・3D モデルなどのデジタル素材を駆使して、稲生高校の魅力や学校生活の様子をプレゼンテーションやプロモーション活動通して校外に向けて発信できるような作品作りを主体的に行うことができるようになる。		
使用教材	・ Adobe < Photoshop, Illustrator, InDesign, Animate, Premiere Pro > ・ モデリングソフト・Free 素材 ・学校や各自が撮影した静止画や動画 ・ペンタブレット ※Adobe 社のソフトウェアは、Creative Cloud 契約であり上記以外のソフトも使用することもある。		
評価の観点 ・ 評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	創意工夫を生かした表現活動をするための技能を身につけ、創造的に表現しているか。 情報の処理と分析、情報モラルとセキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、情報の活用法や役割について正しい理解をしている。	情報に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	情報を収集・処理・分析・表現することに関心を持ち、主体的に情報を活用し、課題の改善や向上を目指して取り組もうとする実践的な態度を身につけている。
評価方法	各観点を考慮しながら、課題や作品の評価、実習に対する取り組み状況、自己評価、他者評価などを含めて総合的に判定をします。なお、アプリケーションソフトの操作技術が習得できたかを確認するために、共通のテーマで課題を作成、課題に応じたメディア媒体を適切に活用しているかも含めます。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	1.3D モデリングソフトの活用 2.『磁石カバーのデザイン』	実習を通じて3D モデリングソフトの基礎的・基本的な知識と技術を修得する。 また、実習として『磁石カバーのデザイン』を行う。その中で自己のデザインの意図の発信、また他者の意見の受容、他者と協力関係を築きながら制作を進めていく態度を身につける。作品完成後、自己評価と他己評価を行う。	
2	1.物理演算機能を活用した作品制作 2.『ペーパーウェイトのデザイン』	実習を通じて3D モデリングソフトの「物理演算機能を活用した作品制作」、『ペーパーウェイトのデザイン』を行う。その中で自己のデザインの意図の発信、また他者の意見の受容、他者と協力関係を築きながら制作を進めていく態度を身につける。作品完成後、自己評価と他己評価を行う。	
3	1.3D プリンターの活用	実習を通じて3D プリンターの基礎的・基本的な知識と技術を修得する。 また、3D プリンターを活用した事例などを取り上げた動画やニュース記事を利用し、現在とこれからの社会における3D プリンターの活用について考え、レポートを作成する。その活動の中で自身の意見の発信、また他者の意見の受容、他者と協力関係を築いていく態度を身につける。	
学習上の留意点	情報産業に関する職業への興味・関心を持てるようになりましょう。情報化社会を構成する一員として、備えておきたい情報モラルやセキュリティなどの知識・技術を身に付けましょう。また、著作権を守りながら情報コンテンツを正しく制作しましょう。なお、各作品製作実習においては、評価会による相互評価もおこないます。		

教科・科目	福祉・社会福祉基礎	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。		
使用教材	教科書（実教出版 社会福祉基礎）、プリント、視聴覚教材などを適宜使用する。		
評価の観点・評価規準	(知識・技術)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	社会福祉の目的や理念を理解し、社会福祉の制度や各種サービスを活用できるような知識を身につけ、社会福祉について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身につける。	現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身につける。	社会福祉に関する諸問題や地域社会の課題について興味を持ち、授業に意欲的に取り組む。
評価方法	授業・実習への取り組み状況、提出物の状況、定期考査の結果などを主な判断材料として、評価を行う。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	社会福祉の理念と意義 ・生活と福祉 ・社会福祉の理念 ・人間の尊厳と福祉社会の創造 社会福祉の歴史と次代の展望 ・諸外国における社会福祉 ・日本における社会福祉		・生活や自立の概念、日常生活と福祉の関わり、社会福祉理念の変遷など社会福祉に関する基礎的な学習活動を通して、社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などを理解できるようになる。 ・社会福祉思想の流れとその関連性、地域共生社会の実現に向けた地域福祉の意義や役割について理解できるようになる。
2	生活を支える社会福祉・社会保障制度 ・社会保障制度の意義と役割 ・子ども家庭福祉 ・障害者福祉、高齢者福祉、介護保険制度 ・生活支援のための公的扶助 ・国民の生活を支える社会保険制度		・社会保障の基本的な仕組みや社会福祉の各分野が生まれてきた社会背景や概要などに関する学習活動を通して、各制度の意義や役割、現状と課題について理解できるようになる。
3	人間関係とコミュニケーション ・コミュニケーションの基礎 ・支援における人間関係の形成 ・社会福祉における支援活動の概要 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度 ・多様な社会的支援制度 ・地域福祉の進展と地域の将来		・人間関係を構築するための技法、基本的なコミュニケーションの技法、社会福祉援助活動の概要に関する学習活動を通し、人間関係の形成やコミュニケーション及び社会福祉援助活動の意義や役割などとともに、援助活動に必要な組織のマネジメントとして運営管理・人材管理・リーダーシップなどについても理解する。 ・地域共生社会の実現や地域包括ケアシステムの基本的な考え方と仕組み、生活支援コーディネーターなどの機能や役割、当事者が支援を受けながら様々な役割を担うこと、各種災害に備えたまちづくりなど地域福祉の意義や役割について扱う。
学習上の留意点	社会福祉の制度や歴史、社会福祉の理念について幅広く学び、社会福祉が担う意義や役割を理解する。		

教科・科目	福祉・介護福祉基礎	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	介護についての全般的な学習をおこない、介護のあり方や介護する際の心構えをしっかりと身につける。		
使用教材	教科書、プリント、視聴覚教材、実習教材などを適宜使用する。		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技術)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	高齢者や障害者に対する、基礎的な介護知識や介護技術を身につけ、利用者の立場に立った介護をめざす。	介護に関する基礎的な知識や技術を活用して、さらに創意工夫をしながら介護の問題点に対処できるような姿勢を身につける。	介護に関する諸問題に関心を持ち、より良い介護を行うにはどうすればよいかを考え、取り組む。
評価方法	授業・実習への取り組み状況、提出物の状況、定期考査の結果などを主な判断材料として、評価を行う。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	介護の意義と役割 ・ 尊厳を支える介護 ・ 自立に向けた支援 介護福祉の担い手 ・ 介護従事者を取りまく状況 ・ 役割と介護福祉士 ・ 介護従事者の倫理 ・ 介護実践における連携	・ 介護の意義と人権尊重の考え方について理解する。 ・ ICF やリハビリテーションについて理解を深める。 ・ 専門職として必要な基本姿勢や、多職種連携の重要性について、理解を深める。	
2	介護を必要とする人の理解と支援 ・ 介護を必要とする人と生活環境 ・ 高齢者の生活と支援 ・ 障害者の生活と支援 ・ 介護を必要とする人の生活を支える支援 ・ 介護サービスの概要 ・ 介護過程	・ 高齢者の生きがいや社会参加、加齢による心身の変化について理解する。 ・ 障害の概念の変遷や、障害者への具体的な支援について、理解する。 ・ 自立支援について理解を深める。	
3	介護における安全確保と危機管理 ・ 介護における安全と事故対策 ・ 介護従事者の健康管理 ・ 感染対策 ・ 福祉用具と介護ロボット	・ 介護におけるリスクマネジメントについて理解を深める。 ・ 感染症の基本的な知識と感染対策について理解する。 ・ 福祉用具と介護ロボットが介護福祉現場でどのように活用されているかを理解する。	
学習上の留意点	介護の意義や役割を学び、誰もが安心して暮らすことができる社会への取り組みについて自分の考えを持つことができるように学習に取り組む。		

教科・科目	福祉・生活支援技術	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、基本的な介護の知識と技術を習得し、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。		
使用教材	教科書（実教出版 生活支援技術）、プリント、視聴覚教材、実習教材などを適宜使用する。		
評価の観点・評価規準	（知識・技術）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	高齢者や障害者に対する基礎的な介護技術を身につける。 高齢者や障害者に対して、基礎的な介護知識を身につけ、利用者の立場に立った介護をめざす。	介護に関する基礎的な知識や技術を活用して、さらに創意工夫をしながら介護の問題点に対処できるような姿勢を身につける。	介護に関する諸問題に関心を持ち、より良い介護を行うにはどうすればよいかを考え、取り組む。
評価方法	授業・実習への取り組み状況、提出物の状況、定期考査の結果などを主な判断材料として、評価を行う。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	自立に向けた生活支援の理解 基本となる介護	・日常生活とそれぞれに関連する支援方法を理解する。 ・寝具の交換方法や、それぞれに適切な介助技術を習得する。 ・実技の授業を通し、介助技術を習得する。	
2	居住環境の整備 身じたくの介護 移動の介護	・日常生活の基盤となる居住環境を整備する必要性を理解する。 ・利用者の心身の状態および生活の状況に応じた支援方法を学び、身じたくの介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・介護に必要な体位変換、車いすの介助、歩行介助、福祉用具を学ぶことで移動・移乗に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・それぞれの介助技術を応用できる力を習得する。	
3	食事の介護 入浴、清潔保持の介護	・食事の過程を理解し、誤嚥や窒息の防止、脱水の予防といった安全面での留意点を学ぶ。 ・入浴・清潔保持の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・次年度の介護実習に向け、認知症高齢者との体験を想起しながら、介助技術を習得する。	
学習上の留意点	自立生活の支援についての実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、安全・安楽な生活支援技術を提供することができるように、実技を通して学んでいく。		

教科・科目	福祉・生活支援技術	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、基本的な介護の知識と技術を習得し、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。		
使用教材	教科書（実教出版 生活支援技術）、プリント、視聴覚教材、実習教材などを適宜使用する。		
評価の観点・評価基準	（知識・技術）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	高齢者や障害者に対して、基礎的な介護知識を身につけ、利用者の立場に立った介護をめざす。高齢者や障害者に対する基礎的な介護技術を身につける。	介護に関する基礎的な知識や技術を活用して、さらに創意工夫をしながら介護の問題点に対処できるような姿勢を身につける。	介護に関する諸問題に関心を持ち、より良い介護を行うにはどうすればよいかを考え、取り組む。
評価方法	授業・実習への取り組み状況、提出物の状況、定期考査の結果などを主な判断材料として、評価を行う。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	排泄の介護 睡眠の介護	・排泄の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・利用者の心身の状態や状況に応じた睡眠の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・介護実習で認知症高齢者と接した体験を想起しながら、介助技術を習得する。	
2	レクリエーションと介護 終末期の介護	・レクリエーションを計画していく上での手法などを学ぶことで介護従事者に求められるレクリエーション援助の知識、技術を習得する。 ・介護実習でレクリエーションを展開するにあたり、計画、立案、実行の一連の流れを行う。 ・利用者の終末期における心身の状態や変化、死後の処置、グリーフケアにふれ、介護職として必要な基礎的な知識と技術を習得する。	
3	緊急時の介護	・緊急通報システム、救命処置などに介護職として必要な基礎的な知識、技術を習得する。 ・緊急時にはどのように行動すべきかを事例をもとに考える力、対応する力を習得する。	
学習上の留意点	2年次の生活支援技術を発展させ、応用的な介護技術について学ぶ。支援方法の体験や、支援される体験の両方をグループで行い、実際の介護の場面を想定しながら介護技術を高める。		

教科・科目	福祉・コミュニケーション技術	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	コミュニケーションに関する基礎的な知識や技術を習得し、介護福祉援助活動で活用する能力と態度を身につける。		
使用教材	教科書、プリント、視聴覚教材、実習教材などを適宜使用する。		
評価の観点・評価規準	(知識・技術)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	人間関係におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身につける。	福祉実践におけるコミュニケーションに関する課題を発見し、倫理観をふまえた介護者として解決する方法を身につける。	コミュニケーションについて関心をもち、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。
評価方法	授業・実習への取り組み状況、提出物の状況、定期考査の結果などを主な判断材料として、評価を行う。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・福祉実践におけるコミュニケーション コミュニケーションの意義と役割 コミュニケーションの基本技術		・介護従事者として人間関係形成に必要なコミュニケーションの意味と役割について理解する。 ・演習を通してコミュニケーションに関する基礎的な技法を身につける。
2	・サービス利用者や家族とのコミュニケーション サービス利用者や家族との関係づくり サービス利用者に応じたコミュニケーション		・サービス利用者の状態や状況、利用者を取り巻く家族の状況に応じたコミュニケーションを理解する。 ・加齢による心身の変化を理解し、高齢者に合わせたコミュニケーションの必要性を理解する。
3	・福祉実践におけるチームのコミュニケーション 記録 チームによる連携		・多様な介護場面におけるチームとしての連携と情報の共有化について基礎的な知識と技術を身に付ける。
学習上の留意点	人間関係の形成や他者理解、自己理解などをグループワークを通して学習する。 サービス利用者に応じたコミュニケーション技法について基礎的な技術を習得する。		

教科・科目	福祉・こころとからだの理解	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	利用者の理解、心身機能や発達段階、認知症や障害など生活支援の根拠に関する知識と技術を身に付け、科学的根拠をもとにした生活支援を行うため必要な資質・能力を育成する。		
使用教材	教科書（実教出版 こころとからだの理解）、プリント、視聴覚教材、実習教材などを適宜使用する。		
評価の観点・評価規準	(知識・技術)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識・技術を身につける。要介護者に対し、安全、安楽な介護技術を提供するための人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身につける。	自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理解を踏まえ科学的な根拠に基づいて思考・判断ができる。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む。
評価方法	授業・実習への取り組み状況、提出物の状況、定期考査の結果などを主な判断材料として、評価を行う。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	こころとからだの基礎的理解 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解	・人間の成長と発達の過程における、身体的、心理的、社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を身につける。	
2	発達と老化の理解 認知症の理解	・高齢者の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、本人や家族、地域の力を活かした高齢者ケアについて理解する ・認知症ケアについて理解するとともに地域における支援体制や家族への支援について考える。	
3	障害の理解	・障害に関する基礎的な考え方や各種障害の種類や特性、障害が日常生活に及ぼす影響などについて理解するとともに、障害者の地域での生活を理解し、本人や家族への支援などについて理解する。	
学習上の留意点	自立を尊重した生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識と技術を習得する。介護実践に適切に活用できる能力を身につける。		

教科・科目	福祉・福祉実践Ⅰ（学校設定科目）		単位数 2 単 位	履修学年 2 年
目 標	季節ごとの壁面制作等、造形表現の基礎的知識や技能を身に付け、福祉の現場の環境構成に必要な実践力を身に付ける。また、造形表現活動の考案・発表を通し、主体的に活動する力を養う。			
使用教材	制作に必要な道具類、点字器等一式			
評価の観点 ・評価規準	（知識・技術）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）	
	福祉に関して幅広く関心を持ち、福祉の現場で活用できる知識を習得する。また実践を通して、様々なコミュニケーションを学ぶことができる。	高齢者や障がい者に対して、基礎的な介護知識・技術を活かし、創作活動における表現方法の創意工夫を行うことができる。	グループで企画・立案・実施といった過程を協力して行い、発表することができる。	
評価方法	授業態度、制作作品、提出物などを主な判断材料として、総合的に評価する。			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	高齢者を対象とした壁面制作 高齢者を対象とした造形表現活動の考案を行う。		・高齢者が親しみやすく、季節を感じることもできる壁面構成を考える。 ・実際に高齢者が楽しめるレクリエーションを企画立案し、グループでの活動を通してコミュニケーションの大切さを考えることができる。	
2	造形表現活動の発表をし、振り返りを行う。 施設での製作活動の準備・計画を行い、生徒自身で実施する。		・グループで発表を行い、造形表現がもたらす効果や、高齢者とのふれ合い・繋がりを考える事ができる。実施後に評価をし、その結果をフィードバックすることができる。 ・近隣の施設の利用者様と一緒に、創作や造形作品を完成させる。	
3	1年間の振り返り、まとめ		・1年間を通して行ってきた発表を振り返る。 また、学びを通して、卒業後も福祉との関わりを深めていく大切さを考える。	
学習上の留意点	グループで協力して壁面構成を行ったり、福祉施設で活用できる手作りカレンダーなどを制作する。お互いアイデアを出し合ったり、制作物の振り返りもグループで行う。			

教科・科目	福祉・福祉実践Ⅱ(学校設定科目)		単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	音楽が癒しや生きる力をもたらすことに気づき、将来、福祉の現場において主体的に音楽活動やレクリエーション活動を実践する能力を身につける。			
使用教材	ハンドベル、箏など演奏に必要な楽器および楽譜 他			
評価の観点・評価規準	(知識・技術)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	人の想いを聴くことや自分の意思を伝えたりといったコミュニケーション能力を身につけている。人の想いに合わせ演奏をするために、自分に合った楽器を活用して表現する技術を身につけている。	感性を働かせて人の想いを感じ取り、それに合わせて発想し、創造的に表現を工夫する。	人の役に立ちたいという思いから、主体的に演奏活動を行い、他人の喜びを自分の喜びとして味わおうとする。	
評価方法	授業態度、演奏点（実技）、提出物などを主な判断材料として、総合的に評価する。			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	ハンドベル・箏の演奏 老人ホームでの音楽会企画、発表、交流 (講義) 音楽療法的活動における音楽の役割 対象者を意識した音楽プログラム作成		・ハンドベルや箏の奏法を習得し、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら。企画立案をする。 ・高齢者の方々に好まれる音楽や企画を理解し、グループや全体での練習・発表を通して、福祉施設における音楽の役割を考える。 ・音楽療法の立場から音楽を捉え、対象者を意識した選曲が出来るようになる。	
2	レクリエーションの考案、発表		・グループでコミュニケーションをとり、企画、準備、発表までを行う。 ・これまでの学習をもとに、対象者の立場や気持ちを考えて考案、発表できるようになる。	
3	1年間の振り返り まとめ		・1，2学期に行った実習を通し、異年齢の方との関わりから学んだことを総括し、卒業後の福祉との関わり方を考える。	
学習上の留意点	レクリエーションをグループで企画し、準備から発表まで協力して行っていく。 レクリエーションがもたらす心理的効果にも注目し、生活に欠かせない大切な活動であることを学ぶ。			

教科・科目	体育・スポーツ概論（必修）	単位数 1 単位	履修学年 1 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使用教材	・基礎から学ぶスポーツ概論（大修館書店）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身につけている。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・授業態度 ・課題の内容 提出状況 ・発問評価 ・定期考査		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	第1章 スポーツについて考えよう 1 スポーツの魅力について考えよう 2 スポーツのこれからとこれまでを考えよう	1－1．競技スポーツの魅力 1－2．生涯スポーツの魅力 1－3．スポーツの楽しみ方 2－1．スポーツの起源 2－2．スポーツの変容と発展 2－3．これからのスポーツ	
2	3 現代スポーツの問題点を考えよう 第4章 スポーツライフのマネジメントを考える 2 栄養でパフォーマンスを高めよう	3－1．競技スポーツの問題点 3－2．生涯スポーツの問題点 3－3．スポーツの持続的発展と環境問題 2－1．スポーツ栄養の基礎 2－2．目的におうじた栄養摂取	
3	第2章 スポーツの競技力を向上させよう 3 メンタルトレーニングについて知ろう 第1章 スポーツについて考えよう 4 スポーツと社会について考えよう 5 オリンピックとパラリンピックについて知ろう	3－1．競技力と精神力（メンタル面）の関係 3－2．実力発揮のメンタルトレーニングの実際 4－1．スポーツとグローバリゼーション 4－2．スポーツと振興政策 4－3．スポーツと経済 5－1．オリンピック 5－2．パラリンピック	
学習上の留意点	・教科書を中心に展開する。 ・授業内容に沿ったプリントによる学習を行う。 ・忘れ物がないように心がけること。 ・ノート・プリントの記入整理をし、各授業後に提出すること。		

2	[器械運動] マット運動	・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、器械・器具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 (1) マット運動の技能を知り、技能の獲得のために、互いに補助をして、積極的に練習に取り組む。 (2) 各種の技の特性を知り、基本となる技から順を追って系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 (3) 前転や後転、倒立などの基礎的な技能を着実に身につけた後、自己の能力に応じて、さらに発展した技能を身につけ、それらを組み合わせた演技をする。 (4) マット運動の技を、系統的に理解する。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。
3	[陸上競技] 長距離走	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1) 長距離走を速く走るために、どのようなフォームで走ればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2) 速く走るために効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。 (3) 短距離走とは異なる、ストライド走法、ピッチ走法などから、自分にあったフォームを取り入れ、ペース配分などを考えながら走る。 (4) 長く走るために必要な体力を高めるための効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

2	[陸上競技] 短距離走（100M） 走幅跳	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1) 短距離走を速く走るために、どのようなフォームで走ればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2) 速く走るために効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。 (3) スタートから、中間走、フィニッシュまで、走る動作について連続性をもって捉え、有効な動きを身につける。 (4) 速く走るために必要な体力を高めるための効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。 ・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1) 走幅跳を、遠くに・高く飛ぶために、どのようなフォームで跳躍すればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2) 遠くに・高く跳ぶために効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。 (3) 助走から踏切までの動作をスムーズに行う。空中姿勢について、無理のないフォームを身につける。 (4) 遠くに・高く飛ぶために必要な体力を高めるための効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。
3	[陸上競技] 長距離走	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1) 長距離走を速く走るために、どのようなフォームで走ればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2) 速く走るために効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。 (3) 短距離走とは異なる、ストライド走法、ピッチ走法などから、自分にあったフォームを取り入れ、ペース配分などを考えながら走る。 (4) 長く走るために必要な体力を高めるための効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。
学習上の留意点		・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。

教科・科目	体育・スポーツⅤ（必修）	単位数 1 単位	履修学年 1 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使用教材	・ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	自然との関わりの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	自然との関わりの深い野外の運動における自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	自然との関わりの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	事前指導、実習中の態度、習得技術、実習のしおりの記入状況等を総合的に判断する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ キャンプ実習の意義		実習の意義について理解する。
2	・ グループづくり ・ 役割分担 ・ 資料作成 ・ レクリエーション活動の計画 ・ 現地実習		グループを構成し、様々な役割分担を決定するなど、円滑に実習が行える準備をすることにより意識を高める。 自分の役割を果たし、仲間と協力して楽しく野外での活動を実践することができる。
3	・ 野外での健康・安全 ・ 緊急時の行動と対応 ・ 応急処置		自然・キャンプでの行動や天候にあわせた行動選択の重要性と知識を理解する。 自然に親しみ、自然を愛する精神を育てる。
学習上の留意点	・ 学校外の施設を利用するため、集団行動に努めること。 ・ 体調管理に努め、学習に主体的に取り組むこと。 ・ 実習日誌の記入を忘れず、提出期限を守ること。		

教科・科目	体育・スポーツⅥ(必履修)	単位数 1 単位	履修学年 1 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使用教材	ラダー・ミニハードル・バランスボール・クレイジーボール		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につける。	体づくり運動における自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度 ・運動への取り組み姿勢 ・体力測定の方法、課題解決の方法		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	*新体力テスト *握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ *柔軟性の確保 *静的ストレッチによる基礎的な柔軟性 *動的ストレッチによる動きの柔軟性 *股関節周囲の柔軟性	*体力・運動能力の現状を確かめる。 *結果を分析し、不足している能力を高めるためにいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるようにする。 *怪我の原因にもなる身体の柔軟性を身につける。 *基本であるウォーミングアップをしっかりと行い習慣づける。 *競技力を向上させるためには自己管理が必要であるということを理解すると同時に自ら積極的に行う。 *股関節と肩甲骨の重要性を理解する。	
2	*体幹を強化 *腹筋、背筋群を重点的に *重心の安定性	*ただ単に身体を動かすのではなく、体幹を意識した状態で行う。そのことにより、より高いトレーニング効果が得られる。 *種目の狙いと自身が行っているものが一致し、目的にあったトレーニングができるかを確認する。 *重心が安定することで身体に軸ができる。 *ラダートレーニングにより升目足を入れることができ、しっかりとした目的ができる。 *手と足を自由に動かせることを目的とする。	

	*調整力を養う *四肢の連動性 (手足をリズム良く動かす。)	*バランスボールなどの不安定なものを使用することにより、より難易度の高いバランスが求められる。 *クレージーボールを使用することにより反射的な動きを養うことができ、眼で見た情報をすぐに行動に移すことができるようになる。 *神経・筋系の協調性も重要な要素である。
3	*持久力を養う *持久力・・・持久走 男子 4 k m 女子 3. 7 5 k m *トレーニングの実践	*自己に適したペースを維持して走る。 *リズムカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走る。 *呼吸を楽しんだり、走りのリズムカルを作ったりする呼吸法を取り入れて走る。
学習上の 留意点	・ 普段の授業の実技を中心に評価する。 ・ すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・ 服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・ 貴重品の管理を各自で行うこと。(授業担当者に預ける) ・ また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	スポーツ総合演習(必履修)		単位数 1 単位	履修学年 1 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。			
使 用 教 材	必要なプリント等の教材を使用、ステップアップ高校スポーツ【大修館】			
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身につけている。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組もうとしている。	
評価方法	課題の評価・授業中の取り組み・意欲 課題研究・プレゼンテーション			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	課題研究・実習		・スポーツ教室などの運営・管理を通し「指導者や管理者としてスポーツを支える」という視点でスポーツにかかわることができる。 ・授業などを観察し指導者・管理者としての基礎を学び、スポーツの指導法の特徴などを分析することができる。	
2	課題研究・実習		・スポーツ教室などの運営・管理を通し「指導者や管理者としてスポーツを支える」という視点でスポーツにかかわることができる。 ・自らが指導者としてスポーツ活動を運営できるように計画を立案することができる。	
3	課題研究・実習		・スポーツ教室などの運営・管理を通し「指導者や管理者としてスポーツを支える」という視点でスポーツにかかわることができる。 ・自らが指導者として計画したスポーツ活動を実施し、今後の活動に活かせるようにフィードバックを行うことができる。	
学習上の留意点	・3年生の課題研究に向けた取り組みを中心に展開していく。 ・校外へ出での活動もあるため、集団行動に努めること。 ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	体育・専攻実技（学校設定科目）	単位数 4 単位	履修学年 1 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使用教材	・ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	各種の特性に応じた集団的技術や個人的技術の構造、技能を高めるための練習方法を選択して計画を立てることができ、課題を持って互いに協力して計画的な練習ができている。	個や集団の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して練習の仕方や試合を工夫している。	専攻種目に対し研究心が旺盛であり、互いに相手を尊重して公正な態度で練習や試合を進んで取り組もうとしている。
評価方法	・授業態度（関心・意欲・態度） ・技能テストや記録会、発表会 ・ゲーム形式での実践応用力や動き		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	＊オリエンテーション ＊基礎的体力養成 ＊基礎技術習得 開講講座で、基礎となる技術習得に向けて取り組む。入学年次であり、スキルレベルにあった基礎技術の習得をさせる。	＊開講された講座の中から、各自講座選択をおこなう。 ＊各講座における専門的体力のベースとなる体力の必要性を知り、けがの予防や応用技術習得に向け体力向上を図る。 ＊各講座の基礎技術に関する知識を理解し、積極的に向上に取り組む。	
2	＊専門的体力養成 ＊基礎技術習得 ＊ルール・審判法	＊各講座で必要な専門的体力を初歩段階から着実に身につける。 ＊学習した基礎技術を反復し、技能として確実に身につける。 ＊各講座のルール・審判法を理解し、ゲーム運営をスムーズにおこなえるようにする。	
3	＊専門的体力養成 ＊応用技術習得 ＊競技会や記録会、試合の計画・実施・運営	＊各講座の専門的体力を応用技術習得に向け、さらに発展させる。 ＊各講座において基礎技術や体力を活かし、応用技術やチームプレーの練習をすることによって、より高度な技術を習得する ＊実践を通して、練習のメニューや指導法についての理解を深め、各自の競技力向上を図る。競技会の計画・実施・運営の理解を深める。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。 ・忘れ物がないように心がけること。 ・ノート・プリントの記入整理をし、各授業後に提出すること。		

教科・科目	体育・スポーツ概論（必履修）	単位数 1 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使 用 教 材	基礎から学ぶスポーツ概論（大修館書店）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身につけている。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・授業態度 ・課題の内容、提出状況 ・発問評価 ・定期考査		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	第2章 スポーツの競技力を向上させよう 1 競技力向上に必要な基礎知識を知ろう 2 競技力を向上させる練習方法・練習計画を知ろう 4 競技力向上に向けた指導体制や情報戦略について知ろう	1－1．競技力を構成する諸要素の関係 1－2．技能・戦術の上達過程 1－3．技能・戦術を向上させるトレーニング方法 1－4．合理的なトレーニング計画 2－1．サッカー 2－2．バスケットボール 2－3．バレーボール 2－4．テニス 2－5．陸上競技 2－6．水泳競技 2－7．体操競技 4－1．競技力向上に向けた指導体制 4－2．競技力向上に向けた情報戦略	
2	第3章 体力トレーニングをやってみよう 1 体力向上の科学的基礎について知ろう 2 体力トレーニングの方法を知ろう	1－1．練習やトレーニングによる身体の変化 1－2．目的に応じたトレーニングプログラムの作成 2－1．筋力トレーニング 2－2．持久力トレーニング 2－3．調整トレーニング 2－4．柔軟性トレーニング	
3	第4章 スポーツライフのマネジメントを考えよう 1 自分の体をマネジメントしよう 3 危険予知トレーニングについて知ろう	1－1．体調のチェック、ウォーミングアップとクーリングダウン 1－2．中学生、高校生のスポーツでのケガとその傾向 1－3．スポーツ現場での救急・応急処置 1－4．スポーツによる四肢の外傷・障害 1－5．スポーツによる内科的障害 1－6．知っておきたいテーピング 1－7．スポーツ復帰に向けてのリハビリテーション 3－1．体育・スポーツ・野外活動と安全 3－2．危険予知トレーニング 3－3．危険感受性と安全教育 3－4．KYT の進め方	
学習上の留意点	・教科書を中心に展開し、授業内容に沿ったプリントによる学習を行う。 ・忘れ物がないように心がけること。 ・提出物を整理し、各授業後に提出すること。		

教科・科目	体育・スポーツⅠ（器械運動）	単位数 1 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	体操競技用器具・その他補助用器具等 ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価基準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度 ・学習カードの内容 ・技能テストや競技会		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	[器械運動] 跳び箱運動 [水泳競技] 平泳ぎ	・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、器械・器具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 (1) 跳び箱運動の技能を知り、技能の獲得のために、互いに補助しあったりして、積極的に練習に取り組む。 (2) 各種の技の特性を知り、基本となる技から順を追って系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 (3) 切り返し(反転)系、回転系の基礎的な技能を身につけた後、自己の能力に応じて、さらに発展した技能を身につけ、それらを組み合わせた演技をする。 (4) 跳び箱運動の技を、系統的に理解する。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・自己の能力に応じて技能を高め、正しいフォームで速く、また長く泳ぐことができるようにする。互いに協力して練習するとともに、事故を防止して、安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や競泳の仕方が工夫できるようにする。 (1) 陸上運動とは異なる、水中という環境の中で水の特性をつかみ、積極的に泳法を学び取る。 (2) 速く、また長く泳ぐために効果的な練習を、自己の能力に応じて考えながら実行する。 (3) ビート板などの補助器具を用いるなどして、足の動き、手の動き、息継ぎなどの基礎的な動きを身につける。手と足のコンビネーション、手の動作と呼吸のタイミングなどの技能を習得し、正しいフォームで速く・長く泳ぐ。 (4) 平泳ぎの技能について、正しいイメージをもつ。安全面の配慮を、心肺蘇生法などとも関連させながら理解する。	

2	[器械運動] 鉄棒運動	・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、器械・器具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 (1) 鉄棒運動の技能を知り、技能の獲得のために、互いに補助しあったりして、積極的に練習に取り組む。 (2) 各種の技の特性を知り、基本となる技から順を追って系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 (3) 支持系、懸垂系の基礎的な技能を身につけた後、自己の能力に応じて、さらに発展した技能を身につけ、それらを組み合わせた演技をする。 (4) 鉄棒運動の技を、系統的に理解する。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。
3	[陸上競技] 長距離走	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1) 長距離走を速く走るために、どのようなフォームで走ればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2) 速く走るために効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。 (3) 短距離走とは異なる、ストライド走法、ピッチ走法などから、自分にあったフォームを取り入れ、ペース配分などを考えながら走る。 (4) 長く走るために必要な体力を高めるための効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	体育・スポーツⅠ（陸上競技）	単位数 1 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	陸上競技用器具・その他補助用器具等 ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価基準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度 ・学習カードの内容 ・技能テストや記録会		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	[陸上競技] 砲丸投 [水泳競技] 平泳ぎ	- 自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1) 砲丸投について、より遠くに飛ばすために、どのようなフォームで投げればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2) 遠くに飛ばすために、効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。周囲の人に危険が及ばないか十分に注意しながら、練習を行おうとする。 (3) 助走から投げるまでの一連の動作を、スムーズに行う。 (4) 遠くに投げるために必要な体力を高めるための、効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。 - 自己の能力に応じて技能を高め、正しいフォームで速く、また長く泳ぐことができるようにする。互いに協力して練習するとともに、事故を防止して、安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や競泳の仕方が工夫できるようにする。 (1) 陸上運動とは異なる、水中という環境の中で水の特性をつかみ、積極的に泳法を学び取る。 (2) 速く、また長く泳ぐために効果的な練習を、自己の能力に応じて考えながら実行する。 (3) ビート板などの補助器具を用いるなどして、足の動き、手の動き、息継ぎなどの基礎的な動きを身につける。手と足のコンビネーション、手の動作と呼吸のタイミングなどの技能を習得し、正しいフォームで速く・長く泳ぐ。 (4) 平泳ぎの技能について、正しいイメージをもつ。安全面の配慮を、心肺蘇生法などとも関連させながら理解する。	
2	[陸上競技] 短距離走（200M）	- 自己の能力に応じて技能を高め、記録を高められるようにする。互いに協力し、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1) 短距離走を速く走るために、どのようなフォームで走ればよいか、どのような技能が必要であるか、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。	

	走高跳	(2)速く走るために効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。 (3)スタートから、中間走、フィニッシュまで、走る動作について連続性をもって捉え、有効な動きを身につける。 (4)速く走るために必要な体力を高めるための効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。 ・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1)走高跳を、遠くに・高く飛ぶために、どのようなフォームで跳躍すればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2)遠くに・高く跳ぶために効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。 (3)助走から踏切までの動作をスムーズに行う。空中姿勢について、無理のないフォームを身につける。 (4)遠く・高く飛ぶために必要な体力を高めるための効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。
3	[陸上競技] 長距離走	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1)長距離走を速く走るために、どのようなフォームで走ればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2)速く走るために効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。 (3)短距離走とは異なる、ストライド走法、ピッチ走法などから、自分にあったフォームを取り入れ、ペース配分などを考えながら走る。 (4)長く走るために必要な体力を高めるための効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。
学習上の 留意点		・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。

教科・科目	体育・スポーツⅡ（サッカー）	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度・取り組み ・授業レポート・自己目標設定シートの内容 ・技能テスト		
学 期	学習内容	学習のねらい	
前後期	・サッカーの基本知識 ・個人での戦術 ・基本のキック ・ドリブル・シュート ・ヘディング ・動きながらのパス ・動きながらのシュート ・ゴールキーパーの基本技術 ・複数人での攻防	・基本的な技能を身につけるとともに、それを集団的な技能に結びつけるための練習を積極的に行う。 ・パス・ドリブル・シュート、ヘディングなどの基礎的な技能を身につける。 ・オフェンス・ディフェンス・ゴールキーパーとの連携など、ゲーム中の具体的な攻防の場面を想定し、互いに協力して有効な動きを身につける。 ・全体を見渡し、意図的にスペースを作る、使う攻撃と、それに対する守備を構築する能力を身につける。 ・ゴールへのシュートを競い合うゲームの特性と技能の構造を正しく理解する。	
	・サッカーの原理原則を理解 ・グループでの戦術 ・ミニゲーム ・応用ゲーム ・フットサル	・サッカーの原理原則を理解し、グループでの攻防の中で習得する。 ・ゲームのなかで、その時々により求められるプレーを、チームメイトとの相互関係により成立させる。 ・仲間と相手を観て、プレーを選択する事で、コンビネーションを作り出す。 ・ゲームのルールを正しく理解し、審判法を身につける。 ・フットサルのルールと試合方法を理解する。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅡ（ソフトボール）	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度、意欲、関心（授業振り返りシート） ・技能テストや試合中の動き		
学 期	学習内容	学習のねらい	
前後期	・特性とルールの解説 ・バットの使い方（握り・振り方） ・ゴロやフライの捕り方 ・簡易ゲームとルールの習得 ・ゴロやフライの捕り方 ・スリングショット投法やウィンドミル ・投法の練習とファーストピッチゲーム ・ゲーム	・基礎的技術の習得を中心に展開し、各人の技術向上の楽しさ、ソフトボールを楽しむ姿勢を身に付け、生涯スポーツとしてのソフトボールを理解する。 ・スローピッチで簡単なゲームを通してソフトボールを楽しむ、ルールの理解を進める。・基礎的技術の習得を中心に展開し、各人の技術向上の楽しさ、ソフトボールを楽しむ姿勢を身に付け、生涯スポーツとしてのソフトボールを理解する。 ・これまでの基本動作をいかして、スピードあるゲームができるようにする。 ・チーム内で役割を決め、正式なルールでゲームを行う。 ・状況（点差、アウトカウント、打順など）に応じた守備体系を敷いて、攻撃方法を選択できるようにし、ゲームに勝利できることを目指す	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組む、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅡ (バスケットボール)	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使用教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価基準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度・取り組み ・自己目標設定シートの内容 ・技能テスト		
学 期	学習内容	学習のねらい	
前後期	・ボールハンドリング ・シュート・ドリブル ・1 on 1、2 on 2、3 on 3 ・複数人での動き ・ミニゲーム ・4 on 4、5 on 5 ・ゲーム ・技能テスト1（ボールハンドリング） ・技能テスト2（ゴール下シュート） ・技能テスト3（ランニングシュート） ・技能テスト4（フリースロー） ・技能テスト5（ゲーム）	・ハンドリングとドリブルでボールに慣れる。 ・シュートを入れる楽しさを体験させ、バスケットボールに対する意欲・興味・関心を養う。 ・ボールを受けるための動きや、フェイク、スクリーンプレイなどゲームで起こる動きを習得する。 ・動きの中でシュートを打てるようにする。 ・対人練習やミニゲームを行い、試合に近い環境でシュートが打てるようにする。 ・ミニゲームで仲間と協力する大切さを学び、仲間を信じる心を育成する。 ・対人練習でより試合に近い状態で攻守ができるようにする。 ・バスケットボールのルールを覚え、安全かつ公正にプレイできるようにする。 ・技能テストで個々の進捗状況を確認する。 ・技能テスト5では協調性、積極性に重点を置き、個々に目標を設定させ、全員が頑張れる環境を作る。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組む、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅡ（バドミントン）	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使用教材	ポスト・ネット・ラケット・シャトル・ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度、振り返りシート ・学習カードの内容 ・技能テストや競技会		
学 期	学習内容	学習のねらい	
前後期	基本技術の習得 1、用具の名称及び特性を理解する。 2、手首の使い方を理解する。 ・フォアハンド（回内） ・バックハンド（回外） 3、各種ストロークを理解する。 ・オーバーヘッドストローク（フォア・バック） ・サイドハンドストローク（フォア・バック） ・アンダーハンドストローク（フォア・バック） 4、各種フライトを理解する。 ・クリアー（ハイ、ドライブイング） ・ロブ ・ドロップ、カット ・スマッシュ ・ドライブ ・ネット ※ 上記フライトのストレート、クロス	・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、用具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 ・バドミントンの基本的な技能を知り、基本技能の獲得のために、互いに補助をして、積極的に練習に取り組む。 ・各種の技の特性を知り、グリップ・手首の使い方や肘の使い方など、基本となる動作を系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 ・サーブ、ドライブ、クリアー、カット、ドロップ、スマッシュ、ネット、ロブなど基本的なフライトを安定して打てるようにする。 ・バドミントンの技能を、系統的に理解する。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。	

前後期	・規則的な動きのなかでコート奥やネット前からのストロークを使ってラリーをする。 ・簡易ゲーム 1、ドロップ・ヘアピン・ロブ交互 2、スマッシュ・ブロック・ロブ交互 3、ドロップ&ヘアピン 4、半面シングルス ・ラリーポイント2分間ゲーム ・ラリーポイント2分間エレベーターゲーム ルールの習得及びゲーム 1、半面シングルスゲーム 2、全面シングルスゲーム	・自己の能力に応じて技能を高め、正しいフォームで基礎技術を応用して、一か所からいろいろなショットが打てるようにする。 ・規則的な動きのなかで、コート奥やネット前からフライトを使ってラリーをできるようにする。 ・バドミントンの正しい体の使い方・フットワークができるようにする。 ・バドミントンの応用的な技能を、系統的に理解し、試合を意識してショットを打ち分けることができる。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・半面シングルスなど簡単なゲームが出来るようにする。 ・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、器械・器具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 ・バドミントンのルールを知り、審判が出来るようにする。互いに補助して、積極的に練習に取り組む。 ・各種の技能を高め、基本となる技から順を追って系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 ・基本技能・応用技能を駆使して、半面シングルスなどの簡易ゲームやシングルの試合が出来るようにする。 ・バドミントンのゲームを理解し、戦術を使ってゲームが出来るようにする。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	体育・スポーツⅡ (バレーボール)	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えられている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・技能テストや試合中の動き ・授業ノート ・授業計画内容、指導法		
学 期	学習内容	学習のねらい	
前後期	・特性とルールの解説 ・個人技能の練習（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス） ・対人パスの練習 ・スパイクフォームの導入	・バレーボールの特性を理解し、ゲームに必要な基本技術を身につける。 ・相手が次にプレーしやすいようなボールの出し方を工夫できるようにする。 ・スパイクフォームを理解する。	
	・スパイクの初期動作の練習 ・速攻スパイクの習得 ・直上トスを上げてのスパイク練習 ・サーブの練習	・スパイクの技術に必要な3歩助走を理解する ・難易度の低いボールをスパイクする感覚をつかむため、速攻（Aクイック）から行う。 ・オーバーハンドパスの技術を応用した直上トスを味方が打ちやすい高さに上げる意識をもつ。 ・サーブの重要性について理解する。	
	・ローテーションの理解 ・ゲーム（25点先取ラリーポイント制）	・チーム内で役割を決め、正式なルールでゲームを行う。 ・状況に応じた守備体系を敷き、攻撃方法を工夫できるようにする。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで主体的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅡ (ハンドボール)		単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）			
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生など に対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・技能テストや試合中の動き ・授業ノート ・授業計画内容、指導法			
学 期	学習内容		学習のねらい	
前後期	・多様なパス&キャッチの技術練習 ・フェイントからずらしてパス ・多様なシュートの技術練習 ・速攻（スリークロス） ・ミニゲーム		・ゴール型のスポーツであるハンドボールの特性とルールを理解し、多様でその場に適したパス、ドリブル、シュートを身に付ける。 ・速攻での攻防ができるようにする。	
	・攻防練習（1 対 1～4 対 4） ・連続速攻（3 対 3～5 対 5） ・ゲーム		・これまでの基本動作を活かして、自分たちで指導計画を立て、授業を行う。また、自己評価及び他者評価を行い、次時への活動に活かせるようになる。 ・授業担当者に協力をしながら、全員で授業を作り上げていくことの面白さを知り、さらなる向上を目指し、次時の授業担当者が指導計画を立てられるようになる。 ・ゲームを行う。ルールを正しく理解するとともにチームワークの大切さを学ぶ。	
	・攻防練習（6 対 6） ・連続速攻（5 対 6、6 対 6） ・ゲーム		・対戦相手に応じたディフェンス隊形やフォーメーションを工夫し、攻防のかけひきを楽しむとともに、勝敗に対して公正な態度を身につける。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②チーム内でのミーティングでは積極的に意見を述べ、授業内容、目標を理解する。 ③場面に応じた自分の役割を果たす。 ④安全面に配慮し、ルールを守る。 ⑤仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	体育・スポーツⅡ（テニス）		単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）			
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）	
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・学習カードの内容 ・授業計画内容、指導法 ・技能テストやゲーム中の態度			
学 期	学習内容		学習のねらい	
前後期	・簡易ゲーム（ダブルス）		状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。 （１）ゲームのルールを理解し、ダブルスでゲーム形式の練習をすることができる。 （２）ラリーのコースを変化させ、角度のあるショットを打つことにより空間を作り出すことができる。	
	・簡易ゲーム（シングルス）		状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。 （１）ゲームのルールを理解し、シングルスでゲーム形式の練習をすることができる。 （２）ラリーのコースを変化させ、角度のあるショットを打つことにより空間を作り出すことができる。	
	・ゲーム（シングルス）		状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。 （１）ゲームのルールを理解し、シングルスでゲームをすることができる。 （２）ネットに近づいてプレーするなど、相手を時間的に追い詰める戦術を持ってゲームをすることができる。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	体育・スポーツⅡ（卓球）	単位数 2 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	ネット・クリップ・卓球台・ラケット・ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えていく。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生など に対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・学習カードの内容 ・授業計画内容、指導法 ・技能テストやゲーム中の態度		
学 期	学習内容		学習のねらい
前後期	基本技術の習得 1. 用具の名称及び特性を理解する。 2. ラケットの持ち方や振り方を理解する。 3. 各種ストロークを理解する。 ・フォアハンドストローク ・ハーフボレー（シェイクハンド） ・ショート（ペンホルダー） ・ツッツキ（フォア・バック） ・スマッシュ・ドライブ・ナックル ・ストップ・ショートカット ・トップ打ち・逆クロス 4. サーブの打ち方を理解する。 5. ルールを理解し簡易ゲームができるようになる。		・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、用具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 ・卓球の基本的な技能を知り、基本技能の獲得のために、互いに補助をして、積極的に練習に取り組む。 ・各種の技の特性を知り、フットワークを使いながら、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 ・基本的な球種を安定して打てるようにする。 ・卓球の技能を、系統的に理解する。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・卓球のルールを理解し、相互に審判をやりながら協力して簡易ゲームが出来るようになる。

	・相手の動きを見ながら、様々な球種を使い分けストロークをフットワークをいかした攻防を展開する。	・自己の能力に応じて技能を高め、正しいフォームで基礎技術を応用して、お互いが打ち合えるようにする。 ・卓球の正しい体の使い方・フットワークができるようにする ・卓球の応用的な技能を、系統的に理解し、試合を意識してストロークを打ち分けることができる。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・シングルスゲームができるようにする。
前後期	1. ダブルスのルールの習得とゲーム	・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、器械・器具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 ・卓球のルールを知り、審判が出来るようにする。互いに補助して、積極的に練習に取り組む。 ・各種の技能を高め、基本となる技から順を追って系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 ・基本技能・応用技能を駆使して、ダブルスの試合が出来るようにする。 ・ダブルスのゲームを理解し、パートナーと協力しながら戦術を使ってゲームが出来るようにする。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	体育・スポーツⅢ	単位数 1 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館） なぎなた教室(全日本なぎなた連盟)		
評価の観点・評価基準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(主体的に学習に取り組む態度)
	武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度 ・技能テストや試合内容		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	なぎなたとは：歴史や特性 なぎなたの構造 礼儀作法：座礼・立礼 基本動作：構え、体さばき 打ち返し：打ち方、受け方 しかけ応じ：1本目、2本目		基本となる技能の習得と武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重するなど礼儀作法を重視する。基本練習については一斉学習形態とし、安全に留意しながら楽しく行えるようにする。
2	復習：打ち方、受け方1本目、2本目 基本動作：振り返し しかけ応じ：4本目 基本動作：脇構え、胴打ち しかけ応じ：3本目、5本目		1学期に行ったことから引き続き基本練習を一斉学習形態で行い、打ち返し・しかけ応じに関してはペアで行い、相手の動きをよく見て応じるといった動作が加わる。 振り返し動作を習得した後、4本目を行い、胴打ち・横ぶりの動作を習得した後、3本目・5本目を行う。柄で払うというなぎなたの独特な動作も習得していく。
3	しかけ応じ：1本目～5本目を連続で行う 演技競技：しかけ応じを試合形式で行う		2学期に行ったことから引き続き基本練習を一世学習形態で行い、しかけ応じは1本目～5本目までを通して行う。その後、試合の方法や規則等を学習し、ペアで3本を決め試合形式や演技発表を行う。目的にあわせて楽しく安全に行えるようにする。試合の結果にとらわれることなく試合や試合までの過程を大切に出来る態度を育てるようにする。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅢ	単位数 1 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進、及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価基準	（関心・意欲・態度）	（思考・判断）	（主体的に学習に取り組む態度）
	武道及び諸外国の対人的競技等の推進、及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	武道及び諸外国の対人的競技等における自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な 行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進、及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度 ・技能テストや試合中の動き		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	〔 武道 〕 柔 道 柔道の歴史 礼法 受け身 投げ技	基本的な技能を身に付け、試合ができるように積極的に練習するとともに、武道に対する伝統的な考え方や武道の歴史・礼儀作法についても学習する。 受身（前・後ろ・横・前周り）について身につけていくようにする。	
2	柔 道 受け身 投げ技 抑え込み技 試合 柔道ルール	投げ技、抑え込み技の「反復練習（打ち込み）」や「投げ込み練習」、「乱取り練習」を通して、さまざまな技を身に付け、作り、崩し、投げるという一連の動作を身に付ける。武道の運動特性である素手で相手と組み合うことを理解し、今まで身に付けたことを試合において発揮する。また、「礼」などの礼法についても正しい知識をもつ。	
3	柔 道 試合 柔道のルール	武道の運動特性である素手で相手と組み合うことを理解し、今まで身につけたことを試合において発揮する。また、「礼」などの礼法についても正しい知識をもつ。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅤ(必履修)	単位数 1 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	自然との関わりの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	自然との関わりの深い野外の運動における自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	自然との関わりの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	事前指導、実習中の態度、習得技術、実習のしおりの記入状況等を総合的に判断する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ スノーボード実習の意義 ・ 基本動作を理解する 重心移動とバランス 適切な停止動作		実習の意義について理解する。 基本動作をしっかり身につける。
2	・ 安全なスピードコントロール ・ ボード操作 ・ バランス ・ 連続ターン		グループを構成し、様々な役割分担を決定し、協力して実習を実施する。 基本的な技術をしっかり身につける。
3	・ 寒冷地での健康・安全 ・ 緊急時の行動と対応 ・ 応急処置 ・ 現地実習 安定したボード操作 小さめのターン弧 安全なスピードのコントロール		自然・雪山・寒冷地での行動や天候にあわせた行動選択の重要性と知識を理解する。 基本の技術の習得と実践により楽しさを理解する。
学習上の留意点	・ 学校外の施設を利用するため、集団行動に努めること。 ・ 体調管理に努め、学習に主体的に取り組むこと。 ・ 実習日誌の記入を忘れず、提出期限を守ること。		

教科・科目	体育・スポーツVI(必履修)	単位数 1 単位	履修学年 2年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使用教材	ラダー・プライオメトリックス・スタビライゼーショントレーニング		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につける。	体づくり運動における自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度 ・運動への取り組み姿勢 ・体力測定の方法、課題解決の方法		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	*新体力テスト *握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ *柔軟性の確保 *静的ストレッチによる基礎的な柔軟性 *動的ストレッチによる動きの柔軟性 *股関節周囲の柔軟性 *ラダー 巧緻性 *瞬発力 - プライオメトリックス *体幹トレーニング - スタビライゼーション	*体力・運動能力の現状を確かめる。 *結果を分析し、不足している能力を高めるためにいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるようにする。 *怪我の原因にもなる身体の柔軟性を身に付ける。 *基本であるウォーミングアップをしっかりと行い習慣づける。 *競技力を向上させるためには自己管理が必要であるということを理解すると同時に自ら積極的に行う。 *股関節と肩甲骨の重要性を理解する。	
2	*体幹を強化 *腹筋、背筋群を重点的に *重心の安定性 *調整力を養う *四肢の連動性 (手足をリズム良く動かす。) *トレーニング	*ただ単に身体を動かすのではなく、体幹を意識した状態で行う。そのことにより、より高いトレーニング効果が得られる。 *種目の狙いと自身が行っているものが一致し、目的にあったトレーニングができるかを確認する。 *重心が安定することで身体に軸ができる。 *ラダートレーニングにより升目足を入れることができしっかりと目的ができる。 *手と足を自由に動かせることを目的とする。 *神経・筋系の協調性も重要な要素である。 *運動処方を学ぶ。自分にあった負荷の設定と反復回数、時間設定によってより高いトレーニング効果を学ぶ。 *種目の狙いと自身が行っているものが一致し、	

	ウェートトレーニング サーキットトレーニング	目的にあったトレーニングができるかを確認する。
3	* 持久力を養う * 持久力・・・持久走 男子 4 k m 女子 3. 7 5 k m * トレーニングの実践	* 自己に適したペースを維持して走る。 * リズミカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走る。 * 呼吸を楽にしたり、走りのリズミカルを作ったりする呼吸法を取り入れて走る。
学習上の 留意点	・ 普段の授業の実技を中心に評価する。 ・ すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・ 服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・ 貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・ また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ① 自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ② 安全面に配慮し、ルールを守る。 ③ 仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	スポーツ総合演習(必履修)		単位数 1 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。			
使 用 教 材	必要なプリント等の教材を使用、ステップアップ高校スポーツ【大修館】			
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身につけている。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組もうとしている。	
評価方法	課題の評価・授業中の取り組み・意欲 課題研究・プレゼンテーション			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	課題研究・実習		・スポーツ教室などの運営・管理を通し「指導者や管理者としてスポーツを支える」という視点でスポーツにかかわることができる。 ・自らが指導者としてスポーツ活動を運営できるように計画を立案し、実施することができる。	
2	課題研究・実習		・スポーツ教室などの運営・管理を通し「指導者や管理者としてスポーツを支える」という視点でスポーツにかかわることができる。 ・小学校との連携授業などを通し、対象者に応じた指導方法などを計画することができる。	
3	課題研究・実習		・スポーツ教室などの運営・管理を通し「指導者や管理者としてスポーツを支える」という視点でスポーツにかかわることができる。 ・連携授業などのフィードバックを行い、今後のスポーツ教室などの運営・管理に活かすことができる。	
学習上の留意点	・3年生の課題研究に向けての取り組みを中心に展開していく。 特に、オープンスクールや学校説明会で、体育科の取り組みを発表する。 ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	体育・専攻実技（学校設定科目）	単位数 4 単位	履修学年 2 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身につける。		
使用教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	各種の特性に応じた集団的技術や個人的技術の構造、技能を高めるための練習方法を選択して計画を立てることができ、課題を持って互いに協力して計画的な練習ができている。	個や集団の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して練習の仕方や試合を工夫している。	専攻種目に対し研究心が旺盛であり、互いに相手を尊重して公正な態度で練習や試合を進んで取り組もうとしている。
評価方法	・授業態度（関心・意欲・態度） ・技能テストや記録会、発表会 ・ゲーム形式での実践応用力や動き		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	＊オリエンテーション ＊専門的体力養成 ＊応用技術習得 開講講座で、応用となる技術習得に向けて取り組む。スキルレベルにあった応用技術の習得をさせる。	＊開講された講座の中から、各自講座選択をおこなう。 ＊各講座の専門的体力を応用技術習得に向け、さらに発展させる。 ＊各講座において基礎技術や体力を活かし、応用技術やチームプレーの練習をすることによって、より高度な技術を習得する。	
2	＊専門的体力養成 ＊応用技能の上達 ＊戦略・戦術の理解	＊各講座で必要な専門的体力をよりハードに自分を追い込み積極的に取り組む。 ＊技能として習得した技術を自動化の段階まで引き上げる。 ＊各講座の大会、試合に向けた戦略・戦術を高めた応用技能をもとに理解する。	
3	＊専門的体力養成 ＊応用技能の上達 ＊戦略・戦術の実践	＊各自が設定した体力レベルまで計画的にトレーニングすることができる。 ＊自動化の段階まで進んだ技能を熟練者レベルまで引き上げて、安定した動作にさせる。 ＊実践を通して、理解した戦略・戦術を確立させる。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。 ・忘れ物がないように心がけること。 ・ノート・プリントの記入整理をし、各授業後に提出すること。		

教科・科目	体育・スポーツ概論（必履修）	単位数 1 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	基礎から学ぶスポーツ概論（大修館書店）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方について理解するとともに、スポーツの必要性や体づくり運動の実践の効果、運動の学び方を理解し、知識を身につけている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方について、スポーツの意義や学び方を考え、自己の体力向上に効果的な運動の構成を作成でき、生涯にわたって実践しようと考え、工夫している。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方について関心をもち、生涯にわたって運動に親しみ運動の実践に生かそうと主体的に学習に取り組もうとしている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・プリント、課題の内容、提出状況 ・研究発表		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	研究課題を決めグループを作り各グループにて研究・発表の計画を行う。 研究内容に沿って協力し研究を進めていく。 その中でデータ収集、記録測定等計画的に進め毎時間まとめる。	1、2年次に学習した内容を活かし、同じ研究テーマを持った仲間と課題を決め研究に努める。 毎時間授業後に研究した内容を報告する。 学期末に1学期の成果を文書ファイル（ワード）にまとめ提出する。	
2	研究課題を決めグループを作り各グループにて研究・発表の計画を行う。 研究内容に沿って協力し研究を進めていく。 その中でデータ収集、記録測定等計画的に進め毎時間まとめる。 パワーポイントを活用し発表内容をまとめる。	1、2年次に学習した内容を活かし、同じ研究テーマを持った仲間と課題を決め研究に努める。 毎時間授業後に研究した内容を報告する。 ワード、パワーポイントなどのアプリケーションソフトを活用し、研究内容をまとめて提出する。	
3	1、2学期で行った研究をまとめ、課題研究発表を行う。	各グループでまとめた研究課題を他のグループに発表することで、幅広い知識の習得につなげる。	
学習上の留意点	・課題研究を中心に展開していく。 ・教科書を活かしていく。 ・忘れ物がないように心がけること。 ・各グループでまとめた物の提出期限を守ること。		

教科・科目	体育・スポーツⅠ（器械運動）	単位数 1 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	体操競技用器具・その他補助用器具等 ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度 ・学習カードの内容 ・技能テストや競技会		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	[器械運動] 平均台運動 [水泳競技] 背泳ぎ		・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、器械・器具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 (1) 平均台運動の技能を知り、技能の獲得のために、互いに補助して、積極的に練習に取り組む。 (2) 各種の技の特性を知り、基本となる技から順を追って系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 (3) 体操系、バランス系、回転系の基礎的な技能を身につけた後、自己の能力に応じて、さらに発展した技能を身につけ、それらを組み合わせた演技をする。 (4) 平均台運動の技を、系統的に理解する。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・自己の能力に応じて技能を高め、正しいフォームで速く、また長く泳ぐことができるようにする。互いに協力して練習するとともに、事故を防止して、安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や競泳の仕方が工夫できるようにする。 (1) 陸上運動とは異なる、水中という環境の中で水の特性をつかみ、積極的に泳法を学び取る。 (2) 速く、また長く泳ぐために効果的な練習を、自己の能力に応じて考えながら実行する。 (3) ビート板などの補助器具を用いるなどして、足の動き、手の動き、息継ぎなどの基礎的な動きを身につける。手と足のコンビネーション、手の動作と呼吸のタイミングなどの技能を習得し、正しいフォームで速く・長く泳ぐ。 (4) 背泳ぎの技能について、正しいイメージをもつ。安全面の配慮を、心肺蘇生法などとも関連させながら理解する。

3	[器械運動] トランポリン	・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、器械・器具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 (1) トランポリンの技能を知り、技能の獲得のために、互いに補助して、積極的に練習に取り組む。 (2) 各種の技の特性を知り、基本となる技から順を追って系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 (3) ジャンプ系、回転系の基礎的な技能を身につけた後、自己の能力に応じて、さらに発展した技能を身につけ、それらを組み合わせた演技をする。 (4) トランポリンの技を、系統的に理解する。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	体育・スポーツⅠ（陸上競技）	単位数	1 単位	履修学年	3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
使 用 教 材	陸上競技用具・その他補助用具等 ステップアップ高校スポーツ（大修館）				
評価の観点 ・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）		
	採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。		
評価方法	・授業態度 ・学習カードの内容 ・技能テストや記録会				
学 期	学習内容		学習のねらい		
1	[陸上競技] ハードル [水泳競技] 背泳ぎ		・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1) ハードル走を速く走るために、どのようなフォームで走ればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2) 速く走るために、効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて考えながら実行する。 (3) ハードルを越える動作、中間走の動作を連続性を持って捉え、有効な動きを身につける。 (4) 速く走るために必要な体力を高めるための、効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。 ・自己の記録を向上するための各種の技能を高め、記録の向上の喜びや競争の楽しさを味わうことができるようにする。また、科学的な練習法や様々なトレーニング方法について習得する。さらに、競技規則を理解し審判法についても習得する。		

2	[陸上競技] やり投げ	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1)やり投について、より遠くに飛ばすために、どのようなフォームで投げればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2)遠くに飛ばすために、効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。周囲の人に危険が及ばないか十分に注意しながら、練習を行おうとする。 (3)助走から投げるまでの一連の動作を、スムーズに行う。 (4)遠くに投げるために必要な体力を高めるための、効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。
3	長距離走	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 (1)長距離走を速く走るために、どのようなフォームで走ればよいか、どのような技能が必要であるか、また、どのようなトレーニングが効果的かなど、積極的に調べ取り組む。 (2)速く走るために効果的な練習を、自己や集団の能力に応じて、考えながら実行する。 (3)短距離走とは異なる、ストライド走法、ピッチ走法などから、自分にあったフォームを取り入れ、ペース配分などを考えながら走る。 (4)長く走るために必要な体力を高めるための効果的な練習法やトレーニングについて、正しい知識をもつ。
学習上の 留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	体育・スポーツⅡ（サッカー）	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使用教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度・取り組み ・技能テストや試合中の動きや戦績 ・自己目標設定シートの内容 ・指導案と実践の内容		
学 期	学習内容	学習のねらい	
前後期	・ボールフィーリング&ドリブル ・パス&コントロール ・多彩なパス・シュート ・指導案作成 ・個人戦術（攻撃・守備） ・ポゼッション ・ゴール前の攻防 ・簡易ゲーム ・指導実践 ・フットサル ・ゲーム	・基本的な技能を身につけるとともに、それを集団的な技能に結びつけるための練習を積極的に行う。 ・ドリブル・パス・シュートの基礎的な技能を身につける。 ・上記の内容を指導する為の、指導案を作成する。 ・これまでの基本動作をいかして、攻防ができるようにする。 ・ゲーム中の具体的な攻防の場面を想定し、互いに協力して有効な動きを身につける。 ・ゴールへのシュートを競い合うゲームの特性と技能の構造を正しく理解する。 ・上記のことを、デモンストレーションや作戦板等を利用し、理解させ指導する。 ・フットサルのルールと試合方法を理解する。 ・ゲームを行う。ルールを正しく理解するとともにチームワークの大切さを学ぶ。 ・試合の運営を考え実践する。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅡ (ソフトボール)		単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）			
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	
評価方法	・授業態度、意欲、関心（振り返りシート） ・技能テストや試合中の動き			
学 期	学習内容		学習のねらい	
前後期	・強いゴロや大きなフライの捕り方 ・スリングショット投法やウィンドミル投法の練習とファーストピッチゲーム ・ゲーム		・2年次に習得した基礎的技術の習得を中心に展開し、各人の技術向上の楽しさ、ソフトボールを楽しむ姿勢を身に付け、生涯スポーツとしてのソフトボールを理解する。 ・これまでの基本動作をいかして、2年次以上にスピードあるゲームができるようにする。 ・これまでの経験を生かして2年生に技術的な指導ができるようになる。 ・チーム内で役割を決め、正式なルールでゲームを行う。 ・状況（点差、アウトカウント、打順など）に応じた守備体系を敷いて、攻撃方法を選択できるようにし、ゲームに勝利できることを目指す。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	体育・スポーツⅡ（テニス）		単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）			
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）	
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生など に対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・学習カードの内容 ・授業計画内容、指導法 ・技能テストやゲーム中の態度			
学 期	学習内容		学習のねらい	
前後期	・簡易ゲーム（ダブルス）		状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。 （１）ゲームのルールを理解し、ダブルスでゲーム形式の練習をすることができる。 （２）ラリーのコースを変化させ、角度のあるショットを打つことにより空間を作り出すことができる。	
	・簡易ゲーム（シングルス）		状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。 （１）ゲームのルールを理解し、シングルスでゲーム形式の練習をすることができる。 （２）ラリーのコースを変化させ、角度のあるショットを打つことにより空間を作り出すことができる。	
	・ゲーム（シングルス）		状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。 （１）ゲームのルールを理解し、シングルスでゲームをすることができる。 （２）ネットに近づいてプレーするなど、相手を時間的に追い詰める戦術を持ってゲームをすることができる。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	体育・スポーツⅡ（バスケットボール）	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生など に対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度・取り組み ・技能テスト ・自己目標設定シートの内容 ・指導案と実践の内容		
学 期	学習内容		学習のねらい
前後期	・ボールハンドリング ・基本的なシュート ・ドリブル ・複数人での動き ・ミニゲーム ・ゲーム（3 on 3、5 on 5） ・指導案作成 ・指導実践 ・技能テスト1（ボールハンドリング） ・技能テスト2（ゴール下シュート） ・技能テスト3（ランニングシュート） ・技能テスト4（フリースロー） ・技能テスト5（ゲーム）		・ハンドリングとドリブルでボールに慣れる。 ・シュートを入れる楽しさを体験させ、バスケットボールに対する意欲・興味・関心を養う。 ・動きの中でシュートを打てるようにする。 ・対人練習やミニゲームを行い、試合に近い環境でシュートが打てるようにする。 ・ミニゲームで仲間と協力する大切さを学び、仲間を信じる心を育成する。 ・バスケットボールのルールを覚え、安全かつ公正にプレイできるようにする。 ・ゲームを通して仲間と協力することの大切さを学ぶ。 ・技能テストで個々の進捗状況を確認する。 ・ゲームの計画・審判・運営が出来るようになる。 ・技能テスト5では協調性、積極性に重点を置き、個々に目標を設定させ、全員が頑張れる環境を作る。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅡ（バドミントン）	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使用教材	ポスト・ネット・ラケット・シャトルcock・ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度、振り返りシート ・学習カードの内容 ・技能テストや競技会		
学 期	学習内容	学習のねらい	
	基本技術の習得 1、用具の名称及び特性を理解する。 2、手首の使い方を理解する。 ・フォアハンド（回内） ・バックハンド（回外） 3、各種ストロークを理解する。 ・オーバーヘッドストローク（フォア・バック） ・サイドハンドストローク（フォア・バック） ・アンダーハンドストローク（フォア・バック） 4、各種フライトを理解する。 ・クリアー（ハイ、ドライブイング） ・ロブ ・ドロップ、カット ・スマッシュ ・ドライブ ・ネット ※上記フライトのストレート、クロス 5、ルールを理解し、簡易ゲームが出来るようにする。 半面シングルス	・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、用具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 ・バドミントンの基本的な技能を知り、基本技能の獲得のために、互いに補助をして、積極的に練習に取り組む。 ・各種の技の特性を知り、グリップ・手首の使い方や肘の使い方など、基本となる動作を系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 ・サーブ、ドライブ、クリアー、カット、ドロップ、スマッシュ、ネット、ロブなど基本的なフライトを安定して打てるようにする。 ・バドミントンの技能を、系統的に理解する。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・バドミントンのルールを理解し、相互に審判をやりながら協力して簡易ゲームが出来るようになる。	

前後期	応用技術の習得 1、打ち合いによる練習 ・クリアーの打ち合い ・ドロップ・ヘアピン・ロブ ・スマッシュ・ブロック・ロブ ・ドロップ・アンド・ヘアピン ・ドライブの打ち合い 2、ノックによる練習 ・オールカット・ドロップ ・オールスマッシュ ・カット・ドロップアンドネット ・スマッシュアンドネット ・全面シングルスノック ・全面ダブルスノック 3、ゲーム ・ラリーポイント2分間ゲーム ・ラリーポイント2分間エレベーターゲーム 1、ゲーム ・全面シングルスゲーム ・半面ダブルスゲーム ・全面ダブルスゲーム ・団体戦	・自己の能力に応じて技能を高め、正しいフォームで基礎技術を応用して、お互いが打ち合えるようにする。 ・1つのフライト及び複数のフライトを決まった場所に打てるようになる。 ・フットワークを使って動きながら、打てるようになる。 ・ミスをしないうちに、長く続けられるようになる。 ・バドミントンの正しい体の使い方・フットワークができるようにする。 ・バドミントンの応用的な技能を、系統的に理解し、試合を意識してショットを打ち分けることができる。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・お互いが審判をしながら、半面シングルス・1点ゲームなど簡単なゲームが出来るようにする。 ・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、器械・器具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 ・バドミントンのルールを知り、審判が出来るようにする。互いに補助して、積極的に練習に取り組む。 ・各種の技能を高め、基本となる技から順を追って系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 ・基本技能・応用技能を駆使して、半面シングルスなどの簡易ゲームやシングルス、ダブルスの試合が出来るようにする。 ・バドミントンのゲームを理解し、戦術を使ってゲームが出来るようにする。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・2年生への技術指導ができるようになる。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	体育・スポーツⅡ (バレーボール)		単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
使用教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）			
評価の観点・評価基準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・技能テストや試合中の動き ・授業ノート ・授業計画内容、指導法			
学 期	学習内容		学習のねらい	
前後期	・特性とルールの解説 ・個人技能の練習 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) ・対人パスの練習 ・スパイクフォームの導入 ・スパイクの初期動作の練習 ・速攻スパイクの習得 ・直上トスを上げてのスパイク練習 ・サーブの練習 ・ローテーションの理解 ・ゲーム（25点先取ラリーポイント制）		・バレーボールの特性を理解し、ゲームに必要な基本技術を身に付ける。 ・相手が次にプレーしやすいようなボールの出し方を工夫できるようにする。 ・スパイクフォームを理解する。 ・スパイクの技術に必要な3歩助走を理解する。 ・難易度の低いボールをスパイクする感覚をつかむため、速攻（Ａクイック）から行う。 ・オーバーハンドパスの技術を応用した直上トスを味方が打ちやすい高さに上げる意識をもつ。 ・サーブの重要性について理解する。 ・目標に合わせた練習を組み立て実践出来るようになる。 ・チーム内で役割を決め、正式なルールでゲームを行う。 ・状況に応じた守備体系を敷いて、攻撃方法を工夫できるようにする。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	体育・スポーツⅡ (ハンドボール)		単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）			
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・技能テストや試合中の動き ・授業ノート ・授業計画内容、指導法			
学 期	学習内容		学習のねらい	
前後期	- 多様なパス&キャッチの技術練習 - フェイントからずらしてパス - 多様なシュートの技術練習 - 速攻（スリークロス） - ミニゲーム - 攻防練習（1 対 1～4 対 4） - 連続速攻（3 対 3～5 対 5） - ゲーム - 攻防練習（6 対 6） - 連続速攻（5 対 6、6 対 6） - ゲーム		- ゴール型のスポーツであるハンドボールの特性とルールを理解し、多様でその場に適したパス、ドリブル、シュートを身に付ける。 - 速攻での攻防ができるようにする。 - これまでの基本動作を活かして、自分たちで指導計画を立て、授業を行う。また、自己評価及び他者評価を行い、次時への活動に活かせるようになる。 - 授業担当者に協力をしながら、全員で授業を作り上げていくことの面白さを知り、さらなる向上を目指し、次時の授業担当者が指導計画を立てられるようになる。 - ゲームを行う。ルールを正しく理解するとともにチームワークの大切さを学ぶ。 - 対戦相手に応じたディフェンス隊形やフォーメーションを工夫し、攻防のかけひきを楽しむとともに、勝敗に対して公正な態度を身につける。	
学習上の留意点	- 普段の授業の実技を中心に評価する。 - すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 - 服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 - 貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） - また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②チーム内でのミーティングでは積極的に意見を述べ、授業内容、目標を理解する。 ③場面に応じた自分の役割を果たす。 ④安全面に配慮し、ルールを守る。 ⑤仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	体育・スポーツⅡ（卓球）	単位数 2 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	ネット・クリップ・卓球台・ラケット・ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・学習カードの内容 ・授業計画内容、指導法 ・技能テストやゲーム中の態度		
学 期	学習内容		学習のねらい
前後期	基本技術の習得 1. 用具の名称及び特性を理解する。 2. ラケットの持ち方や振り方を理解する。 3. 各種ストロークを理解する。 ・フォアハンドストローク ・ハーフボレー（シェイクハンド） ・ショート（ペンホルダー） ・ツッツキ（フォア・バック） ・スマッシュ・ドライブ・ナックル ・ストップ・ショートカット ・トップ打ち・逆クロス 4. サーブの打ち方を理解する。 5. ルールを理解し簡易ゲームができるようになる。		・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、用具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 ・卓球の基本的な技能を知り、基本技能の獲得のために、互いに補助をして、積極的に練習に取り組む。 ・各種の技の特性を知り、フットワークを使いながら、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 ・基本的な球種を安定して打てるようにする。 ・卓球の技能を、系統的に理解する。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・卓球のルールを理解し、相互に審判をやりながら協力して簡易ゲームが出来るようになる。

前後期	・相手の動きを見ながら、様々な球種を使い分けストロークをフットワークをいかした攻防を展開する。 1. ダブルスのルールの習得とゲーム	・自己の能力に応じて技能を高め、正しいフォームで基礎技術を応用して、お互いが打ち合えるようにする。 ・卓球の正しい体の使い方・フットワークができるようにする ・卓球の応用的な技能を、系統的に理解し、試合を意識してストロークを打ち分けることができる。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。 ・シングルのゲームができるようにする。 ・自己の能力に応じて技能を高め、技が円滑にできるようにする。互いに協力したり補助したりし、また、器械・器具を点検して安全に練習ができるようにする。さらに、計画的練習や発表の仕方の工夫ができるようにする。 ・卓球のルールを知り、審判が出来るようにする。互いに補助して、積極的に練習に取り組む。 ・各種の技能を高め、基本となる技から順を追って系統的、計画的に自己の能力に応じて、危険のないように考えながら練習する。 ・基本技能・応用技能を駆使して、ダブルスの試合が出来るようにする。 ・ダブルスのゲームを理解し、パートナーと協力しながら戦術を使ってゲームが出来るようにする。器具の点検、補助の仕方など、安全面での配慮の仕方について正しい知識をもつ。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。	

教科・科目	体育・スポーツⅢ（なぎなた）	単位数 1 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使用教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館） なぎなた教室(全日本なぎなた連盟)		
評価の観点・評価基準	（関心・意欲・態度）	（思考・判断）	（主体的に学習に取り組む態度）
	武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	武道及び諸外国の対人的競技等における自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度 ・技能テストや試合内容		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	礼儀作法：座礼・立礼 基本動作：構え、体さばき、打ち返し 基本打突、応じ方 しかけ応じ：1本目～5本目		2年次での既習のことがらを確認し基本動作を確実に習得する。 礼儀作法については単に形のまねに終わるのではなく（克己）の結果として相手を尊重する心をもって行うようにする。
2	①演技（しかけ応じ） 1本目～5本目 ②リズムなぎなた		1学期に行った基本動作・しかけ応じを活かし、演技班とリズムなぎなた班に別れグループワークを行う。 演技では、ペアで3本を決め試合形式で発表を行うことで、試合のルールやマナーについても学び、なぎなたについてより深く理解をしていく。 リズムなぎなたでは、音楽に合わせなぎなたの特性を活かした技を組み合わせしていく。 3学期の発表に向けて取り組む。
3	グループワーク 演技試合発表 リズムなぎなた発表		演技試合の方法やリズムなぎなたの規則等を工夫してその目的にあわせて楽しく安全に行えるようにする。試合の結果にとらわれることなく試合や試合までの過程を大切に出来る態度を育てるようにする。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅢ（柔道）		単位数 1 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進、及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）			
評価の観点・評価規準	（関心・意欲・態度）	（思考・判断）	（主体的に学習に取り組む態度）	
	武道及び諸外国の対人的競技等の推進、及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な 行動の仕方公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進、及び発展に寄与しようとしている。	
評価方法	・授業態度 ・技能テストや試合中の動き			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	〔 武道 〕 柔 道 柔道の歴史 礼法 受け身 投げ技		基本的な技能を身に付け、試合ができるように積極的に練習するとともに、武道に対する伝統的な考え方や武道の歴史・礼儀作法についても学習する。 受身（前・後ろ・横・前周り）について身につけていくようにする。	
2	柔 道 受け身 投げ技 抑え込み技 試合 柔道ルール		投げ技、抑え込み技の「反復練習（打ち込み）」や「投げ込み練習」、「乱取り練習」を通して、さまざまな技を身につけ、作り、崩し、投げるという一連の動作を身につける。武道の運動特性である素手で相手と組み合うことを理解し、今まで身につけたことを試合において発揮する。また、「礼」などの礼法についても正しい知識をもつ。	
3	柔 道 試合 柔道のルール		武道の運動特性である素手で相手と組み合うことを理解し、今まで身につけたことを試合において発揮する。また、「礼」などの礼法についても正しい知識をもつ。	
学習上の留意点	・ 普段の授業の実技を中心に評価する。 ・ すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・ 服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・ 貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・ また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	体育・スポーツⅣ（ダンス）	単位数 1 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	ダンスの学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生など に対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	・授業態度、意欲、関心 ・発表会で、基本的な技や踊り方 ・創作ダンスでの表現力		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	[ダンス] フォークダンス	踊り方の特徴を強調して、音楽に合わせて多様なステップや動きと組み方で仲間と対応して踊る。	
2	[ダンス] 創作ダンス	表現したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、対極の動きや空間の使い方に変化をつけて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊る。	
3	[ダンス] 現代的なリズムのダンス	リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊る。 交流会や発表会の仕方を工夫し、仲間と一緒に踊ったり作品を発表したり、鑑賞したりできるようにする。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。		

教科・科目	体育・スポーツⅤ(必修)	単位数 1 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	ステップアップ高校スポーツ (大修館)		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	自然との関わりの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。	自然との関わりの深い野外の運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	自然との関わりの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。
評価方法	事前指導、実習中の態度、習得技術、実習のしおりの記入状況等を総合的に判断する。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・水泳実習の意義 ・プールでの救助法 ・応急処置(三角巾)ロープワーク ・AED講習、心肺蘇生法 ・海での救助法		体験を通じて、救助法やロープワークの技術などをしっかり身につける。
2	・水中でのスポーツについて ・資料作成 ・泳力の向上		水中でのスポーツの種類やその特性を理解する。基本的な技術を身につけ泳力の向上を図る。
3	・水中での健康・安全 ・緊急時の行動と対応 ・応急処置		水中での行動や場面にあわせた行動選択の重要性と知識を理解する。 基本の技術の習得と実践により楽しさを理解する。
学習上の留意点	・学校外の施設を利用するため、集団行動に努めること。 ・体調管理に努め、学習に主体的に取り組むこと。 ・実習日誌の記入を忘れず、提出期限を守ること。		

教科・科目	体育・スポーツⅥ(必履修)		単位数 1 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
使 用 教 材	ラダー・プライオメトリックス・スタビライゼーショントレーニング			
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につける。	体づくり運動における自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	
評価方法	・授業態度 ・運動への取り組み姿勢 ・体力測定の仕方、課題解決の方法			
学 期	学習内容		学習のねらい	
1	*新体力テスト *握力・上体起こし・長座体前屈・反復横 跳び・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ *柔軟性の確保 *静的ストレッチによる基礎的な柔軟性 *動的ストレッチによる動きの柔軟性 *股関節周囲の柔軟性		*体力・運動能力の現状を確かめる。 *結果を分析し、不足している能力を高めるためにいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるようにする。 *怪我の原因にもなる身体の柔軟性を身につける。 *基本であるウォーミングアップをしっかりと行い習慣づける。*競技力を向上させるためには自己管理が必要であるということを理解すると同時に自ら積極的に行う。 *股関節と肩甲骨の重要性を理解する。	
2	*体幹を強化 *腹筋、背筋群を重点的に *重心の安定性 *調整力を養う *四肢の連動性 (手足をリズム良く動かす。)		*ただ単に身体を動かすのではなく、体幹を意識した状態で行う。そのことにより、より高いトレーニング効果が得られる。 *種目の狙いと自身が行っているものが一致し、目的にあったトレーニングができるかを確認する。 *重心が安定することで身体に軸ができる。 *ラダートレーニングにより升目足を入れることできっちりとした目的ができる。 *手と足を自由に動かせることを目的とする。 *バランスボールなどの不安定なものを使用することにより、より難易度の高いバランスが求められる。 *クレージーボールを使用することにより反射的な動きを養うことができ、眼で見た情報をすぐに行動に移すことができるようになる。 *神経・筋系の協調性も重要な要素である。	
3	*持久力を養う *持久力・・・持久走 男子 4km 女子 3.75km *トレーニングの実践		*自己に適したペースを維持して走る。 *リズムカルに腕を振り、力みのないフォーム で軽快に走る。 *呼吸を楽にしたり、走りのリズムカルを作ったりする呼吸法を取り入れて走る。	
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。(授業担当者に預ける) ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。			

教科・科目	スポーツ総合演習(必履修)	単位数 1 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使 用 教 材	必要なプリント等の教材を使用、ステップアップ高校スポーツ【大修館】		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身につけている。	スポーツの推進及び発展に必要な自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	課題や作品の評価・授業中の取り組み・意欲 課題研究・プレゼンテーション		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	課題研究・実習 パワーポイント（作品）を用いてプレゼンテーション形式での発表		スポーツ教室などの運営・管理を通し「指導者や管理者としてスポーツを支える」という視点でスポーツにかかわることができる。 自らが指導者としてスポーツ活動を運営できるように計画を立案し、実施することができる。
2	課題研究・実習 パワーポイント（作品）を用いてプレゼンテーション形式での発表		スポーツ教室などの運営・管理を通し「指導者や管理者としてスポーツを支える」という視点でスポーツにかかわることができる。 小学校との連携授業などを通し、対象者に応じた指導方法などを計画することができる。
3	課題研究・プレゼンテーション パワーポイント（作品）を用いてプレゼンテーション形式での発表		3年間の授業実践やスポーツ教室運営で行ったことをまとめ、発表することができる。
学習上の留意点	・課題研究を中心に展開していく。 ・教科書を活かしていく。 ・忘れ物がないように心がけること。 ・各グループでまとめた物の提出期限を守ること。		

教科・科目	体育・専攻実技（学校設定科目）	単位数 4 単位	履修学年 3 年
目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
使用教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
評価の観点・評価規準	（知識・技能）	（思考・判断・表現）	（主体的に学習に取り組む態度）
	各種の特性に応じた集団的技術や個人的技術の構造、技能を高めるための練習方法を選択して計画を立てることができ、課題を持って互いに協力して計画的な練習ができている。	個や集団の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して練習の仕方や試合を工夫している。	専攻種目に対し研究心が旺盛であり、互いに相手を尊重して公正な態度で練習や試合を進んで取り組もうとしている。
評価方法	・授業態度（関心・意欲・態度） ・技能テストや記録会、発表会 ・ゲーム形式での実践応用力や動き		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	*オリエンテーション *専門的体力養成 *応用技術習得 開講講座で、応用となる技術習得に向けて取り組む。スキルレベルにあった応用技術の習得をさせる。		*開講された講座の中から、各自講座選択をおこなう。 *各講座の専門的体力を応用技術習得に向け、さらに発展させる。 *各講座において基礎技術や体力を活かし、応用技術やチームプレーの練習をすることによって、より高度な技術を習得する。
2	*専門的体力養成 *応用技能の上達 *戦略・戦術の理解		*各講座で必要な専門的体力をよりハードに自分を追い込み積極的に取り組む。 *技能として習得した技術を自動化の段階まで引き上げる。 *各講座の大会、試合に向けた戦略・戦術を高めた応用技能をもとに理解する。
3	*専門的体力養成 *応用技能の上達 *戦略・戦術の実践		*各自が設定した体力レベルまで計画的にトレーニングすることができる。 *自動化の段階まで進んだ技能を熟練者レベルまで引き上げて、安定した動作にさせる。 *実践を通して、理解した戦略・戦術を確立させる。
学習上の留意点	・普段の授業の実技を中心に評価する。 ・すみやかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにすること。 ・服装を整え、忘れ物がないように心がけること。 ・貴重品の管理を各自で行うこと。（授業担当者に預ける） ・また、以下のことに注意して授業に取り組むこと。 ①自分から進んで積極的に取り組み、自分の課題に挑戦する。 ②安全面に配慮し、ルールを守る。 ③仲間を大切にし、協力して行う。 ・忘れ物がないように心がけること。 ・ノート・プリントの記入整理をし、各授業後に提出すること。		

教科・科目	総合的な探究の時間(必修)	単位数 1 単位	履修学年 1 年
目 標	本校の目指す学校像「社会に役立つ人材の育成」を実現するため、自分を見つめ、社会を知り、自らの生き方について考える。		
使用教材	防災ノート、プリントなど		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	働くことや職業、社会に存在するあらゆる課題を理解し、様々な職業について調べる中で進路実現のための基礎的な知識を高めている。	様々な職業について調べる中で、自己の適性を知り、他者との関わりの中で自分の能力をどのように発揮できるかを判断し、より具体的な将来像を描けている。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。
評価方法	学習活動の取組状況の他、提出物や発表内容についても評価の対象とする。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1	・学習オリエンテーション ・人権学習① ・キャリアガイダンス①	・学習面を中心に高校での過ごし方や取り組みについて理解する。 ・人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながる姿勢を身につける。 ・自己と進路に関する探索的・体験的諸活動を通じて、自己の生き方と職業の世界への知見を広め、進路に関する発達課題を主体的に達成する能力、態度等を養う。	
2	・防災ノートを活用した学習 ・人権学習② ・キャリアガイダンス②	・地震や津波、台風等による危険や避難方法、家庭での防災対策を知り、自らの命を守るためにはどうすればよいかを考え、行動する力を養う。 ・人権学習①からさらに深めていく。 ・キャリアガイダンス①からさらに深めていく。	
3	・性教育講座 ・キャリアガイダンス③ ・SST(Social Skill Training)	・人間の性を人格の基本的な部分として生理的側面、心理的側面、社会的側面などから総合的にとらえ、科学的知識を与えるとともに、生徒等が生命尊重、人間尊重、男女平等の精神に基づく正しい異性観を養う。 ・キャリアガイダンス①・②に続き、さらに深めていく。 ・他者との関わりなど社会的スキルを伸ばさせる。	

教科・科目	総合的な探究の時間(必修)	単位数 1 単位	履修学年 2 年
目 標	本校の目指す学校像「社会に役立つ人材の育成」を実現するため、自分を見つめ、社会を知り、自らの生き方について考える。		
使用教材	防災ノート、プリントなど		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	働くことや職業、社会に存在するあらゆる課題を理解し、様々な職業について調べる中で進路実現のための基礎的な知識を高めている。	様々な職業について調べる中で、自己の適性を知り、他者との関わりの中で自分の能力をどのように発揮できるかを判断し、より具体的な将来像を描けている。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。
評価方法	学習活動の取組状況の他、提出物や発表内容についても評価の対象とする。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ 学年ガイダンス ・ SST(Social Skill Training) ・ 進路ガイダンス① ・ インターンシップ事前事後指導	・ 学習面、生活面、進路指導等について、2年生での過ごし方や取り組みについて理解する。 ・ 他者との関わりなど社会的スキルを伸ばさせるとともに、他者との協働的な活動の大切さを理解する。 ・ 1年次のキャリアガイダンスを発展させ、探索的・体験的諸活動を通じて、さらに自己の生き方と職業の世界への知見を広め、進路に関する発達課題を主体的に達成する能力、態度等を養う。 ・ インターンシップを通じて仕事や企業、業界、社会への理解をより深めるために、インターンシップでの過ごし方や取り組みについて理解する。	
2	・ 防災ノートを活用した学習 ・ 人権学習① ・ 進路ガイダンス②	・ 地震や津波、台風等による危険や避難方法、家庭での防災対策を知り、自らの命を守るためにはどうすればよいかを考え、行動する力を養う。 ・ 人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながる姿勢を身につける。 ・ 進路ガイダンス①からさらに深めていく。	
3	・ 各種学校、企業見学 ・ 人権学習② ・ 進路ガイダンス③	・ 希望する進路への見学を通じて、働くことや職業、社会に存在するあらゆる課題を理解し、より具体的な将来像をイメージさせる。 ・ 人権学習①からさらに深めていく。 ・ 進路ガイダンス①・②に続き、さらに深めていく。	

教科・科目	総合的な探究の時間(必修)	単位数 1 単位	履修学年 3 年
目 標	本校の目指す学校像「社会に役立つ人材の育成」を実現するため、自分を見つめ、社会を知り、自らの進路希望を実現する。		
使用教材	進路ガイドブック、防災ノート、働くルールブック、プリントなど		
評価の観点 ・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	働くことや職業、社会に存在するあらゆる課題を理解し、様々な職業について調べる中で進路実現のための基礎的な知識を高めている。	様々な職業について調べる中で、自己の適性を知り、他者との関わりの中で自分の能力をどのように発揮できるかを判断し、より具体的な将来像を描けている。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。
評価方法	学習活動の取組状況の他、提出物や発表内容についても評価の対象とする。		
学 期	学習内容		学習のねらい
1	・ 学年ガイダンス ・ SST(Social Skill Training) ・ 進路ガイダンス①	・ 学習面、生活面、進路指導等について、3 年生での過ごし方や取り組みについて理解する。 ・ 他者との関わりなど社会的スキルを伸ばさせるとともに、他者との協働的な活動の大切さを理解する。 ・ 1, 2 年次のキャリアガイダンスを発展させ、探索的・体験的諸活動を通じて、さらに自己の生き方と職業の世界への知見を広め、進路に関する発達課題を主体的に達成する能力、態度等を養う。	
2	・ 防災ノートを活用した学習 ・ 人権学習① ・ 進路ガイダンス② ・ 租税教室 ・ 年金セミナー	・ 地震や津波、台風等による危険や避難方法、家庭での防災対策を知り、自らの命だけでなく他者の命を守るためにはどうすればよいかを考え、行動する力を養う。 ・ 人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながる姿勢を身につける。 ・ 進路ガイダンス①からさらに深めていく。 ・ 租税に関する基本知識を身につけ、社会的責任の意識を高め、法的遵守を促進する。 ・ 年金制度の理解を深め、将来の財政計画や社会人としての貢献意識を育む。	
3	・ 社会人マナー講座 ・ 人権学習② ・ 進路ガイダンス③	・ 「働くルールブック」を用いて、職場や社会で適切な振る舞いやコミュニケーションスキルを身につける。 ・ 人権学習①からさらに深めていく。 ・ 進路ガイダンス①・②に続き、さらに深めていく。	